

基本計画書

基		本						計		画	
事	項	記						入	欄	備	考
計画の区分		学部の設置									
フリガナ設置者		カクコウホウジン キョウトシヨシカクエン 学校法人京都女子学園									
フリガナ大学の名称		キョウトシヨシカク 京都女子大学 (Kyoto Women's University)									
大学本部の位置		京都市東山区今熊野北日吉町35番地									
大学の目的		本学は、仏教精神を基調として徳操を養い、教育基本法に基づき、学校教育法第83条の趣旨による大学教育を施し、温雅高潔な女子を育成することを目的とする。									
新設学部等の目的		技術革新によってICTが社会のあらゆる場面に浸透し、全ての産業がAI・データによって駆動する現代社会においては、複雑化した社会の諸問題を科学的に洞察するためのデータ収集能力、データに基づく実践的な問題解決力を有した人材が求められている。本学部では、ビッグデータ処理等の高度な情報処理技術、データ解析のための統計分析手法、経済学、経営学、社会学等の専門知識を組み合わせ、社会課題の解決・新たな価値の創造に取り組む人材を養成する。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地			
	データサイエンス学部 [Faculty of Data Science] データサイエンス学科 [Department of Data Science] 計	4年	95人	-年次人	380人	学士(データサイエンス) 【Bachelor of Data Science】	令和5年4月 第1年次	京都市東山区今熊野北日吉町35番地			
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		現代社会学部 現代社会学科〔定員減〕 (△40) (令和5年4月)									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数					
	データサイエンス学部 データサイエンス学科	講義	演習	実験・実習	計	132単位					
教員	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等			
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	人	人	
新設	データサイエンス学部 データサイエンス学科		11人 (9)	3人 (3)	2人 (2)	0人 (0)	16人 (14)	0人 (0)	151人 (63)		
	計		11人 (9)	3人 (3)	2人 (2)	0人 (0)	16人 (14)	0人 (0)	-人 (-)		
組織	既		7人 (8)	4人 (4)	1人 (1)	0人 (0)	12人 (13)	0人 (0)	136人 (136)		
	文学部 国文学科		8人 (8)	4人 (4)	0人 (0)	0人 (0)	12人 (12)	0人 (0)	116人 (116)		
	文学部 英文学科		8人 (8)	4人 (4)	0人 (0)	0人 (0)	12人 (12)	0人 (0)	144人 (144)		
	文学部 史学科		23人 (23)	7人 (7)	3人 (3)	1人 (1)	34人 (34)	0人 (0)	361人 (361)		
	発達教育学部 教育学科		7人 (7)	2人 (2)	1人 (1)	1人 (1)	11人 (11)	0人 (0)	122人 (122)		
	発達教育学部 児童学科		5人 (5)	3人 (3)	0人 (0)	0人 (0)	8人 (8)	0人 (0)	153人 (153)		
	発達教育学部 心理学科		11人 (11)	3人 (3)	2人 (2)	0人 (0)	16人 (16)	0人 (0)	120人 (120)		
家政学部 食物栄養学科											

概要	分	家政学部 生活造形学科	9 (9)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	142 (142)
		現代社会学部 現代社会学科	20 (17)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	27 (24)	0 (0)	168 (168)
		法学部 法学科	13 (13)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	132 (132)
		外国語準学科	3 (3)	7 (7)	2 (2)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	78 (78)
		図書館司書課程	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	9 (9)
		国際交流センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	9 (9)
		計	114 (112)	47 (47)	11 (11)	5 (5)	177 (175)	0 (0)	- (-)
合計		125 (121)	50 (50)	13 (13)	5 (5)	193 (189)	0 (0)	- (-)	
教員以外の職員概要	職 種		専 任		兼 任		計		
	事務職員		122人 (120)		0人 (0)		122人 (120)		
	技術職員		35 (35)		0 (0)		35 (35)		
	図書館専門職員		5 (5)		28 (28)		33 (33)		
	その他の職員		3 (3)		0 (0)		3 (3)		
	計		165 (163)		28 (28)		160 (191)		
校地等	区 分	専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計		
	校舎敷地	57,804.62㎡	0㎡		0㎡		57,804.62㎡		
	運動場用地	99,970.00㎡	0㎡		0㎡		99,970.00㎡		
	小 計	157,774.62㎡	0㎡		0㎡		157,774.62㎡		
	そ の 他	274,281.35㎡	0㎡		0㎡		274,281.35㎡		
	合 計	432,055.97㎡	0㎡		0㎡		432,055.97㎡		
校 舎		専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計		
		74,516.88㎡ (71,767.35㎡)	851.55㎡ (851.55㎡)		21,553.56㎡ (26,777.95㎡)		96,561.99㎡ (99,396.85㎡)		
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	55室	51室	89室	6室 (補助職員4人)	1室 (補助職員0人)				
専任教員研究室		新設学部等の名称 データサイエンス学部			室 数 16 室				
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位で特定不能なため、大学全体の数	
	データサイエンス学部	776,357〔148,256〕 (760,357〔148,136〕)	(9,982〔1,245〕) (9,982〔1,245〕)	(21,654〔20,077〕) (21,654〔20,077〕)	29,610 (29,610)	6,055 (6,055)	47 (47)		
	計	776,357〔148,256〕 (760,357〔148,136〕)	(9,982〔1,245〕) (9,982〔1,245〕)	(21,654〔20,077〕) (21,654〔20,077〕)	29,610 (29,610)	6,055 (6,055)	47 (47)		
図書館		面積	閲覧座席数		収納可能冊数				
		7,937.65㎡	751		1,226,389				
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要						
		4,571.78㎡	弓道場、アーチェリー場、テニスコート						
経費の見積り及び維持の方法概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
		教員1人当り研究費等		410千円	410千円	410千円	410千円		
		共同研究費等		26,577千円	26,577千円	26,577千円	26,577千円		
		図書購入費	5,000千円	6,500千円	6,500千円	6,500千円	6,500千円		
		設備購入費	123,052千円	3,971千円	4,153千円	4,301千円	4,301千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	1年次以降の図書購入費には電子ジャーナル・データベース(運用コストを含む)500万円/年を含む。	
	1,400千円	1,270千円	1,270千円	1,270千円	-千円	-千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			学生納付金を主たる財源とするが、手数料収入の他、資産運用収入や各種補助金を充当する。						

既設大学等の状況	大学の名称		京都女子大学						所在地
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	
		年	人	年次人	人		倍		
	文学部						1.00		
	国文学科	4	130	-	520	学士(文学)	1.02	昭和24年度	
	英文学科	4	125	-	500	学士(文学)	0.98	昭和24年度	
	史学科	4	130	-	520	学士(文学)	1.01	平成5年度	
	発達教育学部						1.02		
	教育学科	4	190	-	760	学士(教育学)	1.03	平成16年度	
	児童学科	4	105	-	420	学士(児童学)	1.00	平成16年度	
	心理学科	4	55	-	220	学士(心理学)	0.99	平成31年度	
	家政学部						1.02		
	食物栄養学科	4	120	-	480	学士(家政学)	1.01	昭和24年度	
	生活造形学科	4	120	-	480	学士(家政学)	1.02	平成5年度	
	現代社会学部								
	現代社会学科	4	290	-	1,160	学士(現代社会)	1.03	平成12年度	
	法学部								
	法学科	4	120	-	480	学士(法学)	0.98	平成23年度	
	京都女子大学大学院								
	文学研究科								
	国文学専攻								
	博士前期課程	2	6	-	12	修士(国文学)	0.16	昭和41年度	
	博士後期課程	3	3	-	9	博士(文学)	0.00	平成13年度	
	英文学専攻								
	博士前期課程	2	6	-	12	修士(英文学)	0.08	昭和43年度	
	博士後期課程	3	3	-	9	博士(文学)	0.00	平成13年度	
	史学専攻								
	博士前期課程	2	6	-	12	修士(史学)	0.75	平成9年度	
	博士後期課程	3	3	-	9	博士(文学)	0.22	平成11年度	
	発達教育学研究科								
	教育学専攻								
	博士前期課程	2	6	-	12	修士(教育学)	0.33	平成18年度	
	心理学専攻								
	博士前期課程	2	8	-	16	修士(心理学)	0.37	平成18年度	
	表現文化専攻								
	修士課程	2	8	-	16	修士(表現文化)	0.37	平成18年度	
	児童学専攻								
	修士課程	2	6	-	12	修士(児童学)	0.08	平成18年度	
	教育学専攻								
	博士後期課程	3	3	-	9	博士(教育学)	0.44	平成18年度	

家政学研究科								
食物栄養学専攻 博士前期課程	2	6	-	12	修士 (食物学)	0.25	昭和42 年度	
生活造形学専攻 博士前期課程	2	6	-	12	修士 (家政学) (学術)	0.50	平成13 年度	
生活福祉学専攻 博士前期課程	2	4	-	8	修士 (生活福祉学)	0.25	平成18 年度	
生活環境学専攻 博士後期課程	3	2	-	6	博士 (家政学) (学術)	0.83	平成16 年度	
現代社会研究科								
公共圏創成専攻 博士前期課程	2	6	-	12	修士 (現代社会)	0.41	平成16 年度	
博士後期課程	3	3	-	9	博士 (現代社会)	0.11	平成18 年度	
法学研究科								
法学専攻 修士課程	2	5	-	10	修士 (法学)	0.30	平成27 年度	
附属施設の概要	<p>名称：宗教・文化研究所 目的：仏教文化を中心に広く宗教と文化に関する研究を推進し、もって学術の発展に寄与する。 所在地：京都市東山区今熊野北日吉町35番地 設置年月：昭和61年12月 規模等：建物 71.60㎡</p> <p>名称：栄養クリニック 目的：管理栄養士の実践教育を始め、広く健康・栄養に関わる学術研究を深め、その成果を学部・大学院の教育、並びに社会一般に還元する。 所在地：京都市東山区今熊野北日吉町35番地 設置年月：平成20年4月 規模等：建物 403.40㎡</p> <p>名称：地域連携研究センター 目的：本学の物的・人的・知的資源を活用して行政・産業界・市民と連携し、21世紀の日本社会が求める地域社会の創造に貢献する。 所在地：京都市東山区今熊野北日吉町35番地 設置年月：平成27年7月 規模等：建物 26.00㎡</p> <p>名称：生活デザイン研究所 目的：「京都・デザイン・ものづくり」に関わる実践教育・研究を行い、その成果を社会一般に還元する。 所在地：京都市東山区今熊野北日吉町35番地 設置年月：平成27年12月 規模等：建物 248.98㎡</p> <p>名称：国際交流センター 目的：本学の国際交流事業に関する施策を策定するとともに、その実施について中心的な役割を果たし、本学における国際交流の推進に寄与する。 所在地：京都市東山区今熊野北日吉町35番地 設置年月：平成29年10月 規模等：建物 26.00㎡</p> <p>名称：データサイエンス研究所 目的：データサイエンスに関する研究拠点として行政・産業界・教育機関等と連携し、データサイエンスによる社会の課題解決に寄与する。 所在地：京都市東山区今熊野北日吉町35番地 設置年月：令和4年4月設置予定 規模等：建物 22.00㎡</p>							

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の出定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。

「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。

- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要															
(データサイエンス学部データサイエンス学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目群	社会 ソ リ ユ ー シ ョ ン 基 礎 科 目	価値創造への招待	1前	2			○			4					オムニバス・共同(一部)
		経済学概論	1後		2			○		1					
		経営学概論	1後		2			○		1					
		社会学概論	1後		2			○		1					
		計量経済学	2前		2			○		1					
		リスクマネジメント	2前		2			○		1					
		社会保障論	2前		2			○		1					
		家族と社会	2前		2			○		1					
		社会データ分析	2前		2				○		1	1			兼1
数理・統計系基礎科目		数学への招待	1前	2			○			3					
		確率・統計への招待	1前	2			○			2					
		統計学入門	1後		2		○			3					
		解析学Ⅰ	1後		2		○			1					
		解析学Ⅰ演習	1後		2			○		2					兼1
		線形代数学	1後		2		○			1					
		線形代数学演習	1後		2			○		1		1			兼1
		多変量解析Ⅰ	2前		2		○			1					
		解析学Ⅱ	2前		2		○			1					
代数学	2前		2		○			1							
幾何学	2前		2		○			1					兼1		
情報系基礎科目		プログラミングへの招待	1前	2			○			2	1				オムニバス
		プログラミングⅠ	1後		2		○			2	1				オムニバス
		データ処理演習	2前		2			○		1		1			兼1
		プログラミングⅡ	2前		2		○			1					
		プログラミングⅡ演習	2前		2			○			2	1			
データ構造とアルゴリズム	2前		2		○			2						オムニバス・共同(一部)	
専門発展科目	社会 ソ リ ユ ー シ ョ ン 発 展 科 目	応用計量経済学	2後		2		○			1					
		医療経済学	2後		2		○			1					
		人と組織のマネジメント	2後		2		○			1					
		データから見る家族	2後		2		○			1					
		疫学統計と生活	2後		2		○			1					
		データサイエンス実践概論	2後		2		○			1					
		データサイエンス社会実装論	2後		2		○								兼1
		教育・労働経済学	3前		2		○			1					
		公的統計	3前		2		○			1					
		計量経済分析	3前		2		○								兼1
		イノベーション論	3前		2		○			3					オムニバス・共同(一部)
		戦略的人的資源管理論	3前		2		○			1					
		マーケティング	3前		2		○								兼1
		現代ビジネスと金融	3前		2		○								兼1
		社会調査法	3前		2		○								兼1
		行動経済学	3後		2		○								兼1
		データサイエンティストのキャリア論	3後		2		○			1					
マーケティングデータ分析	3後		2		○					1					
公共経営	3後		2		○								兼1		
コーポレート・ファイナンス	3後		2		○								兼1		
調査設計論	3後		2		○								兼1		
数理・統計系発展科目		生存時間解析	2後		2		○			1					
		回帰分析	2後		2		○			1					
		多変量解析Ⅱ	2後		2		○			1					
		実験計画法	2後		2		○			1					
		文化計量学	2後		2		○								兼1
		時系列解析	3前		2		○			1					
		計算機統計学	3前		2		○			1					
		最適化理論	3前		2		○			1					
		医療統計	3前		2		○			1					
		空間統計学	3後		2		○			1					
心理分析	3後		2		○			1							
行列モデリング	3後		2		○				1						

教育課程等の概要

(データサイエンス学部データサイエンス学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	ドイツ語 I B1	1後		1				○							兼1
	ドイツ語 I B2	1後		1				○							兼1
	ドイツ語 II A1	2前		1				○							兼2
	ドイツ語 II A2	2前		1				○							兼2
	ドイツ語 II A3	2前		1				○							兼2
	ドイツ語 II B1	2後		1				○							兼2
	ドイツ語 II B2	2後		1				○							兼2
	ドイツ語 II B3	2後		1				○							兼2
	ドイツ語 III A1	3前		1				○							兼1
	ドイツ語 III A2	3前		1				○							兼1
	ドイツ語 III B1	3後		1				○							兼1
	ドイツ語 III B2	3後		1				○							兼1
	ドイツ語 III A3	4前		1				○							兼1
	ドイツ語 III B3	4後		1				○							兼1
	フランス語 I A1	1前		1				○							兼2
	フランス語 I A2	1前		1				○							兼2
	フランス語 I B1	1後		1				○							兼2
	フランス語 I B2	1後		1				○							兼2
	フランス語 II A1	2前		1				○							兼3
	フランス語 II A2	2前		1				○							兼2
	フランス語 II A3	2前		1				○							兼2
	フランス語 II B1	2後		1				○							兼3
	フランス語 II B2	2後		1				○							兼2
	フランス語 II B3	2後		1				○							兼2
	フランス語 III A1	3前		1				○							兼1
	フランス語 III A2	3前		1				○							兼1
	フランス語 III B1	3後		1				○							兼1
	フランス語 III B2	3後		1				○							兼1
	フランス語 III A3	4前		1				○							兼1
	フランス語 III B3	4後		1				○							兼1
	中国語 I A1	1前		1				○							兼1
	中国語 I A2	1前		1				○							兼1
	中国語 I B1	1後		1				○							兼1
	中国語 I B2	1後		1				○							兼1
	中国語 II A1	2前		1				○							兼4
	中国語 II A2	2前		1				○							兼3
	中国語 II A3	2前		1				○							兼2
	中国語 II B1	2後		1				○							兼4
	中国語 II B2	2後		1				○							兼2
	中国語 II B3	2後		1				○							兼2
	中国語 III A1	3前		1				○							兼1
	中国語 III A2	3前		1				○							兼1
	中国語 III B1	3後		1				○							兼1
	中国語 III B2	3後		1				○							兼1
	中国語 III A3	4前		1				○							兼1
	中国語 III B3	4後		1				○							兼1
	ロシア語 I A1	1前		1				○							兼2
	ロシア語 I A2	1前		1				○							兼2
	ロシア語 I B1	1後		1				○							兼2
	ロシア語 I B2	1後		1				○							兼2
	ロシア語 II A1	2前		1				○							兼3
	ロシア語 II A2	2前		1				○							兼2
	ロシア語 II A3	2前		1				○							兼2
	ロシア語 II B1	2後		1				○							兼2
	ロシア語 II B2	2後		1				○							兼2
	ロシア語 II B3	2後		1				○							兼2
	ロシア語 III A1	3前		1				○							兼1
	ロシア語 III A2	3前		1				○							兼1
	ロシア語 III B1	3後		1				○							兼1
	ロシア語 III B2	3後		1				○							兼1
	ロシア語 III A3	4前		1				○							兼1
	ロシア語 III B3	4後		1				○							兼1
	日本語 I A1	1前		1				○							兼1
	日本語 I A2	1前		1				○							兼1
	日本語 I B1	1後		1				○							兼1
	日本語 I B2	1後		1				○							兼1
	小計 (92科目)	—	4	88	0			—		0	0	0	0	0	兼47

教育課程等の概要

(データサイエンス学部データサイエンス学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
情報基盤科目	情報リテラシー	1前	2				○								兼1
	データ・AIリテラシー	1前	2				○								兼1
	情報基礎A	1後		2			○								兼1
	情報基礎B	1後		2			○								兼1
	情報基礎C	2前		2			○								兼1
	情報基礎D	2前		2			○								兼1
	データ・AI基礎A	2前		2			○								兼1
	データ・AI基礎B	2後		2			○								兼1
	データ・AI基礎C	2前		2			○								兼1
	データ・AI基礎D	2後		2			○								兼1
小計 (10科目)		—	4	16	0		—		1	0	0	0	0		兼7
学健康科目	運動と健康科学	1前	2			○									兼1
	スポーツ実践	1前		1				○							兼4
	小計 (2科目)		—	2	1	0		—		0	0	0	0	0	
ジェンダー科目	ジェンダー研究入門	1前		2		○									兼1
	ジェンダー研究発展	1後		2		○			1						
	歴史と女性	1後		2		○									兼2
	キャリア形成 I	1後		2		○									オムニバス・共同(一部)
	キャリア形成 II	2前		2		○									兼1
	キャリア形成 III	2後		2		○									兼1
	ジェンダーと研究	2後		2		○									兼1
	職業体験実習	3通		2				○							兼1
小計 (8科目)		—	0	16	0		—		1	0	0	0	0		兼7
連携活動科目	連携活動入門	1後		2		○									兼1
	地域連携講座A1	1後		2		○									兼1
	地域連携講座A2	1後		2		○									兼1
	地域連携講座A3	1後		2		○									兼1
	地域連携講座B1	2前		2		○									兼1
	地域連携講座B2	2前		2		○									兼1
	地域連携講座B3	2前		2		○									兼1
	産学連携講座A1	1後		2		○									兼1
	産学連携講座A2	1後		2		○									兼1
	産学連携講座B1	2前		2		○									兼1
	産学連携講座B2	2前		2		○									兼1
	連携課題研究 1	2前・後		2			○								兼1
	連携課題研究 2	2前・後		2			○								兼1
	小計 (13科目)		—	0	26	0		—		0	0	0	0	0	
国際理解科目	言語と文化A1	1後		2				○							兼5
	言語と文化A2	1後		2				○							オムニバス
	言語と文化B1	2前		2				○							兼1
	言語と文化B2	2前		2				○							兼4
	英語で京都を学ぶ	2後		2				○							オムニバス
	国際理解実習	2通		2				○							兼1
	語学・文化研修A1	1・2・3・4		2				○							兼1
	語学・文化研修A2	1・2・3・4		2				○							兼1
	語学・文化研修A3	1・2・3・4		4				○							兼1
	語学・文化研修A4	1・2・3・4		4				○							兼1
	語学・文化研修A5	1・2・3・4		4				○							兼1
	語学・文化研修B1	1・2・3・4		2				○							兼1
	語学・文化研修B2	1・2・3・4		2				○							兼1
	語学・文化研修B3	1・2・3・4		4				○							兼1
	語学・文化研修B4	1・2・3・4		4				○							兼1
	語学・文化研修B5	1・2・3・4		4				○							兼1
小計 (16科目)		—	0	44	0		—		0	0	0	0	0		兼14
教養科目	教養科目A (文学と思想1)	1後		2		○									兼1
	教養科目A (文学と思想2)	1後		2		○									兼1
	教養科目A (芸術と表現1)	1後		2		○									兼1
	教養科目A (芸術と表現2)	1後		2		○									兼1
	教養科目A (市民と社会1)	1後		2		○									兼1
	教養科目A (市民と社会2)	1後		2		○									兼1
	教養科目A (福祉とくらし1)	1後		2		○									兼1
	教養科目A (福祉とくらし2)	1後		2		○				1					兼1
	教養科目A (心とからだ1)	1後		2		○									兼1
	教養科目A (心とからだ2)	1後		2		○									兼1
	教養科目A (環境と生命1)	1後		2		○									兼1
	教養科目A (環境と生命2)	1後		2		○									兼1
	教養科目A (数と情報1)	1後		2		○				1					兼1
	教養科目A (数と情報2)	1後		2		○									兼1
	教養科目B (文学と思想3)	2前		2		○									兼1
	教養科目B (文学と思想4)	2前		2		○									兼1

教育課程等の概要

(データサイエンス学部データサイエンス学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	教養科目B (芸術と表現3)	2前		2		○									兼1	オムニバス
	教養科目B (芸術と表現4)	2前		2		○									兼1	
	教養科目B (市民と社会3)	2前		2		○									兼1	
	教養科目B (市民と社会4)	2前		2		○									兼1	
	教養科目B (福祉とくらし3)	2前		2		○									兼4	
	教養科目B (福祉とくらし4)	2前		2		○									兼1	
	教養科目B (心とからだ3)	2前		2		○									兼1	
	教養科目B (心とからだ4)	2前		2		○									兼1	
	教養科目B (環境と生命3)	2前		2		○			1							
	教養科目B (環境と生命4)	2前		2		○									兼1	
	教養科目B (数と情報3)	2前		2		○									兼1	
	教養科目B (数と情報4)	2前		2		○									兼1	
	京都の文学	1後		2		○									兼1	
	京都と芸能	1後		2		○									兼1	
	京都の歴史	2前		2		○									兼2	
	京都の文化と産業	2後		2		○									兼1	
	現代と仏教A	2前		2		○									兼1	
	現代と仏教B	2後		2		○									兼1	
	仏教文学A	2前		2		○									兼1	
	仏教文学B	2後		2		○									兼1	
	仏教文化A	2前		2		○									兼1	
	仏教文化B	2後		2		○									兼1	
	仏教思想A	2前		2		○									兼1	
	仏教思想B	2後		2		○									兼1	
外国語で読む仏教A	2前		2		○									兼1		
外国語で読む仏教B	2後		2		○									兼1		
地域と仏教演習	2後		2			○								兼2		
社会と仏教特論	2後		2		○									兼1		
小計 (44科目)		—	0	88	0	—			2	1	0	0	0	兼39		
教職に関する専門教育科目	教職論	1前・後			2	○									兼1	オムニバス
	教育原論	1前・後			2	○									兼1	
	教育心理学	1前・後			2	○									兼1	
	教育行政学	3前・後			2	○									兼1	
	教育課程論	2前・後			2	○									兼1	
	特別支援教育論	2前・後			1	○									兼1	
	道徳教育論	2前・後			2	○									兼1	
	特別活動及び総合的な学習の時間指導法	3前・後			2	○									兼2	
	教育方法論	2前・後			2	○									兼1	
	生徒指導論	3前・後			2	○									兼1	
	進路指導論	3前・後			2	○									兼1	
	教育実習論	4通			1	○									兼1	
	教育実習	4通			2										兼1	
	中学校教育実習	4通			2										兼1	
	教職実践演習 (中・高)	4後			2			○		1					兼2	
	人権教育論	2前・後			1	○									兼1	
日本国憲法	2前・後			2	○									兼1		
小計 (17科目)		—	0	0	31	—			0	1	0	0	0	兼14		
図書館司書に関する科目	生涯学習概論	1前・後			2	○									兼1	オムニバス
	図書館概論	1前・後			2	○									兼1	
	図書館制度・経営論	2前・後			2	○									兼1	
	図書館情報技術論	2前・後			2	○									兼1	
	図書館サービス概論	1前・後			2	○									兼1	
	情報サービス論	1前・後			2	○									兼1	
	児童サービス論	1前・後			2	○									兼1	
	情報サービス演習	2前・後			2		○								兼1	
	図書館情報資源概論	1前・後			2	○		○							兼1	
	情報資源組織論	1前・後			2	○									兼1	
	情報資源組織演習 I	2前・後			1			○							兼1	
	情報資源組織演習 II	2前・後			1			○							兼2	
	図書館基礎特論	2前・後			2	○									兼1	
	図書館サービス特論	2前・後			2	○									兼1	
	図書館情報資源特論	2前・後			2	○									兼1	
	図書・図書館史	2前・後			2	○									兼1	
	図書館施設論	2前・後			2	○									兼1	
	図書館総合演習	3前・後			2		○								兼1	
図書館実習	4前			2			○							兼1		
小計 (19科目)		—	0	0	36	—			0	0	0	0	0	兼10		

教育課程等の概要

(データサイエンス学部データサイエンス学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
図書館司書及び学校司書教諭に関する科目	学校経営と学校図書館	1前・後			2	○									兼1
	学校図書館メディアの構成	1前・後			2	○									兼1
	学習指導と学校図書館	1前・後			2	○									兼1
	読書と豊かな人間性	1前・後			2	○									兼1
	情報メディアの活用	1前・後			2	○									兼1
	学校図書館サービス論	2前・後			2	○									兼1
	小計(6科目)	—	0	0	12	—			0	0	0	0	0	0	兼4
日本語教師に関する科目	日本語教育入門	1前・後			2	○									兼1
	言語と社会	1前・後			2	○									兼1
	言語と心理	1前・後			2	○									兼1
	言語と教育	1前・後			2	○									兼1
	日本語の構造	1前・後			2	○									兼1
	日本語教育実習	3・4			2			○							兼3
	小計(6科目)	—	0	0	12	—			0	0	0	0	0	0	兼6
合計(327科目)		—	46	433	91	—			11	3	2	0	0	0	兼151
学位又は称号	学士(データサイエンス)		学位又は学科の分野			経済学関係、工学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
建学科目群として「仏教学」8単位、共通科目群として「言語コミュニケーション科目」8単位(必修外国語4単位選択必修含む)、「情報基盤科目」4単位、「健康科学科目」2単位の計22単位を必修とし、「教養科目」、「ジェンダー科目」、「連携活動科目」、「国際理解科目」を選択科目に加えた共通科目群全体から8単位以上、合計30単位以上を履修する。専門科目群からは下記必修・選択必修含め72単位以上を履修し、他にすべての科目から30単位以上、総計132単位を修得することが卒業要件である。 (履修科目の登録上限:48単位(年間)) ・「価値創造への招待」、「数学への招待」、「確率・統計への招待」、「プログラミングへの招待」4科目8単位必修 ・専門基礎科目(招待科目を除く)から、 社会ソリューション基礎科目 3科目6単位以上修得すること 数理・統計系基礎科目 3科目6単位以上修得すること 情報系基礎科目 2科目4単位以上修得すること ・専門発展科目のいずれかの領域から、8科目16単位以上修得すること ・演習科目 8科目16単位必修に加えて、卒業研究4単位を修得すること						1学年の学期区分		2学期							
						1学期の授業期間		15週							
						1時限の授業時間		90分							

授 業 科 目 の 概 要			
(データサイエンス学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群 専門基礎科目 社会ソリューション基礎科目	価値創造への招待	4人の担当者がそれぞれ具体的な社会課題とその課題解決事例を説明し、その課題解決の過程で、社会科学がどのように課題解決に貢献したか、そしてその解決によってどのような社会的価値が創出されたかを解説する。その後、学生はグループに分かれ、グループごとに類似の未解決の社会課題を1つ選択し、グループ内でその課題解決の方法とその解決により生み出される社会的価値を議論する。その成果を全体授業の中で発表し、講師からの評価を受ける。 (オムニバス方式/全15回) (⑩ 安川文朗、⑤ 鈴木富美子、⑥ 張 星源、⑧ 中田喜文/1回) 科目概要の説明と授業の進め方の説明、担当者の紹介 (⑩ 安川文朗/3回) 社会課題と価値創造1（医療社会保障）についての説明 社会課題と価値創造1についてのグループディスカッション 社会課題と価値創造1についてのグループディスカッション成果の報告 (⑤ 鈴木富美子/3回) 社会課題と価値創造2（家族と生活）についての説明 社会課題と価値創造2についてのグループディスカッション 社会課題と価値創造2についてのグループディスカッション成果の報告 (⑩ 安川文朗、⑤ 鈴木富美子、⑥ 張 星源、⑧ 中田喜文/1回) ゲストスピーカーと討論① 社会課題1・2について (⑥ 張 星源/3回) 社会課題と価値創造3（経済問題）についての説明 社会課題と価値創造3についてのグループディスカッション 社会課題と価値創造3についてのグループディスカッション成果の報告 (⑧ 中田 喜文/3回) 社会課題と価値創造4（働くこと）についての説明 社会課題と価値創造4についてのグループディスカッション 社会課題と価値創造4についてのグループディスカッション成果の報告 (⑩ 安川文朗、⑤ 鈴木富美子、⑥ 張 星源、⑧ 中田喜文/1回) ゲストスピーカーと討論② 社会課題3・4について	オムニバス方式・共同（一部）
	経済学概論	経済学は、人間の営む経済行為を直接の対象とし、現実の経済現象の根底に潜む本質的な諸要因を引き出し、経済社会の基本的な運動法則を明らかにすると同時に、貧困の解消、不公平の是正、物価安定、さらには経済発展の可能性を探ろうという実践的な意図をも持つ。本講義では、企業投資、貨幣需要と供給、労働需要と供給、消費者の行動、生産者の行動、市場の効率性と市場の失敗に関するマクロ経済学とミクロ経済学の入門知識を触れながら、日本の世界経済との関わり、グローバル経済の進展および世界経済のデカップリング化問題を、様々な統計データを用いてその実態やトレンドを説明する。	
	経営学概論	データの価値を理解し社会活動に実装するためには、社会の重要なプレイヤーでありデータユーザーである組織・企業の経営行動について理解することが重要である。本講義では、営利・非営利を含む組織の基本的構造と社会的役割、経営の在り方の実際について、データと経営との関係や今後の発展可能性をふまえながら考察する。また、高齢社会の諸課題への解決において、経営学的知見がどのように役立つかについて、バイオや医療、福祉など具体的な事例を通じて現状と将来展望についての議論を深める。	
	社会学概論	本授業では、導入の授業「価値創造への招待」を受け、「社会学」の立場から、テーマをより深く理解することを目的としている。「社会学」は「常識」に対して相反する立場をとる。「常識」的なものの見方は「価値創造」への足枷となり、新たな発想を阻む恐れがある一方、「常識」があるからこそ地に足のついた「価値創造」もまた可能となる。授業では、社会学の基礎概念の中から、女性の人生と生活に密接な関連をもつ、相互行為、役割と組織、ジェンダー、社会階層、ライフコースという5つのキー概念を手引きに、データを通じて、自分自身のもつ「常識」が、どのような社会的・歴史的条件の中で形成されてきたのかをみていく。自分の見方を相対化できれば、幅広い視野からものごとをとらえる俯瞰力を身につけることが可能となる。	
	計量経済学	計量経済学は経済学・経営学理論モデルを実際に観測されたデータを用いてその因果関係を実証し、経済・経営分析や政策分析に応用するための学問である。本講義は計量経済モデルの定式化、モデルの推定、仮説検定と適合度の検証及び予測に関する計量経済学の基礎理論を紹介する。具体的には、最小2乗推定法による回帰、回帰係数に関する検定、多重共線性、分散不均一、系列相関を解説するとともに、最尤推定法、内生変数と操作変数法に関する説明も含める予定である。	
	リスクマネジメント	経済のグローバル化や価値の多様化により、社会はさまざまなリスクや危機にさらされている。本講義は、社会や人々が直面するリスクとは何か、それをどう理解しどう対応すべきか、そのために社会のステークホルダーがどのようなコミュニケーションをとり相互理解を構築するか、を重要な議論のテーマとして掲げ、データサイエンティストとしてデータに基づくリスク・アセスメントとリスク・マネジメント(RM)の理論を理解し実践を行える人材を育てることを目標とする。そのため、リスク及び不確実性の定義、リスク認知の特性、リスク・コミュニケーションの課題についていくつかの分野の具体例を交えて検討するだけでなく、事例を用いて学生自身がRMの実践的プログラムを構築できるようにすることが講義の最終的なゴールとなる。	
	社会保障論	超高齢社会を迎え、国民生活の安定と安全を図る社会システムの再構築が急務となっている。本講義は、社会保障のしくみと課題を理解し、必要な提言を行えるための知識と技法を修得することを目的とする。そのため、学生が医療・介護保険、年金・福祉の諸制度における課題を自ら官庁統計や国際機関データによって把握・分析し、データサイエンティストとしてどう向き合い、制度の改善・改革にデータをどう活用できるかについての検討を深め、さまざまな場面でその要諦を提示できる能力を養うことを目指す。また、社会保障の具体的課題に対して、さらに、欧米諸国の医療人材確保の実情や、東南アジアの社会保険制度の動向等の事例から、グローバルな視点で社会保障を捉える力を養うことも重要なゴールである。	
	家族と社会	本授業では、社会学の基礎知識をベースに、女性のくらしや人生と密接な関わりをもつ家族の経験に着目する。「個人的な経験」とされる個々人の家族経験が、実は社会のありようと深く関係していることを、データを通じて理解するとともに、身近なくらしの中から社会課題を掘り起こし、その解決や価値創造を生み出す洞察力や発想力を養うことを目的としている。授業では、家族が時代とともにどのように変化し、私たちの意識や生き方にどのような変化をもたらしてきたのか、またその一方で、個々人および家族の変化が社会にどのような影響を及ぼし、生活保障上の変革を促してきたのかについて、データに基づいて検証・分析していく。これにより、家族のありようは、少子高齢化、高度情報化、国際化、個人化など、急速に進行する社会の変化と相互影響関係にあることを理解する。	
	社会データ分析	大量のデータを比較的容易に蓄積できるようになった現代の「よみ・かき・そろばん」として「AI・数理・データサイエンス」が位置付けられ、社会人にはこれらのリテラシーレベルが求められている。本科目では、実務において多用されているMicrosoft社の表計算ソフトExcelを利用した演習を通して、データの特徴を捉えるような統計量や表、グラフの作成、統計的推定・検定、回帰分析について、実行方法とその結果の読み取り方を学ぶ。データにはオープンデータを用いることで、データ分析の理論だけでなく、応用の仕方を学ぶ。	
	数学への招待	データサイエンスの理解に必要な数学を学ぶ導入として、高校数学で学習した内容を基盤としながら、大学数学としての線形代数、微分積分の基礎的な内容について講義を行う。微分積分の内容として、極限、微分、積分の考え方や具体的な計算法を説明する。線形代数の内容としては、様々な種類の行列や基本的な行列演算を学び、行列の基本変形を用いた連立1次方程式の解法を説明する。	
確率・統計への招待	本講義では、起こりうる状況（事象）に対する確率や条件付き確率による表現方法や推測統計を学ぶ上で重要な確率変数や確率分布の考え方、さらに、データに含まれる現象や関係性を客観的にかつ科学的に分析するために、データの集約や次元を縮約するデータの記述化や可視化の方法について講義する。		
数理・統計系基礎科目			

授 業 科 目 の 概 要			
(データサイエンス学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
日	統計学入門	データから様々な解析を行い、その結果を解釈できるようになるための統計学の基礎を学ぶ。データの特徴を捉えるための指標として、平均や分散、標準偏差、相関係数を学び、確率の定義について説明する。本講義の理解を深めるために実際のデータを用い、統計解析ソフトとしてRまたはEZRを活用する。	
	解析学 I	微分積分学は幅広い自然科学の基本言語であり、さらに人文社会科学を支えるデータサイエンス・AIの基礎としても重要である。本講義では、関数の微分法と積分法についての講義を行う。講義では、1変数関数の微分法と積分法について高校で扱ったことや数学への招待で扱った内容の復習を行い、新しい概念や定理の補充を行う。具体的には1変数の微分法と積分法について説明し、近似値、極限值、極大・極小、定積分の近似計算などを概念や考え方を中心に計算法なども併せて説明する。	
	解析学 I 演習	本講義では、解析学 I の内容の理解を深めるための演習を行う。微分積分学は幅広い自然科学の基本言語であり、さらに人文社会科学を支えるデータサイエンス・AIの基礎としても重要である。本演習では、解析学 I で扱った1変数関数の理論がどのように多変数関数(主に2変数関数)の理論に拡張されるかについての理解を深めるとともに、科学の諸分野で起こる問題を数学的に定式化し、解決する能力を養う。様々な関数の微分と積分の計算法を学び、その応用として、具体的な関数の極大・極小、図形の面積や回転体の体積についての演習問題を実際に解いて、それらの解説を行う。	
	線形代数学	データサイエンスにおける統計学や情報科学において、多変量データは行列を用いて表され、解析処理をする際には行列の計算を行うことがある。そのため線形代数学は大切な分野となっている。授業では、最初に行列に関する基礎的知識について復習した後で、行列式、固有値・固有ベクトル、特異値分解、行列の対角化、二次形式の最大・最小化について概念および計算法を説明する。	
	線形代数学演習	本講義では、線形代数学の内容の理解を深めるための演習を行う。データ分析において、エクセルなどの表形式で得られるデータを行列として捉えることは有益である。本演習では、ベクトルや行列の基本事項を学び、ベクトルや行列の様々な演算や操作の方法を学ぶ。演習では、種々のベクトルや行列の基本演算や基本操作を行い、データ分析における代表的な統計量をベクトルと行列を用いて表現する。行列の階数、行列式および逆行列の計算を行い、逆行列の計算を通じて連立方程式の解を求める方法について学ぶ。	
	多変量解析 I	仮説検定として、2母集団の等平均の検定、適合度の検定、分割表の検定、分散分析法を学び、多変量解析として代表的な回帰分析、主成分分析、クラスター分析を解説する。また、多重比較法について説明し、様々な検定への応用についても紹介する。統計解析ソフトとしてRまたはEZRを活用する。	
	解析学 II	本講義では、解析学 I に続く内容として多変数関数の微分法と積分法を取り上げる。具体的内容は、微分法では、偏微分、全微分、合成関数の微分、さらに、積分法では、重積分、変数変換を用いた重積分、微分方程式である。適宜、問題の演習とともにその解説を行うことにより理解を深める。	
	代数学	線形代数学では行列の固有値・固有ベクトル、行列の対角化などを扱った。そこでは実数空間上での話を扱っているが、本講義ではこれをより一般の空間上であるベクトル空間での話に拡張する。また講義の後半では代数系において重要な群・環・体について概説し、体上でのベクトル空間の性質について紹介する。	
	幾何学	幾何学とは図形の性質および図形の操作を理解する数学の一分野である。ユークリッド幾何学を俯瞰しながら、幾何学の歴史を学び、さらに線形代数・微分積分学等を通じ、数学における証明の持つ意味を理解し、基本図形、および曲線や曲面に関する基本知識、図形の移動や変換の幾何学における意味を学ぶ。講義の前半では、初等幾何、解析幾何について高校で扱ったことを体系的に整理し、新しい概念や定理の補充を行う。講義の後半では、ベクトル・行列の知識を用いた平面および空間における回転、2次曲線の分類について講義する。	
情報系基礎科目	プログラミングへの招待	これからプログラミングを学ぶ学生のための入門科目で、データサイエンス学部において必要なプログラミングR、Ruby、Pythonを用いて、コンピュータやプログラミングに関する基礎知識と実際にプログラムを作成する能力を養う。「プログラムとは何か」「どのように書くのか」といったプログラムを動作させるために必要な周辺の知識・概念に関する講義を行う。 (オムニバス方式/全15回) (16) 土田 潤/5回 Rへの招待 (14) 道越 秀吾/5回 Rubyへの招待 (13) 丸野 由希/5回 Pythonへの招待	オムニバス方式
	プログラミング I	現在の多くのプログラミング言語がオブジェクト指向に基づいて設計されており、大規模なソフトウェアの開発・保守にはオブジェクト指向の知識が必須である。この講義では、オブジェクト指向プログラミングの考え方や実際のプログラミングでどのように用いられるかを理解することを目的とする。オブジェクト指向プログラミングで中心的な役割を果たすクラスとオブジェクトの概念や使い方に関する知識の講義を行う。 (オムニバス方式/全15回) (15) 石川 由羽/5回 オブジェクト指向言語Python (14) 道越 秀吾/5回 オブジェクト指向言語C++ (13) 丸野 由希/5回 オブジェクト指向言語Ruby	オムニバス方式
	データ処理演習	科学的な実験データ、社会調査によって収集されたデータ、医療に関わるデータやスポーツデータなどを分析することを通じて、得られた分析結果を適切に解釈する能力や、評価する能力を修得することを目標に授業を実施する。導入部分においてソフトウェアの使い方、データを収集する方法や収集されたデータをソフトウェアに読み込む方法を説明する。その後、記述統計(質的データや量的データの整理)、統計的仮説検定(パラメトリック検定やノンパラメトリック検定)、回帰分析や判別分析などの多変量解析の手法を演習形式により学ぶ。	
	プログラミング II	この講義は、プログラミング I に続く内容としてプログラミング言語Pythonを用いて、分析や問題解決等を目的とするデータ処理を行うためのプログラミングスキルを身につけることを目的とする。Pythonはデータサイエンス分野においてメジャーとなっているプログラミング言語であり、豊富なライブラリが利用可能であることに特徴がある。Pythonの基本的文法とデータサイエンス分野でよく用いられるライブラリを組み合わせたデータの加工・分析・可視化技術の方法の解説を行う。	
	プログラミング II 演習	本講義では、プログラミング II の内容の理解を深めるための演習を行う。プログラミングスキルの習得には、実践的な演習が不可欠である。この授業では、実際にプログラムを作成する演習を繰り返すことで、データ分析に必要な実践的なプログラミングスキルを習得することが目的である。プログラミング言語 Python を用いて基礎的なデータの加工・分析・可視化に関する演習を行う。また Python における最も多用されるライブラリである NumPy (配列処理) や Matplotlib (可視化) の基本的使い方を習得する。さらにはデータサイエンスにおいて多用されるライブラリである pandas も習得し、発展的なプログラミング手法を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
(データサイエンス学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	データ構造とアルゴリズム	データ処理や計算など様々な問題の解決手順をアルゴリズムという。様々なアルゴリズムが存在するが、その選択や組み合わせにより処理の効率が変わるため、基礎的なアルゴリズムを理解し、それらを活用できるようになる必要がある。この講義では、様々な場面で幅広く使われる基礎的なアルゴリズムとデータ構造を取り上げて、その考え方や実装方法の解説を行う。それらを通して、計算量の概念・評価方法、アルゴリズムの選択や設計による問題解決の基礎力を養うことを目的とする。 (オムニバス方式/全15回) (⑦ 寺本敬、④ 市瀬夏洋/1回) イントロダクション (⑦ 寺本敬/7回) プログラムの基本構造、計算量とオーダー、基本的なアルゴリズムについて解説する。 (④ 市瀬夏洋/7回) 基本的なデータ構造について幅広く取り上げつつ、その実装方法についても解説する。	オムニバス方式・共同(一部)
社会 ソリ ュー ション 発 展 科 目	応用計量経済学	本講義は計量経済学理論の応用として、特定の経済モデルや経済経営課題に関連した実証分析の能力を養うことを目的とする。具体的には、経済学・経営学・社会学に関わる幾つかの基本的な計量手法、とりわけ回帰分析と診断、時系列データ分析、カテゴリカルデータ分析、パネルデータ分析に関する計量手法を教授すると同時に、分析課題を学生が特定し、担当教員と一緒に分析手法を考え、講義を進める。	
	医療経済学	人々の健康維持と保健医療システムの安定的運営のため、保健医療分野が直面する諸課題を経済学の理論と知見から分析するのが医療経済学の目的である。本講義では、学生が経済理論と公的データを自在に用いて保健医療システムの全体像を理解し、そこから自身の問題意識を発見し、データサイエンティストの立場からその課題を分析的に掘り下げ、客観的な指標として提示できるように、関連する経済学の基礎理論を学び、保健医療システムの課題に対する実証的分析事例を読み解く力を養うことを重要なテーマとする。	
	人と組織のマネジメント	本講義では、価値創造に必要な人と組織のマネジメントの基本概念を学習する。そのために、具体事例についてケースを読んだり、ビデオ教材を視聴することを通して、主要な概念を理解する。又、主要テーマについては、ゲストスピーカーを招き、具体的な人と組織のマネジメント事例についての講義を受けた後、ゲストスピーカーとの質疑応答、意見交換を通して、概念を実体化する。	
	データから見る家族	本授業では、これまで培ってきた知識をベースに、自らデータを用いて社会課題を掘り起こし、その解決や価値創造につなげる調査力を身につけるために、以下の内容で実施する。 (1) 経験的データの種類や特徴などについて正しく理解する。 (2) 家族内での経験が社会のありようと深くかかわっていることを実感しやすい「ワーク・ライフ・バランス」の問題をとりあげ、経験的データを用いた日本や欧米の既存研究を概観する。データの種類によって描き出される夫婦・家族の側面がどのように異なるのかを理解し、適切に使い分けられる力を養う。 (3) 二次データを使い、今後、各自が直面しうる問題の抽出とその解決策について、エビデンス・ベーストの視点から分析・考察を行い、議論する。	
	疫学統計と生活	データサイエンスとの関わりにおいて、疫学の理念と目的、健康問題に関する予防医学の役割と実際について学ぶ。疫学の歴史を振り返りながら、疾病予防、健康管理などの諸問題から環境と生活の健康を考え、要因と疾患発症の関連性を調べるための様々な疫学方法を学ぶことを目的とする。その中でも、次世代型医療実現に向け、大規模コホート研究にゲノム情報を取り入れた大規模ゲノムコホート研究に着目する。ゲノムコホート研究における統計手法を学び、解析結果を考察する。またサンプルデータを用い、統計解析ソフトとしてRまたはEZRを活用する。	
	データサイエンス実践概論	本講義では、企業や行政等においてデータサイエンスに関連して活躍している実務担当者を招き、具体的な事例を通してデータサイエンスの最先端に触れ、大学における学習内容が現場の実践とどのように関連するかを考える。各分野における活動として、企業系では、データサイエンティスト協会や地元企業の協力の下、ビッグデータに関する様々な技術や適用事例を学び、行政系では、京都府、京都市などの地元自治体の協力の下、公的データのデータベース化や活用方法、スマートシティ実現のためのAIやIoT技術を利用した観光、都市計画、防災等に対するデータ利活用の実例について学ぶ。	
	データサイエンス社会実装論	データサイエンスは、特定の分野においては定着・活用されているが、それ以外の分野ではこれからである。データサイエンスの社会実装とは、社会、経済、暮らし、環境、ビジネス、そして社会課題解決へ貢献していくことにAIやデータ解析などのデータサイエンスが活用され社会に定着することである。 本講義では、AIやデータ活用という新しい社会基盤の現在地と未来を、社会、技術、ビジネスの観点で取り上げる。AIやデータ解析からの解より、そこにある物語を読み取る力を社会、ビジネスにおける多くの事例を通じて養う。またデータサイエンス社会実装に必要な統計知識はもとより社会課題、情報倫理、心理学、伝える力などを横断的に事例と紐づけて学ぶ。さらに社会・企業の現場を訪問する実体験型実習を導入することで社会の本当の姿やビジネスの現状を体感し、学んだことを実践、確認することで理解を深め、将来社会で活躍する人材となることを目標とする。	
	教育・労働経済学	人はなぜ学び、そして働くのか、その理由と現状を、経済学を用いて考える。 本講義では、データサイエンスと教育・労働経済学との関わりにおいて、価値創造に求められる労働経済学の基本概念を学習する。具体的には、労働力に対する需要と供給の理論と現状、及び労働市場の機能と実体を、日本を例に学ぶ。後半では、教育とは何かについて経済学に見方を学ぶ。具体的には、教育を人々が求めるのはなぜか、また公教育を政府が公的な資金を用いて国民に提供する理論的根拠は何か、について、その代表的な経済学的理論を学び、その理論の妥当性を日本の実態から確認する。	
	公的統計	本講義では、社会経済の変容に応じる公的統計の変化を踏まえながら、データサイエンスに求められる公的統計の仕組みとそれに関わる経済学の基礎理論を解説したうえで、公的統計に関わる制度や統計調査方法とその作成・分類による統計誤差・信頼性等問題を解説する。さらに、公的統計各論として、国民経済計算と産業連関表、財・サービスの生産と消費、金融市場と決済システム、財政と公共部門の役割、為替レートと国際間の取引等についての統計を概観する。	
計量経済分析	計量経済分析において、線形回帰モデルなどの適当なパラメトリックモデルを想定して推定や検定を行うことが多い。もしそのモデルが正しければ望ましい結果を得ることができる。しかし、例えば、本当は線形関係ではないのに線形モデルを適用するなど、誤ったモデルを当てはめてしまった場合には、致命的な間違いを起こすことがある。そういった問題を回避する試みの一つにノンパラメトリック法と呼ばれる方法があり、機械学習とも関連する。ノンパラメトリック法では、モデルの関数形の想定をできるだけ弱めた統計分析を行う。この講義では、その中でも応用上も良く用いられるカーネル法を用いたノンパラメトリックな密度関数や分布関数の推定、回帰分析などを中心に解説する。		

授 業 科 目 の 概 要			
(データサイエンス学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	イノベーション論	<p>本講義では、イノベーションの歴史とイノベーションに関する基礎理論、特に、市場と政府との関係、イノベーション制度的枠組を概観したうえで、イノベーションを担う人材、イノベーションと企業戦略、特許と知財戦略、イノベーションの戦略的国際展開と国際技術標準を論じるとともに、事例研究として、iPS細胞の発見・応用や遺伝子情報の解析等のバイオ技術イノベーション、AI技術を基盤とする治療や介護分野におけるイノベーション、及び特許と国際技術標準活動の視点からのイノベーション創出に関する国際比較分析を紹介する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>⑩ 安川文朗/1回</p> <p>イノベーションの歴史</p> <p>⑥ 張 星源/2回</p> <p>イノベーションと経済成長</p> <p>イノベーションの基礎理論</p> <p>⑧ 中田喜文/3回</p> <p>イノベーション創出に関わる技術者</p> <p>イノベーション創出に関わる企業組織</p> <p>イノベーションと企業戦略</p> <p>⑩ 安川文朗/2回</p> <p>事例研究：バイオ技術のイノベーション</p> <p>事例研究：医療・介護分野におけるAI技術を基盤とするロボティクスの進展</p> <p>⑥ 張 星源/4回</p> <p>イノベーション創出に関わる政策と法制度</p> <p>知的財産制度と特許</p> <p>特許と企業戦略</p> <p>イノベーションと標準</p> <p>⑧ 中田喜文/1回</p> <p>日本の科学技術・イノベーション政策</p> <p>⑥ 張 星源/1回</p> <p>事例研究：イノベーション創出に関する国際比較分析：特許及び国際標準活動の視点から</p> <p>⑩ 安川文朗、⑥ 張 星源、⑧ 中田喜文/1回</p> <p>まとめ</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	戦略的人的資源管理論	<p>企業が企業目的の達成のため、人を雇用し、様々な業務を遂行させる背景にあるロジックを理解し、その主要なツールを用いて、人的資源管理を遂行するに必要な知識を習得する。従業員の採用から始まり、採用した人材の仕事への配置、そして異動、さらには必要な教育訓練を行い、獲得した知識、技術とそれらを用いての業務遂行の評価とそれに見合う対価の提供、最後に従業員の定着と退職への対応、と言う一連の人材マネジメントの基本ツールとそのロジックを学習する。</p>	
	マーケティング	<p>本講義では、ビジネス価値創造を経営の視点から捉え、企業の製品/サービスと市場/顧客をつなぐ技法とチャネルを学ぶ。マーケティングでは、生産/販売/顧客志向のマーケティングだけでなく、デジタルマーケティングの概念と技法を学び、データがどのようにビジネスの価値創造に寄与するかを考える。デジタルマーケティングでは、データ分析の経験知が高いシンクタンクと協働で、ビッグデータに基づくマーケティングの具体的プロセスについて学ぶ予定である。</p>	
	現代ビジネスと金融	<p>現代におけるビジネスの本質を理解するにはどうしたらよいでしょうか。本講義では「ビジネスを立ち上げるといふ架空の立場」、すなわち「起業の模擬」の視点に立ち、現代ビジネスを俯瞰的にとらえていきます。その際、金融の役割を認識するとともに、企業に投資を行う「投資家」を意識する必要があります。さらに講義では、現代ビジネスを支えている技術に触れながら、様々なビジネスシーンを有機的に結び付けて解説することを目指します。</p>	
	社会調査法	<p>社会調査とは、単にデータを収集し、分析する技術にとどまるものではなく、それらを通じて、私たちの身近な暮らしの実情と問題点を可視化し(社会課題の発見)、その背後にある問題状況を解きほぐすことで、解決のための新たな方策や知見を得るための過程および方法である。本授業では、社会調査の基礎的事項について学ぶ。具体的には、社会調査史や調査倫理をふまえながら、社会調査の意義と目的、調査方法の種類、社会調査のプロセスなどを理解することにより、社会調査の諸過程の全体像を質的調査と量的調査の両面について把握する。</p>	
	行動経済学	<p>人間が「限定合理性」のもとで意思決定と行動を行うことを前提とし、それが人々や社会の在り様にどう影響するかを検証する科学が「行動経済学」である。近年人間のヒューリスティックな意思決定に基づくプロスペクト理論や、人間行動の起点となるナッジの議論は、経済だけでなく経営実践にも応用されている。本講義では、行動経済学の重要な理論を理解し、健康問題や環境問題における応用可能性を紹介する。特に喫煙やギャンブルなどのアディクション(依存症)問題と、NIMBY(Not In My BackYard)問題のメカニズムを、実験的環境で受講生に体験してもらい参加型の講義を志向する。</p>	
	データサイエンティストのキャリア論	<p>データサイエンティストとしての生涯のキャリアの中で体験することが想定される主要なキャリアイベントの概要、その意味、そして対処方法を、キャリアの初期から終期に向けて順に講義していく。学生には、各イベントについて、事例を各種媒体で疑似体験させると共に、主要なイベントについては、ゲストスピーカーを招き、体験を直接聞く機会を持たせ、疑問点については、ゲストとの間で質疑応答させる。又、主要なイベントへの対処方法については、学生を小グループに分けて、様々な対処策の相対評価を行わせる。</p>	
	マーケティングデータ分析	<p>マーケティングを行う上では、絶え間ない仮説検証を繰り返すことが重要である。仮説の発見や検証を行う場面では、データ分析が非常に強力な武器となる。本科目では、マーケティングデータ分析でよく用いられている多変量解析法である回帰分析やロジスティック回帰分析や、量的データと質的データが混在している場合の次元縮約法なども取り扱う。さらに、商品のポジショニング分析に用いられるような、商品間類似度を表すデータの視覚化法として多次元尺度構成法を取り扱う。</p>	
	公共経営	<p>行政や公営企業、NPOなどの組織が、期待される事業の成果を達成するためには、高い生産性や持続可能性と高品質の事業/サービス提供の両立が求められる。本講義では、まず公共経営における代表的な議論である民営化、市場化テスト、PPP等のNPM(New Public Management)の理論、および費用対効果等の業績評価の技法と実際を、文献と事例から学んだ後、実際のデータと業績評価の手法を用いていくつかの政策事例の評価を試みる。</p>	
	コーポレート・ファイナンス	<p>本講義では、ビジネス価値創造を企業金融の視点からとらえ、資金需要者としての企業が持続的な企業価値の向上を実現するため、効率的に財務戦略を展開していくことを理解し、現代企業のファイナンスの実態、基礎理論および分析手法を学ぶことである。具体的には、企業会計のルールや財務諸表の分析をはじめ、貨幣の時間価値、証券価格の評価とリスク管理に関わるファイナンスの基礎理論を概観したうえで、コーポレート・ファイナンスにおける最も基本的なトピックである投資選択の意思決定、資金調達の意味決定およびペイアウトに関する意思決定に焦点を合わせ、テキストとケーススタディーを活用しながら学習していく。さらに、ファイナンスデータの特徴、統計解析方法及び統計解析結果の解釈も学ぶ。</p>	
	調査設計論	<p>本授業は、量的調査を用いて、社会課題の発見と解決策を探るための「調査力」を身につけることを目的とする。具体的には、リサーチ・クエスチョン(問い)を立て、それに関連した先行研究をベースに仮説を設定する重要性を理解したうえで、調査票の設計・実査・データセットの作成、データの分析とレポート執筆に至る一連の流れを把握する。参考までに、データアーカイブなどから公開・提供されている二次データの利用法なども併せて紹介し、利用可能なデータに関する理解を深める。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(データサイエンス学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
数理・統計系発展科目 専門発展科目	生存時間解析	生存時間解析とは、イベント(event)が起きるまでの時間とイベントとの間の関係に焦点を当てる分析方法である。ここでイベントとは、工学分野では機械の故障、医学・農学分野では生物の死亡を意味する。生存時間解析はマーケティング分野では来店予測、ブランドスイッチの予測等へも応用される。本講義では、データにイベントが起こる前に観測ができなくなる打ち切りの概念について説明し、生存時間データに用いられる確率分布(指数分布、 γ 分布など)、生存関数とハザード関数の関係性を説明する。その後生存時間の推定方法であるKaplan-Meier法や生存時間の比較を行うためのログランク検定を紹介する。さらに、Cox比例ハザードモデルの下での回帰分析やそのパラメータ推定、及びパラメトリックな比例ハザードモデル(ワイブル分布、Gompertz分布)を概説する。	
	回帰分析	例えば、授業の成績(従属変数)を勉強時間(説明変数)から予測したいとき、「成績 = 係数×勉強時間+切片+誤差」というモデルのもとに、誤差をできるだけ小さくする係数と切片の値を推定する統計解析法を、単回帰分析と呼ぶ。これを拡張した重回帰分析は、例えば、「成績 = 係数×勉強時間+係数×出席率+切片+誤差」のように複数の説明変数(勉強時間・出席率)を考慮したモデルに基づく。以上の単回帰・重回帰分析は、(線形)回帰分析と総称される。授業は3部に分けられ、第1部で単回帰分析、第2部で重回帰分析を取り上げ、それぞれの目的、計算原理、解の性質と解釈法などを講義する。さらに、第3部では、重回帰分析において複数変数の中から重要でない変数を除くスパース推定や、重回帰分析を発展させた因果分析法であるパス解析も講義する。以上の授業への能動的参加を促すため、受講生による課題発表を行う。	
	多変量解析II	例えば、受験者の複数科目(変数)の成績や、都道府県の複数気象特性(変数)の観測値のように、複数の変数からなる数値の集まりを多変量データと呼ぶ。こうしたデータを、変数間の関係を考慮しながら統計解析する諸方法は多変量解析と総称される。本講義では、多変量解析Iに続く内容として、共分散・相関係数などの基本的な統計量の行列表現を基礎にして、重回帰分析、主成分分析、因子分析、クラスター分析を初めとした多変量解析の諸方法の利用目的、基礎モデル、および、解法などを、諸方法間の相互関係を明確にしながら講義する。統計学の入門および線形代数を学んだあとに、その後の卒業研究を行う能力、さらには、データサイエンティストとして活躍できる土台を育む講義として、本授業は位置づけられる。	
	実験計画法	よいデータ分析のためには質の高いデータを得ることが重要である。実験計画法とは、質の高いデータを得るための方法論であり、様々な種類のデータ分析において基本となる。データに基づく推測において、バイアスを最小化し精度を最大化するのがその目的である。それはコストの最適化にもつながる。講義ではまず、要因と水準、応答変数、誤差などの基本的な用語とデータ構造を整理し、Fisherの3原則のような重要な概念を学ぶ。そして、1要因実験における乱塊法やラテン方格法、多要因実験における要因計画や直交計画を用いた一部実施要因計画などの実験計画およびそれに対応するデータ分析の手法(分散分析)について講義する。	
	文化計量学	文理の垣根を超え、様々な学問分野でデータ分析の重要性は認知されてきている。本講義では文化を人間の営み全体としてとらえ、文化現象を計量的に分析するための方法論について理解を深めることを目的とする。特に、文字列のような何らかの記号列として表現された文化現象を対象とする。記号列として表現された文化現象は文学、音楽学、宗教学、言語学など、様々な学問分野で得られる。本講義ではこれらの学問分野の垣根を超えて扱える、情報学と統計学の方法論を紹介する。	
	時系列解析	時系列解析の授業では、導入部分において時系列と予測とは何かについて説明し、フーリエ解析の基礎を学ぶ。フーリエ変換は様々な分野で利用され、特に時系列信号、画像処理の解析に必須なツールである。講義の後半では、微分方程式の基礎を学び確率過程や定常性の概念について学ぶ。その後、離散モデルについて学び、時系列データの予測を行うための代表的な線形モデルであるARMAモデル、ARIMAモデルの解説を行う。	
	計算機統計学	現代のデータ分析の現場では、コンピュータの性能や最適化アルゴリズムの進歩に伴い、疑似乱数を用いた分析手法が多く活用されている。本講義では、そのような疑似乱数を活用したデータ分析の手法を解説する。まず、エクセルやRを用いて様々な疑似乱数の生成法やその基本的性質を学び、ブートストラップ法やジャックナイフ法などの疑似乱数を用いたシミュレーションベースの推測法を解説する。データに事前情報を追加して推測を行うベイズ統計学の基本的な考え方と各手法を整理し、その中でアルゴリズムとして繁用されるマルコフ連鎖モンテカルロ法について解説する。	
	最適化理論	本授業では、データサイエンスの様々な場面に登場する最適化問題を数学的に処理する基礎理論、及び手法について解説する。利益の最大化、コストの最小化、経路の最短化等の問題を扱う際には、どのモデルを採用し、どのパラメータ値について、目的関数と呼ばれる評価尺度を最適化するか重要な問題である。講義の前半では、多変数関数の極値問題等、必要となる数学的知識を学んだ後、線形計画問題の主要な解法である単体法について学ぶ。後半では、非線形計画問題を扱い、勾配法、ニュートン法、および制約条件がある場合の変分問題を学ぶ。	
	医療統計	健康などに関する仮説を調べるために、人間を対象として様々な研究が行われる。そのような研究のデザイン作成やデータ分析に生物統計学が活用され、その際には倫理面やデータの不均質性などに配慮する必要がある。本講義では、データサイエンスと組み合わせた価値創造の視点から、まず、統計的因果推論の枠組みを解説し、研究疑問の定式化、ランダム化研究や観察研究などの研究デザインの特徴を説明する。そして、要因とアウトカムの関連性の指標と研究デザインの関係を整理する。生物統計学の代表的な手法(線形モデル、カテゴリカルデータ解析、ノンパラメトリック法、サンプルサイズ設定など)について解説する。	
	空間統計学	近年、計測技術や地理情報システム(GIS)の発展により各種の分野で空間情報のデータベース化が行われ、オープンデータ化が進んだことにより商圏分析、立地分析などのマーケティングや都市計画、災害情報管理などの行政政策への利活用が容易になってきた。本講義では、こうした空間情報に対してGISを活用して整理、統合、可視化を行い、空間情報の関係性やパターンを調べるための基礎知識と応用事例について学ぶ。さらに、より高度な解析を行うために、空間回帰モデル、エシジョン解析法、空間集積性の検出に関する理論とGIS及び統計ソフトウェアによる実データの解析についても取り扱う。	
心理分析	本講義では、データサイエンスとサイコメトリックスを組み合わせて、価値を創造するために必要な知識と手法を学ぶ。サイコメトリックス(Psychometrics)は、ヒトの心理・行動データを特に統計的に解析する手法を研究開発する分野であり、解析手法の適用対象となるデータの代表例は、学力・性格といったヒトの特性を測るテスト得点のデータや、ヒトが知覚する刺激の特性を測るデータなどであり、それらに潜在する構造を発見するために、解析手法が使われる。本授業は3部に大別され、第1部でサイコメトリックスを概観した後、第2部でテストデータの統計学というべきテスト理論を講義し、第3部では、特に知覚データに関わる心理尺度構成・多次元尺度法・三相主成分分析などを講義する。第2部・第3部で扱う統計手法に共通することは、データを発生させるヒトの心理プロセスを数理モデルで表し、モデルのパラメータを統計学的に推定する点にある。以上の授業への能動的参加を促すため、受講生による課題発表を行う。		
行列モデリング	本授業の内容を修得することにより、文学、社会学、経済学、経営学、医学、工学など、あらゆる領域で登場する多変量データ行列をモデル化する能力とこうした行列から意思決定に重要な情報を抽出する能力を身に付けることが可能になる。講義の前半では、経済におけるクロスセクションデータに焦点を当て、データ行列を分解する方法や近似推定する方法について説明する。講義の後半では、変数の数が観測値数よりも大きい高次元データにおいて行列を安定的に近似推定するLassoやRidgeという手法を紹介し、こうした手法によるモデル構築を通じて、モデル推定からエビデンス創出までの理解を深める。		

授 業 科 目 の 概 要			
(データサイエンス学部データサイエンス学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
情報系 発展科目	AI・機械学習 I	機械学習とは、データからその背後にあるルールやパターンを発見する手法であり、AIを支える技術の1つである。本講義では、まず、データの前処理、機械学習手法の適用、学習結果の評価などの機械学習を用いたデータ分析の基本的な流れや機械学習分野で使われる用語や概念などを解説する。機械学習の手法は、これまでに様々なものが提案されている。それらの中でも特によく用いられる分類や回帰の手法をいくつか取り上げて、理論的背景、特徴、使い方などを解説する。	
	AI・機械学習 I 演習	本講義では、AI・機械学習 I の内容の理解を深めるための演習を行う。AI及び機械学習を応用できるようになるためには、理論のみならずコーディングや実装など実践的な側面からの学習も重要である。そのため、この授業では、AIの基盤となっている技術の1つである機械学習に関して、演習を通じてモデル構築を体験し、新しい問題に対応する実践的なデータ分析の能力を身につけることを目指す。Pythonの機械学習ライブラリであるscikit-learnやRの機械学習パッケージ Caret (Classification And Regression Training) を用いて、ライブラリの使い方および特徴量エンジニアリングを習得する。トイデータだけでなく実データを用いた演習を行い、機械学習やデータ分析を実践できる世界最大級のコミュニティ「Kaggle」にも参加する。 (オムニバス方式/全15回) (15) 石川 由羽/5回 Pythonによる機械学習演習 (16) 土田 潤/5回 Rによる機械学習演習 (13) 丸野 由希/5回 機械学習コンペティションへの挑戦	オムニバス方式
	シミュレーション	シミュレーションとは、実験・観測が困難な対象や複雑な現象を理解し予測を行うための手法である。仮説を立ててモデルを構築し、プログラムで表現することによって、コンピュータ内で再現し分析を行う。本講義では、どのようにモデルを構築しプログラムで表現するのか、基本的なシミュレーションの方法と手順について説明を行う。そして、シミュレーションで得られるデータを可視化し分析する方法などを解説する。	
	AI・機械学習 II	機械学習は、与えられたデータからルールやパターンを抽出するための手法であり、様々な手法が提案されている。本講義では、AI・機械学習 I に続く内容として、それらの手法の中でも、ディープラーニング(深層学習)と呼ばれる手法が近年注目を浴びている。ディープラーニングとは、ニューラルネットワークの層を深くしたものであり、画像認識や音声認識をはじめとする様々なAIシステムの開発に取り入れられている。この講義では、日本ディープラーニング協会が実施するG検定の範囲と対応させて、AIやディープラーニングの概念や具体的手法、応用事例についての理解を深める。	
	AI・機械学習 II 演習	本講義では、AI・機械学習 II の内容の理解を深めるための演習を行う。機械学習の技術を習得するには、実践的な演習を重ねることが必須である。この授業では、近年発展が目覚ましい機械学習の手法であるディープラーニングに関する演習を行う。まず、ディープラーニングを実装するためのフレームワークである TensorFlowやKerasの使い方を学ぶ。そして、機械学習やデータ分析を実践できる世界最大級のコミュニティ「Kaggle」に参加し、実践的なデータサイエンススキルを磨く。これらの演習を通じて、ディープラーニングの応用の方法を学ぶ。	
	マルチメディア処理	マルチメディアとは、テキストや画像、動画、音声などのデータをデジタル化して統合的に扱うことである。この講義の目的は、マルチメディアデータの特性やそれらの処理方法について、データサイエンスでの活用を念頭に基礎知識や解析手法を習得することである。各種マルチメディアデータのコンピュータ上での表現方法や、入出力、処理・加工、可視化などについて実用的な課題で学ぶことにより、データ分析への応用手法の理解を目指す。	
	データベース	データサイエンス分野における研究、企業活動など実社会においても情報を集約し管理していくことは重要である。そのための汎用的な技術的基盤がデータベースであり、データを構造化しコンピュータに格納し、それらを活用することができる。データベースの設計、蓄積、活用までの一連の流れを学習することがこの講義の目的である。まずは、業務システムなどで広く活用されているリレーショナルデータベースの基礎事項やデータベースを操作するための言語であるSQLを学ぶ。加えて、データベースの基礎理論を学びデータベース設計やそれらの活用方法などを扱う。	
	情報ネットワーク	インターネットなどに代表されるコンピュータネットワークは日常生活やビジネスなどに不可欠な存在となり、情報技術の基礎としてそれらの仕組みや成り立ちを理解することは重要である。この講義の目的は、インターネットで使われている技術を中心として、ネットワークがどのように実現されているのかその原理と仕組みを理解することである。ネットワークの基本的な構成要素である、IPアドレスやルーティング、通信プロトコルなどの概念と仕組み、ネットワークにおけるセキュリティなどを扱う。	
	バイオインフォマティクス	本授業では、生命現象を解析する上で重要な概念を修得することを目標に授業を行う。講義の前半では、ゲノムDNAやタンパク質について説明したのち、代謝物を測定する質量分析計という計測機器について紹介する。その後、代謝物から疾患を予測するために必要な技法(機械学習、予測モデル、感度や特異度による評価、交差検証法など)について説明する。講義の後半では、アミノ酸の類似性を評価する方法及びタンパク質の立体構造に関わる話題について触れる。最後に、ゲノムワイド関連解析(GWAS)による遺伝子探索などの内容についても取り上げる。本授業の内容を修得することにより、バイオインフォマティクスの技術者に必要不可欠な基礎的概念の理解が可能になる。	
	数値解析	モデルによる解析やデータ分析などコンピュータを用いた計算を要する分野においては、設定したモデルに対する解析解が求められない事が多くあり、数値解析の手法が必要となる。この講義では方程式の数値解、数値積分法などの多くの分野で汎用的に用いられる数値解析アルゴリズムを紹介し、プログラミングで実装し実際の問題に応用できるようになることを目的とする。具体的な応用として、数値計算法によるデータ処理やモデル解析などを紹介する。	
	画像処理	本授業では、画像処理の基礎的概念を体系的に学ぶとともに実際に画像処理を実践する能力を修得することを目標に授業を実施する。講義の導入では、はじめに画素とは何かについて説明した後、画像表現について説明する。次に色空間であるRGB・HSVや空間フィルタ(線形、非線形、平滑化、エッジ検出)について説明する。さらに、幾何学的変換(拡大縮小、回転、平行移動など)についても述べる。講義の後半では、実際の画像データを用いて画像処理に関わる講義を行う。最後に代表的な画像認識手法を説明する。この授業の内容を修得することにより、画像処理に関わる技法の深い理解と画像処理を実践する能力を身につけることが可能である。	
シミュレーションと宇宙	シミュレーションとは現象の仮説を立ててモデルを構築しプログラミングすることによって、コンピュータ内で再現し分析や予測を行う手法である。シミュレーションの講義で学んだ手法を基に、シミュレーションが現実の課題や現象の分析にどのように応用されているかを学ぶ。特に時間・空間スケールが大きく実験・観測が困難な宇宙に関する現象を取り上げシミュレーションやデータ分析の手法について講義を行う。		
自然言語処理	自然言語とは、日本語や英語など自然発生的に生まれた言語のことであり、これらの言語をコンピュータで処理する学問分野を自然言語処理という。データサイエンス分野で扱われるデータにもテキストデータは多く存在する。そのため、テキストデータに関する分析技術を学ぶことは非常に重要である。本講義の前半では形態素解析や構文解析などの自然言語処理の基礎技術について学び、後半では機械学習やディープラーニング(深層学習)を用いた自然言語処理のアルゴリズムとその実装方法について学ぶ。		

授 業 科 目 の 概 要			
(データサイエンス学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ソフトウェア設計	高度化・大規模化したソフトウェアを構築し、運用、開発、保守していくためには適切なソフトウェア設計の手法を学ぶ必要がある。一通りのプログラムの構文を習得しプログラミングを経験していることを前提に、要求分析、設計、構築といったソフトウェア開発の全体的な流れを紹介する。特に、オブジェクト指向分析などで用いられる統一モデリング言語、デザインパターンに基づく設計やそれらを活用したリファクタリングなど、オブジェクト指向プログラミングに基づいた開発手法の習得を目的とする。	
	Webプログラミング	Webは日常生活のあらゆる場面で活用されており、情報技術の重要な応用の1つである。この授業では現代的なWebプログラミングに必要なWebアプリケーションフレームワークを用いた開発方法について学習する。オブジェクト指向型プログラミング言語Rubyとその代表的なフレームワークであるRuby on Railsを用いる。まずは、モデル、ビュー、コントローラなどのいわゆるMVCモデルによる処理の流れやルーティング、データベースとの連携などWebプログラミングに必要な概念や技術を学ぶ。そして、実際のWebアプリケーション構築を行い、その実践的な開発手法を習得する。	
	情報倫理・情報社会	現代の情報社会においては、インターネットを通じて社会が結びつき膨大な情報が氾濫し、誰もが情報を受信する立場にも発信する立場にも成りうる。このような社会で重要なのが、情報を扱う上で、悪影響を及ぼさずより良い社会を目指すために守り身につけるべき行動規範であり、情報倫理とよばれる。この講義では、まず情報社会の基盤となるコンピュータやインターネットなどの技術の基礎知識やそれらの歴史などを確認する。その上で、情報倫理における課題であるメディアリテラシーやプライバシー、著作権、情報保護、セキュリティに関して、現実に発生した事例を取り上げながら理解を深める。	
教職関連科目	数学科教育法1	具体的な指導案や授業記録を手掛かりにして、学習指導要領に示された中学校・高等学校数学科の目標、内容、指導法、評価についての基本を理解したうえで、各分野の構造や指導上の留意点について理解する。また、中学校・高等学校数学科と背景となる学問領域との関係や学習評価の考え方を理解し、教材研究について活用できるようになるとともに、発展的な学習内容について探究していく。	
	数学科教育法2	中学校数学科の数と式、図形、関数、データの活用との4つの領域での指導の要点と事例や関係する数学的背景などの各領域における教材開発において重要な点を解説する。また、各領域での教材開発の際に何が本質的であるかを理解する。さらに、各領域における数学的な見方・考え方及び数学科の学習指導要領のねらいに沿った形で各単元の構成方法・教材開発の方法や数学的視点からの授業評価について学ぶ。	
	数学科教育法3	中学校・高等学校数学科の目的と目標および各領域の指導の意義を理解した上で、生徒の実態に合わせた教材開発や授業設計を行い、中学校・高等学校数学科の指導の基本的な考え方と指導上の注意点を、具体例を通して理解する。また、中学校・高等学校数学科の特性に応じたICTの活用法なども含めて理解するとともに、模擬授業を計画・実施し、教材開発やICTの指導上の注意点などについて模擬授業を通して分析し、授業改善に役立てる。	
	数学科教育法4	中学校数学科の授業の計画、実践、ふりかえりの過程を体験し、数学の教師としての資質や能力を養い、教育実習や将来の教職活動へ円滑に進めるようにする。講義では、授業づくりのための基本的な考え方と方法の説明の後、授業構成方法、生徒の困難点などの授業作りのポイントを解説する。その後、グループ毎に一つの内容を取り上げ、指導計画を作成し、マイクロティーチングを実施する。最後に、実践を振り返って、授業作りのポイントをふりかえり、教材研究と授業実践力に関する基礎的な能力と態度を身につける。	
	情報科教育法1	この講義では高等学校の共通教科及び専門教科「情報」における教育目標や指導内容を十分に考察していく。さらに、「この教科を生徒たちに教えることが意味すること」、また、「生徒たちに理解してほしいこと」について深く考え、将来授業の「計画・設計・実施・反省」が可能な教員の育成を目指し、情報教育を理解、修得していくことを目標とする。授業の進め方については「教員から行う講義のスタイル」と「学生参加型の演習スタイル」の2通りを交えながら進める。情報科教育法1では、教科「情報」で教えていく内容をしっかり理解してもらうために、講義スタイルの授業を中心とするが、できる限り学生に直接参加してもらう時間を多く設定し、自分たちで考える時間を確保する。	
	情報科教育法2	この講義では高等学校の共通教科及び専門教科「情報」における教育目標や指導内容を十分に考察していく。前期の「情報科教育法1」での学習内容を踏まえ、実践的な活動を中心に行う。情報教育そのものを理解しつつ、教員として現場の教壇に立つために必要な能力を実践を通してしっかり身につけ、自らの授業を運営できる人材の育成を目標とする。授業の進め方については「教員から行う講義のスタイル」と「学生参加型の演習スタイル」の2通りを交えながら進める。情報科教育法2では、前期開講の情報科教育法1の内容を踏まえて、実践的な能力を身につけていくことを目標とする。したがって、講義スタイルよりも学生参加型の時間を多く設定し、学生が自分で考える時間を確保する。	
演習科目	入門演習I	冊子『アカデミックスキル』を用いて①研究倫理(データ管理、守秘義務、著作権保護、不正行為(ねつ造、改竄、盗用)の禁止など)、②情報収集の方法(文献や資料の検索と収集、図書館やデータベースの利用、実地調査など)、③レポートまたはプレゼンテーションの方法(レポートの書き方、プレゼンテーション資料作成の方法など)について、ポイントを説明したうえで、各受講生に具体的な作業を行ってもらうことにより大学で必要とされるアカデミックスキルを習得する。	
	入門演習II	大学での学修で必要とされる資料の調べ方と整理の方法、発表のためのレジュメの作成、討論の方法などについて、各自が種々の資料を基に報告し、ゼミ内で議論を行うことによりこれらの技能を習得する。また社会課題の発見にはクリティカル・シンキングを身に付けることが求められる。本演習では、文献の批判的な読み方、問題意識の絞り方を解説する。学生は各自で文献内容の報告・発表のためのレジュメを作成し、発表する。発表された内容について、グループで議論し、結果を報告する。なお、発表のための文献を探索する方法については授業内で説明する。	
	データサイエンス基礎演習I	データサイエンス基礎演習Iでは、データサイエンス学部における3領域(社会ソリューション、統計学、情報学)で実施している研究についての理解を深め、データサイエンスが社会実装されているかを学ぶ。演習では、ゲストスピーカーを招聘し社会実装の現場について具体的に現状を学ぶことにより、データサイエンス学部における学習のモチベーションを高める。受講生は各自の問題意識に基づいてテーマを選び、先行研究のレビューを行う。具体的には、各自のテーマに関する先行研究を収集し、その概要をまとめたレジュメを作成し発表を行う。その内容に対して、受講生全員でディスカッションを行い、何回かの発表を通して具体的な研究計画を立てるための準備を行う。	
	データサイエンス基礎演習II	データサイエンス基礎演習IIでは、今後取り組む研究領域やテーマを絞りこみ、具体的な研究計画を立てる。演習では、各自が選んだテーマに関する先行研究をレビューし、理論的な枠組みを形成するとともに、研究手法についての理解を深め、研究計画を立てる。具体的には、各自のテーマに関する先行研究を収集し、その概要をまとめる。先行研究を踏まえて、自分の問題意識を明確にし、研究計画の立案にむけて仮説や研究方法などについて発表を行う。その内容に対して、受講生全員でディスカッションを行い、このプロセスを重ねた上で、研究計画書をまとめ発表する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(データサイエンス学部データサイエンス学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
	データサイエンス実践演習 I	これまでに学修したデータサイエンスに関する知識と具体的な活用領域(統計学、情報学、社会ソリューション)への繋がり理解を深めるため、各分野の教員に配属し、より実践的な演習をゼミ形式で行う。各分野の専門家の指導の下で、より高度な能力を身につけ、自ら直面する課題を解決することができるようになり、それら表現する能力も養う。また、データサイエンス基礎演習 I から取り組んだ各自の課題を解決するための方策について検討する。		
	データサイエンス実践演習 II	データサイエンス実践演習 I に引き続き、これまでに学修したデータサイエンスに関する知識と具体的な活用領域(統計学、情報学、社会ソリューション)との繋がりに関する理解を深めるため、各分野の教員に配属し、より実践的な演習をゼミ形式で行う。各分野の専門家の指導の下で、より高度な能力を身につけ、自ら直面する課題を解決することができるようになり、それら表現する能力も養う。また、データサイエンス基礎演習 I から取り組んだ各自の課題を解決するための問題点を理解する。		
	データサイエンス上級実践演習 I	データサイエンス実践演習 I、データサイエンス実践演習 II に引き続き、これまでに学修したデータサイエンスに関する知識を具体的な活用領域(統計学、情報学、社会ソリューション)との繋がりに関する理解を深めるため、各分野の教員に配属し、より実践的な演習をゼミ形式で行う。各分野の専門家の指導の下で、より高度な能力を身につけ、自ら直面する課題を解決することができるようになり、それら表現する能力も養う。また、データサイエンス基礎演習 I から取り組んだ各自の課題を精査し、先行研究の調査、問題点などの改善、新たな調査や分析を行う。		
	データサイエンス上級実践演習 II	データサイエンス上級実践演習 I に引き続き、これまでに学修したデータサイエンスに関する知識を具体的な活用領域(統計学、情報学、社会ソリューション)との繋がりに関する理解を深めるため、各分野の教員に配属し、より実践的な演習をゼミ形式で行う。そして、データサイエンス基礎演習 I から取り組んだ各自の課題意識に応じた研究について、新規性、独自性などを含む学術論文に準ずる形でまとめられるよう、論文としての体裁やデータの解析、表現等について精査する。		
	卒業研究	4年間の学びの集大成として、これまでに身につけたデータサイエンスに関わる知識と実践的能力とを総合し、自分自身の関心を研究としてまとめることを目的とする。策定した研究計画に基づき、倫理指針を遵守したうえでデータを収集し、統計的な方法を用いてデータを処理する。得られた結果に基づき、論理的に考察することで各自が設定した問題を解決する。卒業論文を作成する過程で、科学的な行為を自主的に実践するための技術を獲得するとともに、科学的探究の態度を涵養することを目標とする。		
建学科目群	仏教学	仏教学 I A	本講義は京都女子大学の建学の精神を学ぶ科目である。釈尊(ゴータマ・ブッダ)の生涯とその思想を、講義形式で学ぶ。まず釈尊が誕生した古代インドの社会状況、思想的背景を理解したうえで、釈尊の生涯について、誕生、出家、成道、入滅など重要な事績に沿って学習を進めていく。それを踏まえて、縁起や無我、あるいは四聖諦などといった釈尊の基本的な教説を取り上げ、その内容を正確に把握し、重要性を理解する。また、釈尊の教えが、現代社会を生きる人間にとっていかなる意義を持つのかを考察する。	
		仏教学 I B	本講義は京都女子大学の建学の精神を学ぶ科目である。釈尊入滅後の仏教の展開を、大乘仏教を中心に講義形式で学習する。大乘仏教は、自己を含めたあらゆる物事へのとらわれを離れて、他者を利益する精神を重視し、理論的には空の思想、実践的には菩薩の理念を基礎として展開していく。本講義では、大乘仏教の思想的な特徴を、その成立の背景や経緯を踏まえて明らかにする。また、その思想展開を概観するなかで、親鸞の思想の母体となった浄土教についても触れて、さらに発展的に浄土教の展開と親鸞の思想を学ぶ礎を築く。	
		仏教学 II A	本講義は京都女子大学の建学の精神を学ぶ科目である。「仏教学 I A・I B」で学んだ仏教思想の基礎的な理解をもとに、大乘仏教が志向する一切衆生の救済を具体的に開顕した浄土仏教について、インド・中国・日本での展開・受容を学ぶ。具体的には、法然や親鸞が特に重要視した浄土仏教の基本経典(浄土三部経)の内容と、そこに示された仏のこころを受け継いで親鸞に至った歴史を学び、親鸞の生涯にも触れながら、その思想の背景や基盤を理解することが目的である。	
		仏教学 II B	本講義は京都女子大学の建学の精神を学ぶ科目である。「仏教学 II A」で学んだ浄土仏教の基本と親鸞の基本思想の理解をもとに、さらに親鸞思想の普遍性と真実性、およびその現代的意義をより深く考察する。法然に出遇った親鸞は、家族を持ちながら仏道を歩み続ける中で、人生に対する洞察と思索が深められていくが、仏の心に向き合い、常にごまかすことなく己れを見つめている。親鸞の『教行信証』を始めとする著作や、その語録ともいえる『歎異抄』を通して、親鸞の生き方や教えが持つ現代的意義を理解することを目的とする。	
共通科目群	言語コミュニケーション科目	英語 I A1	英語圏を中心とした、異文化に関するエッセイを読む中で、まとまった量の英文を素早く、能動的、かつ批判的に読む様々な訓練を行う。「キーワード読み」や「チャンク読み」などの訓練や、英文パラグラフの構造を理解して主題を読み取る訓練などを行います。また、自文化と異文化の類似点と相違点を確認し、それらの背後にある考え方や価値観を意識化する。ディスカッションなども取り入れながら、複数の文化の考え方や価値観を比較することで、これからの社会に必要な異文化理解能力について考察する。さらに、教科書だけではなく、eラーニング教材(ALC NetAcademy NEXT)も併用し、なるべく多くの量の英文を読むように心がける。	
		英語 I A2	英語での基本的なコミュニケーション、特に身近な話題について聴きとり、話すことができることを目的とする。また、その結果、英語のスピーキングへの自信をつけることを目標とする。前期は、教科書の前半の章を学習する。ロールプレイ、プレゼンテーション、インタビュー、クラスメートとの共同作業、発音練習、音読など、実際に「英語を話す」学習活動を行うことで、英語運用能力を身につけられるように授業を進める。授業への積極的な参加と発言が極めて重要となる。	
		英語 I B1	英語圏を中心とした、異文化に関するエッセイを読む中で、まとまった量の英文を素早く、能動的、かつ批判的に読む様々な訓練を行う。「キーワード読み」や「チャンク読み」などの訓練や、英文パラグラフの構造を理解して主題を読み取る訓練などを行う。また、自文化と異文化の類似点と相違点を確認し、それらの背後にある考え方や価値観を意識化する。時にはディスカッションなども取り入れながら、複数の文化の考え方や価値観を比較することで、これからの社会に必要な異文化理解能力について考察する。さらに、教科書だけではなく、eラーニング教材(ALC NetAcademy NEXT)も併用し、なるべく多くの量の英文を読むように心がける。	
		英語 I B2	英語での基本的なコミュニケーション、特に身近な話題について聴きとり、話すことができることを目指す。また、その結果、英語のスピーキングへの自信をつけることを目標とする。前期は、教科書の前半の章を学習する。ロールプレイ、プレゼンテーション、インタビュー、クラスメートとの共同作業、発音練習、音読など、実際に「英語を話す」学習活動を行うことで、英語運用能力を身につけられるように授業を進めていく。授業への積極的な参加と発言が極めて重要となる。	
		英語 II A1	グローバル社会の中で、様々な情報を批判的な角度で読み解き、思考力を育てることを目標とする。世界の様々な社会問題、例えば、留学、原子力、税、移民など国際人の一般常識として知っておくべきテーマがたくさん取り上げられている教科書を使用し、英語の読解力を高めていく。また、様々な英語の文体、例えば広告、社説、白書、ブログなどにも触れる。1年生の時に学んだことをさらに深めるために有益な授業になる為、積極的な受講を望む。	
		英語 II A2	様々なメディアの英語を利用して、英語の聴き取りと読解の両方の力を伸ばすことを目標とする。テレビドキュメンタリー番組やDVDなど視聴し、その概要をとらえる訓練を行う。また、それに関連する英文記事や文章を読み解くことで、時事的な英語表現や語彙に慣れる訓練も行う。題材には、異文化に対する視野が広がるよう世界の文化や社会問題に関するものを選ぶ。予習、また、授業への積極的な参加が求められる。	
		英語 II B2	英語での基本的なコミュニケーション、特に身近な話題について聴きとり、話すことができることを目指す。また、その結果、英語のスピーキングへの自信をつけることを目標とする。前期は、教科書の前半の章を学習する。ロールプレイ、プレゼンテーション、インタビュー、クラスメートとの共同作業、発音練習、音読など、実際に「英語を話す」学習活動を行うことで、英語運用能力を身につけられるように授業を進めていく。授業への積極的な参加と発言が極めて重要となる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(データサイエンス学部データサイエンス学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語ⅡA3	本授業では映画を通して英語力を鍛え、さらには英語圏の文化を様々な角度から観察し理解することを目的とする。その国の言語文化を知るうえで実により教材となる為、海外の映画(ドラマ、アニメを含む)を教材とする。毎回の授業は大きく2部構成になっており、ひとつは、教科書の各Unitを使って英語力を鍛える構成。具体的にはリーディング、内容理解問題を行い英語の力を伸ばす。もうひとつは、映画に関連する文化的背景や、映画の中の英語学的に興味深い言語現象を考察し、より深い学びへとつなげていく。この後半部分では、教科書外の映画シーンも多数織り交ぜ、英語力アップにつながる勉強法も紹介する。授業では毎回、その日のUnitに関する英語の小クイズを実施する。また、受講生には学期中に2度、自分の好きな映画に関するレポートを提出を求める。レポートのテーマになりそうな話題は、教員からも提供する。	
	英語ⅡA4	将来、留学や海外旅行を考えている学生のための準備クラス。観光産業で働いたり個人的楽しみで海外旅行を考えている人に役立つ。異文化コミュニケーションを理解して、旅行などで使用する表現ややりとりを学ぶ。海外でトラブルに直面した際の解決方法、カルチャーショックへの対処方法、海外での友人の作り方などを学びながら、会話の練習も行う。最後には、自分でインターネットで簡単な調査をして発表も行う。	
	英語ⅡA5	長期、短期に関わらず、英語圏へのホームステイや留学を考えている人、また、聞き取りや会話の力をつけたい人のためのクラスとする。留学先の授業についていけるように、英語圏の教室文化を再現する。場面設定をしたダイアログを練習し、あなたが留学したい国について調査を行う。自分のこと、日本のことを説明できるようにし、ホームステイの準備を行う。インターネットを使用した調査を行い、英語での発表も実施する。夏休みに短期語学留学を考えている方、また、留学予定が無くても留学気分が味わいたい方に積極的な参加を求める。	
	英語ⅡA6	英語の4技能(読む、書く、聴く、話す)を伸ばすことを目標とする。最近のファッショントレンドやデザインをテーマに会話の練習を行い、自分の意見を英語でまとめ、ディスカッションも実施する。また、有名デザイナーやその作品について調べ、自分のデザインをクラスメートに紹介する。きちんと出席する事、短いプレゼンテーション、復習が求められる。プレゼンテーションにはインターネットを利用した調査も必要となる。	
	英語ⅡA7	ネット上の様々な英語のサイトを利用して、必要な情報を英語で探し出し、理解し、各自の勉強や生活に役立てることができる力を養う。様々な国や文化、ショッピング、経済、仕事等についての英語のウェブサイト、SNS、ブログなどを読み、内容を把握し、比較し、自分の意見を発信する。また、それらの活動を通じて、どのように他者を助けることができるのかについても学ぶ。世界について学びたい人、インターネットの利用法を学びたい人、英語とコンピューターのスキルを伸ばしたい人のための授業とする。	
	英語ⅡA8	TOEICテストで目標とする点数を取得すること、TOEICテストの問題形式を活用して英語の4技能を磨くことを目標とする。「対話の成立」と「情報の流れ」に注意することで、ポイントとなる箇所を正しく聴く・読む訓練をおこなうと同時に、頻出する語彙・表現の習得に努める。テスト対策として、試験問題の各パートごとの問題形式とそのねらいを理解し、時間内に解答を選択する効率的なテクニックを身につけることを目指す。また、ポイントとなる箇所を正しく聴く・読む訓練を行い、目標とする点数を取得することも目指す。TOEICテストに頻出する語彙・表現・問題形式の攻略法を、分野別に演習形式で学習する。参考書およびTOEIC対策に結びつく基本的な学習方法も随時紹介を行う。英語の4技能向上のために、聴く・読む学習活動について、自律した学習姿勢が身につくこと、リスニング問題を通して会話の成り立ちや流れを理解することも目的とする。	
	英語ⅡB1	グローバル社会の中で、様々な情報を批判的な角度で読み解き、思考力を育てることを目標とする。世界の様々な社会問題、例えば、留学、原子力、税、移民など国際人の一般常識として知っておくべきテーマがたくさん取り上げられている教科書を使用し、英語の読解力向上を目指す。また、様々な英語の文体、例えば広告、社説、白書、ブログなどにも触れる。1年生の時に学んだことをさらに深めるために有益な授業になる為、積極的な受講を望む。	
	英語ⅡB2	様々なメディアの英語を利用して、英語の聞き取りと読解の両方の力を伸ばすことを目標とする。テレビドキュメンタリー番組やDVDなど視聴し、その概要をとらえる訓練を行う。また、それに関連する英文記事や文章を読み解くことで、時事的な英語表現や語彙に慣れることも目的とする。題材には、世界の文化や社会問題に関するものを選ぶことで、異文化に対する視野が広がるように努める。家での予習など授業への積極的な参加が求められる。	
	英語ⅡB3	本授業では映画を通して英語力を鍛え、さらには英語圏の文化を様々な角度から観察し理解することを目的とする。その国の言語文化を知るうえで実により教材となる為、海外の映画(ドラマ、アニメを含む)を教材とする。毎回の授業は大きく2部構成になっており、ひとつは、教科書の各Unitを使って英語力を鍛える構成。具体的にはリーディング、内容理解問題を行い英語の力を伸ばす。もうひとつは、映画に関連する文化的背景や、映画の中の英語学的に興味深い言語現象を考察し、より深い学びへとつなげていく。この後半部分では、教科書外の映画シーンも多数織り交ぜ、英語力アップにつながる勉強法も紹介する。授業では毎回、その日のUnitに関する英語の小クイズを実施する。また、受講生には学期中に2度、自分の好きな映画に関するレポートの提出を求める。レポートのテーマになりそうな話題は、教員からも提供する。	
	英語ⅡB4	旅行先や観光業などで使われる表現やコミュニケーション・スタイルについて学ぶ。将来、ホテル、エアライン、観光ツアーガイド、小売業などの観光業や接客業につきたい人、海外旅行で英語を使用したい人に役立つクラスである。英語会話や聞き取りの力を伸ばしたい人の受講も歓迎する。ホテル、旅行業等の観光産業について学び、そこで働く際に有益な表現ややりとりの練習を実施する。顧客とのやりとりの仕方も学修する。ロールプレイ、ゲーム、プレゼンテーション、関心のある産業分野についてインターネットで調べて発表も行う。	
	英語ⅡB5	長期、短期に関わらず、英語圏へのホームステイや留学を考えている人、また、聞き取りや会話の力をつけたい人のためのクラスである。留学先の授業についていけるように、英語圏の教室文化を再現する。場面設定をしたダイアログを練習し、あなたが留学したい国について調査を行う。自分のこと、日本のことを説明できるようにし、ホームステイに備え準備を行う。インターネットを使用した調査を行い、英語での発表も実施する。夏休みに短期語学留学を考えている方、また、留学予定が無くても、留学気分が味わいたい方に、積極的な参加を求める。前期(ⅡA5)とは違う内容の為、前期をすでに履修した人も履修可能である。	
	英語ⅡB6	将来、子供たちに英語を教えてみたい人のための授業である。子供への英語の教え方、授業の組み立て方、教材の作り方、英語での子供の遊び、などなど、詩、童話などを学習する。また、授業でこれらをいかに効果的に使い、コミュニケーションをはかるかも学ぶ。インターネットを使って英語で物を調べ、発表も行う。将来自分の子供の英語教育を考える方にも、児童への英語教育をキャリアとして考えたい方にも有用な科目である。子供に英語を教えることに興味のある人、将来、教育などに関わりたい人、また、英語の聞き取りや会話の力をつけたい人の受講を求める。	
	英語ⅡB7	このクラスでは、様々なマンガやアニメを通じて英語を学ぶ。様々なジャンルのマンガやアニメを題材にし、それを読み解き、それについて発表を行う。オリジナルの短いマンガの作成も行う。いくつかの国際的に有名なアニメも題材とする。様々なアニメや漫画を見ながら、それらがなぜ海外で広く受け入れられるのかについて考え議論する。また、自身が選んだ漫画を読み、それに関して短いプレゼンテーションも実施する。アニメや漫画などに関心のある学生はもちろん、ポップカルチャーを通して日本や英語圏の文化を理解したい学生、英語の聞き取りや会話を練習したい学生にも推奨する授業である。	

授 業 科 目 の 概 要			
(データサイエンス学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語ⅡB8	TOEICテストで目標とする点数を取得すること、TOEICテストの問題形式を活用して英語の4技能を磨くことを目標とする。「対話の成立」と「情報の流れ」に注意することで、ポイントとなる箇所を正しく聴く・読む訓練をおこなうと同時に、頻出する語彙・表現の習得に努める。テスト対策としては、試験問題の各パートごとの問題形式とそのねらいを理解し、時間内に解答を選択する効率的なテクニックを身につけることができるようになることを目標とする。また、ポイントとなる箇所を正しく聴く・読むことの訓練を行い、目標とする点数を取得することを目指す。TOEICテストに頻出する語彙・表現・問題形式の攻略法を、分野別に演習形式で学習する。参考書およびTOEIC対策に結びつく基本的な学習方法も随時紹介予定である。4技能の向上のためには、聴く・読む学習活動について、自律した学習姿勢が身につくこと、また、リスニング問題を通して会話の成り立ちや流れを理解することも目的とする。	
	英語ⅢA1	以下のことを目標とします。 1. グローバル・ 이슈をテーマにした洗練された格調高いニュースメディア英語の特徴に触れることができる。 2. ニュースメディア英語の特徴(文体・語彙)を把握することで効果的に内容を把握することができる。 3. 英文記事で取り上げられている国・地域についてグローバル・マインドを持ち、自分の意見を述べるすることができる。 4. 英英辞典等を活用し、生きた語彙・表現力を身に付けることができる。 具体的な授業内容としては、(1)国連ニュースと(2)ジャパン・タイムズの記事から構成された教科書を使用する。うわべだけの内容把握(英文を和訳できる)をするのではなく、なぜそうした問題がその国・地域に起こっているのか、国際社会の出来事に関心を持つと同時に異文化理解の視点を大切に演習形式で進める。「何かを知るために英文記事を読む」という本来の英語リーディングの学習姿勢を重視する。	
	英語ⅢA2	英語のWriting能力の向上を目指したクラスである。ただし、レポートなどの硬い文章ではなく、各自の個性が生かせるような楽しいクリエイティブ・ライティングを実施する。楽しい子供向けの童話や、自由な発想で詩などを書き、ネイティブの教員が、丁寧に指導を行う。今まで経験したことのない楽しい英作文で、英語を書くことに自信をつけていくことを目指す。	
	英語ⅢB1	以下の能力を身につけることを目標とする。 ・社会問題をテーマにした中~上級レベルの英文読解ができる。 ・教科書や授業から得た情報を的確にまとめることができる。 ・批判的な読み方とは何かを理解できる。 ・自分の意見を平易な英語で効果的に述べるができる。 具体的な授業内容は次の通りである。ソーシャルメディアの影響、表現の自由、格差社会など、世界的に重要な問題に関する文章を、「批判的に読む」「批判的に読む」と聞くと、誤りをあげつらうといったイメージを持つかもしれないが、ここでは「得た情報を鵜呑みにしない」「真偽を自ら判断する」「文章の良い点、足りない点を正当に評価する」といった知的な行いを指す。「得た情報を吟味し、また自ら調べ、意見を述べる」という、社会で求められる基本的かつ重要なスキルを、英文の読解を通して伸ばす。随所で英文による短いコメントも求める予定である。世界の諸問題を英語で読み考えたい学生を歓迎する。大学院入試その他、各種試験の準備をしたい学生にも適している。	
	英語ⅢB2	この授業はアカデミック・ライティングとプレゼンテーションに重点を置いた授業である。インターネットなどで、テーマに関する情報を調べて発表する等の活動も行う。原稿を書くところから、発音、ボディランゲージ等、堂々と英語で発表ができるようになるまでの手順を、順を追って丁寧に指導する。ゼミや卒論の発表を英語でしてみたい人、大学院進学を考えている人、仕事で英語を使う予定のある人に適している。	
	ドイツ語ⅠA1	初歩的なドイツ語文法について、毎週特定のテーマに沿って、文法事項を習得していくことを目指す。グループワークやパートナー練習などを通して、ドイツ語に積極的に触れる機会も設ける。まずはアルファベットの発音やドイツ語特有の読み方を学び、ドイツ語の音自体にも慣れるよう練習していく。音に慣れた後は、あいさつにはじまり、実際に使える表現と文法の習得を目指す。また、ドイツ語圏の文化も紹介予定なので、積極的に授業に参加するよう求める。	
	ドイツ語ⅠA2	実践的な練習を経ながらドイツ語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。とりわけドイツ語IB2の課題となる「聞く」「話す」への基礎を築くことを目的とする。以下3点の知識、能力を身につけることが本授業の到達目標。 ・「こんにちは」「ありがとう」「どういたしまして」等の基本的な会話が、臨機応変にできる。 ・出身や趣味、大学での専攻など、自分に関する情報をドイツ語で表現できる。 ・「～がほしい」、「～はどこですか」など、現地を訪れた際に役立つ表現を駆使できる。	
	ドイツ語ⅠB1	アルファベットの発音やドイツ語特有の読み方に慣れるよう練習していく。また、より正確にドイツ語で表現できるよう、文法にも留意していく予定である。各課で習う表現を確実に定着させるために、パートナー練習を行うので、大きな声で発話するように求める。身の周りのものを表す名詞だけでなく、使用頻度の高い動詞も身につくように学習する。ドイツ語圏の文化も紹介予定なので、積極的に授業に参加するよう求める。また、本学主催のドイツ語俳句コンテストに向けて、ドイツ語俳句についても学んでいく。	
	ドイツ語ⅠB2	ドイツ語IA2からひきつづき、実践的な練習を経ながらドイツ語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。とりわけ「聞く」「話す」に時間をかけていく予定である。また、本学主催のドイツ語俳句コンテストに向けた準備もあるので、積極的な授業参加がのぞまれる。習得したドイツ語はパートナー練習やプレゼンテーションで活用できることを目標とする。(グループ発表か単独発表かはクラス規模によって変更)	
	ドイツ語ⅡA1	ドイツ語ⅠA1およびⅠB1で学んだことを復習・整理しながら、もう少し複雑な文法事項、たとえば、形容詞の格変化、比較級・最上級、受動表現、関係文、接続法などを学び加え、ドイツ語文法の基礎的学習をひととおり完成させる。教科書に沿った勉強のほか、様々な練習問題にドリル式に取り組み、「独検」の過去問を解く。ドイツ語ⅡB1では実際に少し長めの文章を読むことになるため、そのための基礎作りも目的とする。	
	ドイツ語ⅡA2	この授業は1年次にドイツ語を学んだ学生のためのドイツ語コミュニケーションの続きである。教科書やプリント教材を使いながら、ペアワークの学習活動を通じてコミュニケーション能力、特に話す力と聴く力を高める。また、通常授業以外にコンピュータを活用してドイツ語を学習したい学生や、独検に挑戦したい学生のためのeラーニング学習も紹介する。7回目の授業からはドイツへの旅行を企画することで、より実践的なドイツ語会話を身につけることを目標とする。	
	ドイツ語ⅡA3	ドイツ語コミュニケーションの能力をレベル・アップするために新しい言葉、表現と文法を楽しく学ぶ。DVDやヴィジュアルな教材を使いながら、一年目で学んだ会話を踏まえて、新しい言葉や表現をさらに身につけることを目標とする。ペアワークやロールプレイなどをしながら会話練習やヒアリング練習を行い、秋の検定試験などの対策も行う。現在ドイツ語圏で流行している音楽、社会情報などを紹介するため、ドイツ語圏の社会や文化に興味をもった学生に適している。	
	ドイツ語ⅡB1	ドイツ語ⅡA1の学習を継承し、様々な文法練習に取り組んだり、短いけれども内容のあるドイツ語文を教材とする。(たとえば、メルヒェンや比較的平易な表現の現代小説の一節など。)これまでにひととおり学んだ大まかなドイツ語の知識を確かめながら、さらに根底のある実力を身につけ、中級レベルへの橋渡しを行う。並行してドイツ語圏文化に関する知識の習得も目指す。希望者がいれば「独検」の過去問も解く予定。	

授 業 科 目 の 概 要			
(データサイエンス学部データサイエンス学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ドイツ語ⅡB2	この授業は前期のドイツ語ⅡB1の続きで、1年次にドイツ語を学んだ学生のためのドイツ語コミュニケーション科目である。ゲームを取り入れたペアワークやグループ活動を通じてドイツ語会話を鍛えるとともに、ドイツ語で話し手の気持ちを表現するコミュニケーション能力を鍛えることを目標とする。また、通常授業以外にコンピューターを活用してドイツ語を学習したい学生や、ドイツ語検定に挑戦したい学生のためのeラーニング学習も紹介する予定。	
	ドイツ語ⅡB3	ドイツ語コミュニケーションの能力をレベル・アップするために新しい言葉、表現と文法を学習する。DVDやヴィジュアルな教材を使いながら、一年目で学んだ会話を踏まえて、新しい言葉や表現をさらに身につけることを目標とする。ペアワークやロールプレイなどをしながら会話練習やヒアリング練習を行い、ドイツ語で咄嗟のやりとりにも対応できるよう学習を進める。現在ドイツ語圏で流行している音楽、社会情報などを紹介するため、ドイツ語圏の社会や文化に興味をもった学生に適している。	
	ドイツ語ⅢA1	初歩の文法と会話をひととおり終え、「これからは長文を読めるようになりたい」と望む学生を対象に、これまで学んできたドイツ語の知識を踏まえてもう一段上の読解力・表現力を身につけさせることを目的とする。教科書に沿って進めることを基本とし、「旅行」「童話」「歴史」「芸術」といった現代ドイツ語圏文化について書かれたテキストを読みながら、文法・語法・表現などを学習する。各章に配されたテキスト読解を中心に、その関連の練習問題を解答する。それによってこれまでに学習したドイツ語の知識の定着を図る。	
	ドイツ語ⅢA2	ドイツで出版された、DVD・eBookなどを教材に使うことで、聴く力、会話力、読解力を深める授業である。ドイツ語圏の若者文化について新しい知識を得て、主に会話の練習を行う。欧州におけるドイツ語圏について学ぶことで、語学だけでなく、時事問題についても一緒に考えていく。教材はもちろんのこと、映画やニュースサイトなども参照しながら、生きたドイツ語表現の習得を目指す。ドイツ語圏の社会や文化に興味をもった学生に適している。	
	ドイツ語ⅢB1	ドイツ語ⅢA1を継承し、これまで学んできたドイツ語の知識を踏まえて、もう一段上の読解力・表現力を身につけることを目標とする。教科書に沿って進めることを基本とする。「旅行」「童話」「歴史」「芸術」といった現代ドイツ語圏文化について書かれたテキストを読みながら、文法・語法・表現などを学ぶ。各章に配されたテキスト読解を中心に、その関連の練習問題を解答する。それによってこれまでに学習したドイツ語の知識の定着を図る。	
	ドイツ語ⅢB2	ドイツで出版された、DVD・eBookなどを教材に使うことで、聴く力、会話力、読解力を深める授業である。ドイツ語圏の若者文化について新しい知識を得て、主に会話の練習を行う。欧州におけるドイツ語圏について学ぶことで、語学だけでなく、時事問題についても一緒に考えていく。教材はもちろんのこと、映画やニュースサイトなども参照しながら、生きたドイツ語表現の習得を目指す。ドイツ語ⅢA2のつづきになりますが、ドイツ語圏の社会や文化に興味をもった学生に適している。	
	ドイツ語ⅢA3	これまでの学習の上に立ち、より高度な読解力と表現力を養う。本学におけるドイツ語学習の最終段階となる科目である。総仕上げから更なる発展を目指して、原則として、学習教科書用に使われたのではないドイツ語を教材とする。困難な場合もあると思われるが、そのようなテキストに取り組んだ経験が、将来自分に興味をもった分野のドイツ語を自力で読むための礎となることを目標とする。一度にたくさん読む、というよりはよく辞書を引き精読することを心がけて授業を進める。	
	ドイツ語ⅢB3	ドイツ語ⅢA3の内容から継続してこれまでの学習の上に立ち、より高度な読解力と表現力を身につける。本学におけるドイツ語学習の最終段階となる科目である。総仕上げから更なる発展を目指して、原則として、学習教科書用に使われたのではないドイツ語を教材とする。困難な場合もあると思われるが、そのようなテキストに取り組んだ経験が、将来自分に興味をもった分野のドイツ語を自力で読むための礎となることを目標とする。一度にたくさん読む、というよりはよく辞書を引き精読することを心がけて授業を進める。	
	フランス語ⅠA1	初學者向けのフランス語文法科目。親しみやすい例文を題材に、フランス語の綴り、発音、初歩的な文法事項などを学ぶ。さらに、聞き取り問題を含む練習問題を解いていくことで、確実な定着を図る。理解度確認のため、授業内で複数回小テストも実施予定である。日常的なフランス語表現に触れながら、フランス語特有の綴り字や発音に慣れるとともに、基本的な構文や動詞の活用の基礎を身につけ、初級フランス語文法の第一段階に到達するのが目標である。関連科目にネイティブ講師が担当する実習の授業(ⅠA2)があり、両科目の連動でより学習効果が高まるよう工夫している。	
	フランス語ⅠA2	初學者向けのフランス語会話科目。色々なことについて話したり、聞いたり、書いたり、読んだりしてフランス語に親しむ。アルファベットの読み方や基本的な発音のルール、あいさつ表現や自己紹介などのフレーズを学び、フランス語の初級会話を身につけることが目標。実用的な会話テキストを題材にフランス語の読み書きに慣れ、話したり聞いたりする練習を繰り返すことでさまざまな表現を覚え、発音のコツを学ぶ。さらに、よく使う単語や数字など基礎的語彙も身につけ、総合的なフランス語能力を高めていく。授業最終回では、フランス語で作文した自己紹介を暗記して発表を行う。関連科目に日本人講師が担当する文法の授業(ⅠA1)があり、両科目の連動で学習効果が高まるよう工夫している。	
	フランス語ⅠB1	フランス語ⅠA1から引き続き、初級フランス語文法を学ぶ。親しみやすい例文を題材に、よく使う不規則動詞や、近接未来形、単純未来形などの現在形以外の時制を学ぶ。さらに、聞き取り問題を含む練習問題を解いていくことで、確実な定着を図る。理解度確認のため、授業内で複数回小テストも実施予定である。日常的なフランス語表現に触れながら、さまざまな不規則動詞の活用を覚える。さらに、未来の事柄を表す方法も学んで表現の幅を広げ、初級フランス語文法の第二段階に到達するのが目標である。関連科目にネイティブ講師が担当する実習の授業(ⅠB2)があり、両科目の連動でより学習効果が高まるよう工夫している。	
	フランス語ⅠB2	フランス語ⅠA2から引き続き、色々なことについて話したり、聞いたり、書いたり、読んだりして初級フランス語会話を身につける。時間の言い方や家族の紹介など、生活のなかのさまざまな場面での会話を身につけ、フランス語会話を広げることが目標である。実用的な会話テキストを題材にフランス語の読み書きに慣れ、話したり聞いたりする練習を繰り返すことでさまざまな表現を覚え、発音のコツを学ぶ。さらに、よく使う単語や熟語表現などの語彙力も増やし、総合的なフランス語能力をさらに高めていく。授業最終回では、フランス語で作文した家族の紹介を暗記して発表を行う。文法レベルでは、フランス語検定4級が目安である。関連科目に日本人講師が担当する文法の授業(ⅠB1)があり、両科目の連動で学習効果が高まるよう工夫している。	
	フランス語ⅡA1	フランス語ⅠB1からのステップアップを図るフランス語文法科目である。親しみやすい例文を題材に、新たな規則動詞やよく使う不規則動詞、過去時制などを学んでいく。さらに、聞き取り問題を含む練習問題を解いていくことで、確実な定着を図る。また、フランス語検定4級程度の対策も意識している。基礎Ⅰ、基礎Ⅱでの習得事項を前提に文法の総仕上げを行う。日常的なフランス語表現に触れながら、代名動詞を含む新たな動詞の活用を覚える。さらに、過去の事柄を表す方法も学んで表現の幅を広げ、初級フランス語文法を完成させることが目標である。フランス語検定のレベルは4級が目安である。関連科目にネイティブ講師が担当する実習の授業(ⅡA2)があり、両科目の連動でより学習効果が高まるよう工夫している。	
	フランス語ⅡA2	フランス語ⅠB2からのステップアップを図るフランス語会話科目である。複合過去形と半過去形を習得し、フランス語初級文法を完成させて、過去の出来事を話せるようになることが目標である。実用的な会話テキストを題材にフランス語の読み書きに慣れ、話したり聞いたりする練習を繰り返すことでさまざまな表現を覚え、発音のコツを学ぶ。さらに、単語や熟語表現などの語彙力も増やし、総合的なフランス語能力をさらに高めていく。授業最終回では、複合過去形と半過去形を使った会話文をペアで作り、暗記して発表を行う。関連科目に日本人講師が担当する文法の授業(ⅡA1)があり、両科目の連動で学習効果が高まるよう工夫している。	

授 業 科 目 の 概 要			
(データサイエンス学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	フランス語ⅡA3	主に視聴覚教材を使用してフランス語を聞き取る訓練を重点的に行う。基本的かつ日常的なフランス語表現の聞き取り能力を養い、理解力、コミュニケーション能力を高めることが目標である。授業では聞こえたフレーズを真似て繰り返す練習に積極的に参加させる。また、トランスクリプトや関連する設問等も利用して理解度の確認および文法事項の復習、習得も行って総合的なフランス語能力の向上を目指し、応用力も養う。なお、視聴覚教材でフランス文化に触れ、理解を深めることも目的の一つである。場合に応じてフランス語検定対策や留学案内も取り入れる。	
	フランス語ⅡB1	料理レシピ、歌、絵本などの易しいフランス語の文章や、映画字幕、トランスクリプトなど、さまざまな教材を使ってフランス文化に親しみながら語彙、文法、聞き取りなど、総合的なフランス語能力を高める。フランス語検定4～3級程度の対策も意識する。各自で十分に予習をしてから授業に臨めるよう教材は事前に配布する。フランス語能力向上に加えて、フランスの文化への理解を深めることも目的としているので、授業で取り扱った事柄について各自で調べてみることも大切である。	
	フランス語ⅡB2	中級フランス語会話科目である。自分の将来についてフランス語で話せるようになることを目標に、そのために必要な文法や語彙を学ぶ。日本人講師が担当する文法の授業で習得したことを生かしつつ、理解を深めて応用力を高めることが目的である。授業では、基本となる練習問題を解きながら未来形、条件法、接続法、関係代名詞などを学んでフランス語中級文法を習得する。その後、各学生が自分なりの応用表現を作文し、最終的にはペアを組んで将来についてディスカッションを行う。文法レベルとしては、フランス語検定3級が目安である。	
	フランス語ⅡB3	フランスの語学学校でも使われている動画教材付きテキストを使って、フランスの生活習慣や文化に親しみつつ、聞き取り練習や会話練習を中心に授業を進める。ショッピングのシーンやレストランでのシーン、ヴァカンスの計画や思い出話をするシーンなど、シチュエーションごとにさまざまな表現を学ぶ。あわせて、文法事項の復習および新規習得も行い、総合的なフランス語能力向上を目指す。また、仏検対応e-learning：E-Studioの利用も促し、3級程度の仏検対策も行う。	
	フランス語ⅢA1	テキストは比較的やさしいフランス語で書かれている。まずは、これを正確に読むことから始める。次に、テキストの練習問題を通して、本文の正確な把握を目指すとともに、フランス語の感覚や文法に慣れ、読解力を高めていく。同時に、聞き取り練習も行い、最終的に、簡単な内容のニュースであれば、何回か繰り返して聞いているうちに理解できる程度の力を身につける。補助教材には、簡単なラジオニュースの抜粋(2分程度のもの)を用いる予定だが、受講者の要望があれば、他の文章を読むことも可能である。	
	フランス語ⅢA2	フランス語上級文法を習得することと、日常会話の流れに慣れることが目標である。テキストには『自然なフランス語の上達法教えます』の前半(第1章～第3章)を使用する。予習が必須で、受講生がテキストの指示された箇所をあらかじめ読んでおき、分からないところを講師に質問する形で授業を進める。さらに、毎回聞き取りを含む練習を行って、自然な日常会話を習得できるようにしていく。さらに、フランス語の特徴について深く考えたり、フランスの文化について学べる機会も設ける。	
	フランス語ⅢB1	テキストは比較的やさしいフランス語で書かれているものを使用する。まずは、これを正確に読むことから始める。次に、テキストの練習問題を通して、本文の正確な把握を目指すとともに、フランス語の感覚や文法に慣れ、読解力を高めていく。同時に、聞き取り練習も行い、最終的に、簡単な内容のニュースであれば、何回か繰り返して聞いているうちに理解できる程度の力を身につける。補助教材には、簡単なラジオニュースの抜粋(2分程度のもの)を用いる予定だが、受講者の要望があれば、他の文章を読むことも可能。	
	フランス語ⅢB2	フランス語ⅢA2から引き続き、フランス語上級文法を習得することと、日常会話の流れに慣れることを目標とする。テキストには『自然なフランス語の上達法教えます』の後半(第4章～第6章)を使用する。予習が必須で、受講生がテキストの指示された箇所をあらかじめ読んでおき、分からないところを講師に質問する形で授業を進める。さらに、毎回聞き取りを含む練習を行って、自然な日常会話を習得できるようにし、フランス語の特徴について深く考えたり、フランスの文化について学べる機会も設ける。	
	フランス語ⅢA3	読解力と表現力を養い、総合的なフランス語能力を高め、専門的な文献を読めるようになることを目標とする。文学作品など比較的難易度の高いテキストを教材としてフランス語原文を読み、解釈についての議論も行う。語彙や文法的な面からの精読と和訳への工夫を意識する。フランス語原文のリズムを感じるため、音読練習も行う。また、作品への理解を深めるため、作家、作品紹介もフランス語で講読する。受講生の間で訳の担当を決めて授業を進めていくため、十分な予習が必須である。なお、教材については受講生の希望を汲んだものを取り入れる場合もある。	
	フランス語ⅢB3	フランス語ⅢA3から引き続き、読解力と表現力を養い、総合的なフランス語能力を高め、専門的な文献を読めるようになることを目標とする。文学作品など比較的難易度の高いテキストを教材としてフランス語原文を読み、解釈についての議論も行う。語彙や文法的な面からの精読と和訳への工夫を意識する。フランス語原文のリズムを感じるため、音読練習も行う。また、作品への理解を深めるため、作家、作品紹介もフランス語で講読する。受講生の間で訳の担当を決めて授業を進めていくため、十分な予習が必須である。なお、教材については受講生の希望を汲んだものを取り入れる場合もある。	
	中国語ⅠA1	中国語の文法は語順が命である。従って、何よりも中国語自体のことばの並び方を繰り返し、また意識的に注視することが肝心となる。また、文法の理解には発音の習得が大きな意味を持っている。従って発音も重視する。この学期は、3種類の述語文のかたち、その否定のかたち、2種類の疑問文のかたち、および名詞句のつくり方などが、最重要の学習課題となり、あわせて簡単なあいさつことば、数の教え方なども学ぶ。	
	中国語ⅠA2	まず『京女生のための中国語(発音篇)』を使用して、音節の発音と表記法の基本を学ぶ。次にサブテキストを用いて、簡単な会話を学びながら、発音の練習をする。二種のテキストにはそれぞれwebで音声を提供されているので、課外学習に活用する。授業では、繰り返し練習、書き取り、暗誦などの方法で中国語の発音をしっかりと勉強する。	
	中国語ⅠB1	中国語の基本的な構造、すなわち3種類の述語文のかたち、および修飾のしかたなどを理解し修得した上で、この学期では更に3種類の疑問文、助動詞、語気助詞、動態助詞などを学ぶ。語順を意識的に注視することは、相変わらず学習の基本姿勢でなければならないが、繰り返し発音して、適当な例文を数多く暗唱することも、また同時にするべきことである。中国語の文をリズムよく発音することは、実は、中国語の文法の理解とも深く関わっている。	
	中国語ⅠB2	サブテキストを使用し、やや長い会話文を学ぶ。前期で習得した約400の音節と4つの声調を復習して、その精度を高めるとともに、引き続き、サブテキストを使用して、やや長い会話文を学ぶ。また中国語の文をリズムよく発音することは、中国語の文法の理解とも深く関わることがらであるので、これにも留意する。	
	中国語ⅡA1	中国語の文法の基本は語順、つまり言葉の並べ方で、とても単純な骨格をしている。これについては一回生の時に学んでいるが、この授業では、もう少し複雑なさまざまな表現を学習する。すなわち連動文、兼語文、存現文、経験、比較、進行、持続、受け身などの言い方、さらには程度補語、結果補語、可能補語、方向補語などである。また基礎文法の学習を終えたら、ある程度まとまった文章を読んでいく。中国語ⅡA2、ⅡA3と関連した科目である。	
	中国語ⅡA2	耳に慣れてもらうために、まず挨拶から入る。各課は一つのテーマにしぼり、常用表現を繰り返し聞く中、「聞く」力をつける。また、聞き取り中心の授業とは言っても、「話す」ことを全くしないわけではなく、聞きとった中国語に対して思わず話したくなるような、アクティブで楽しい学習雰囲気や皆で築いていく。また、毎回の授業の初めに10分～15分を利用して、中国語検定試験の過去問のリスニング問題を実施する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(データサイエンス学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	中国語ⅡA3	この授業では、中国の伝統文化や、そこに生きる中国の人々の生活などを文章と映像で紹介する。さらには中国で留学・生活することを想定して、簡単な中国語会話を勉強し、グループで練習したうえで、発表も行う。中国語ⅡA1、ⅡA2と関連した科目である。例えば「地大物博」という言葉にも、単に「土地が広く物産が豊かである」といった辞書的な意味に留まらない、具体的に生き生きとしたイメージを、受講生がそれぞれに描けるようになることが目標である。言葉には広がりや奥行きがある。中国語の学習においても、文法を理解し、語彙を増やすとともに大いに中国や中国の人々への関心をもって、地理風土、生活、歴史などへの理解を深めていく必要がある。そうすることによってはじめて、語感も培われていく。	
	中国語ⅡB1	ネットを通じて中国語による日本語講座・中国語による日本に関するニュース・中国のニュースを読む。このように先ずは日本(語)に関わるものを教材に選ぶ。文章を読むということは、筋道の立ったことばの使い方を学ぶことでもあり、中国語の運用能力を身につけようと思えば、日常会話で使える文を暗記するだけでなく、文法の構造もきちんと理解しながら文章を読むということが必要である。表現法も多様になり、出現する語彙もにわかには豊富になる。ここでしっかり学べば、半年後、力がついたことをききと実感することができる。ニュース記事などはことばや表現の仕方にはパターンがあるのでこれをしっかりとマスターしておくことで社会に出て大いに役に立つ。出て来る文法的事項も『イリス中国語』で一つひとつと一挙に確認していく。	
	中国語ⅡB2	テキスト各課の本文は、基礎文法を確認するために実用性に富む会話文でストーリーを展開させるので、日常的な会話文を通じて一回生で習った基礎文法を復習しながら、繰り返して会話練習を行い、確実に「聞く」力を高めていく。外国語は「耳から覚える」と言われるが、会話練習と書き取り練習を通じて「聞き取れた」喜びを体験することによって、アクティブで楽しい学習雰囲気の中で中国語で基本的な意思疎通ができるように授業を進めていく。(このテキストは、中国語検定4～3級が求める必修内容や基礎語彙を含んでいるので、語学検定に挑戦したい受講生にも適している。)	
	中国語ⅡB3	授業では、HSK過去問を利用しながら、HSK3級合格に必要な文法事項などを確認する。授業でもリスニングの練習を行うが、課外で中検WEB(学内WEBにある中国語検定試験の過去問)を利用してリスニングの力をつける。中国語ⅡB1、ⅡA2、ⅡB2と関連した科目である。	
	中国語ⅢA1	この授業の内容は、以下の3点である。 1: パソコンやスマートフォンで中国語を扱い、それをもとにインターネット上の情報を得たり、効果的に中国語を学習する方法を知る 2: 初中級レベルの中国語短文のリスニング・発音練習を、動画教材をもちいておこなう(毎回の授業冒頭) 3: 中国語によるニュースの読解を通じて、中国語圏の最新の動向や話題を知る この講義はパソコンやスマートフォン、インターネットなどを活用して、中国語を効果的に学習する方法を知ったり、中国に関する最も新しい情報にアクセスしながら、現代の中国や中国語をより身近に感じつつ、さらなるスキルアップをはかることを目標とする。	
	中国語ⅢA2	出来るだけ中国語で授業を進めるよう心がける。また、受講生が中心になって活発な発言が飛び交う雰囲気、楽しく勉強する雰囲気を築くようにする。中国語による簡単な発表と、パートナーとの練習という形で、習った会話を応用した実演をしてもらう。会話力を高めるために、会話練習の前リスニングの練習を適宜行う。中国語ⅡA2・ⅡB2の基礎の上に、会話を練習していく。日常の身近な題材を扱ったテキストで、中国語会話に慣れ親しむことを目指す。聞く力や口頭での表現能力をレベルアップすることを目標とする。	
	中国語ⅢB1	インターネット上の記事などを教材として選び学ぶことによって読む力をより高めるとともに、中国映画も鑑賞し中国の社会や文化への理解も深める。また最終課題として中国旅行をシミュレーションしてもらうために、中国の飛行機や列車の時刻表の見方・ホテルの予約の仕方・出入国に関する知識などをネットを通して学ぶ。この他、中国語のスキルを高めるために、いつでもどこでもインターネットで中国語検定試験用の学習ができるe-learning教材のアカウントも受講生全員に配布する。	
	中国語ⅢB2	出来る限り中国語で授業を進めるよう心がけ、受講生が中心になって活発な発言が飛び交いながら楽しく勉強する雰囲気を築くようにする。また、音読や暗誦を重視し、中国語による作文の発表も行う。中国語の文法構造が分かれば、ゲームのような感覚で単語を並べることによって、中国語を表現することができる。基本的な練習を重ねて中国語の構造が理解できたら、次には応用に進む。自分の言いたいことは何とか表現できるようにすることが目標である。また応用練習をする中で、できるだけ文法の面白さ、言葉の奥深さについても発見があるように努めたい。	
	中国語ⅢA3	一つの作品を、わかりやすくをモットーに、既習の文法事項などを確認しながらじっくりと味わっていく。この授業では主に読み解く力が養われる。これまで学んできた会話や時事文に加え、このクラスでは名文といわれる文章にも接して、上質な中国語に触れ、そのエッセンスを汲み取り、ひいては日本語に磨きをかけてもらう、そのきっかけになることを目標とする。また大学院受験で中国語を選択する学生にとっても大いに参考になる科目である。	
	中国語ⅢB3	小人数の授業なので、受講生の皆さんの興味があるテーマを教材に取り入れる。また、受講生にそれぞれ興味のあるテーマについて調べ、授業中で中国語で発表してもらい、その後発表内容をめぐってディスカッションを行う。一方的に授業を「受ける」のではなく、自分の学習成果、考えを自由に述べ、教員、受講生が一体になって、授業を進める。 中国語ⅢA3では文学作品を通して中国語を学習したが、この授業では、中国メディアの情報を利用し、社会・文化・経済・芸能などのニュース記事を教材として、言葉を含む現在の中国を紹介する。到達目標は現代中国をより理解し、中国語能力をさらに高めることである。また、授業は基本的に中国語で行う。	
	韓国語ⅠA1	ハンゲルの読み書きからはじめ、韓国語の基本単語の習得と、文法の最も基礎となる用言活用を正確に身につけることを目標とする。文法中心の授業であるが、教師が一方的に説明するのではなく適宜、問いを投げかけることで言語学的な思考力を養い、また質問はそのつど受けるなど、対話型の授業を目指す。ⅠA2の会話クラスと進度を揃えつつ、相互に関連づけた形で授業を進めるので、理解が一層深まると思われる。さらに韓国・朝鮮の文化や魅力、日常生活ですぐに使えるひと口会話などもあわせて紹介していく。楽しく、複眼的に韓国語が学べるクラスである。	
	韓国語ⅠA2	韓国語ⅠA1と連携しながら授業を進めていく。この授業では、文字の発音と基本的な音韻規則について学び、正確に発音できるように重点を置く。次に、授業計画に沿った各文法事項の理解度をテキストの<練習>問題を通じてその都度確認することで文法知識の確実な定着を図る。また、テキストの<実践会話>を用いた対話練習などを通じて実践へと繋げていく。さらに、ハンゲルで自分だけの名刺を作成するなど、テキスト内のアイテムをフルに活用しながら楽しく韓国語学習を進めていく。	
	韓国語ⅠB1	前期のⅠA1で学習した規則的な用言活用の理解をベースに、過去形、尊敬表現を学んだのち、不規則活用を身につけることまでが後期の目標である。この学期が終わる頃には、日常会話程度の文であれば辞書を引きながら独力で訳せるだけの力がついていると思われる。前期同様、教師が一方的に説明するのではなく適宜、問いを投げかけることで言語学的な思考力を養い、また質問はそのつど受けるなど、対話型の授業を目指す。ⅠB2の会話クラスと進度を揃えつつ、相互に関連づけた形で授業を進めるので、理解が一層深まると思われる。韓国・朝鮮の文化や魅力、日常生活ですぐに使えるひと口会話などをあわせて紹介するのⅠA1と同じである。	

授 業 科 目 の 概 要			
(データサイエンス学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	韓国語 I B2	韓国語 I B1と連携しながら授業を進めていく。文字を見ないで疑問、否定、過去、尊敬などの文を組み立てることができ、基本的な会話スムーズにできるようになることを目標とする。特に、この授業では「話す」力に重点を置き、テキスト内の基本的な語彙、文型を確認しつつ、音声資料や教師の発音に倣ってペア、またはグループで対話練習をすることで、より高度なコミュニケーション能力を養うための土台を作る。また、テキスト内の文法・会話項目だけでなく、必要に応じて韓国・朝鮮の文化、ニュース等も取り上げる。	
	韓国語 II A1	一回生で習った内容からさらに一歩進めて、複文や連体形などより高度な文法事項を学ぶ。韓国語の文を独力で日本語に訳したり、自分の言いたいことを簡単な文で表現できるようになることが目標である。教師が一方向的に説明するのではなく適宜、問いを投げかけることで言語学的な思考力を養い、また質問はそのつど受けるなど、対話型の授業を目指す。韓国・朝鮮の文化や魅力、日常生活ですぐに使えるひと口会話などをあわせて紹介していく授業方針は一回生の時と同じである。	
	韓国語 II A2	韓国語 II A1を並行して履修することが望ましい。リスニングを中心に基本的な韓国語のコミュニケーション能力を身に付けることを目的とする。基本的な語彙力や文法力を身に付けながら、繰り返し聞くことでリスニング力の向上を図る。また、シンプルなフレーズから実生活で出会うフレーズまで段階的な練習を通してスムーズにリスニングができるようにする。多様なテーマを取り上げ、聴解力の向上のみならず韓国・朝鮮の文化に関する知識も自然に学んでいくクラスである。教科書以外にも各テーマに関連する資料を用いて授業を行う。	
	韓国語 II A3	留学にも使える自然な韓国語表現を身につけると共に、韓国・朝鮮の文化に対する理解を深めることを目標とする。またハングル検定3、4級受検も視野に入れて授業を進める。授業は、①会話スキットの解釈(日本語訳、文法説明)、②発音・対話練習、③練習問題の3段階で構成し、ハングル検定の直前には、過去問などを解く練習も行います。韓国語 II A1の内容を応用、補強するクラスである。	
	韓国語 II B1	このクラスでは、韓国語 II A1までの文法知識で読める短い文を読んでいく。到達目標は、①基本的な文法事項をしっかりと理解し、初級～中級程度の韓国語の文を独力で読んだり、日本語に訳せるようにすること。②各課のテーマ内容を通じ、韓国社会や文化に対する知識や理解を深めること、の2点である。読解は発表形式となるので、個別に指導を受ける機会が多くなるのもこのクラスの特徴である。適宜、問いを投げかけたり、質問をそのつど受けるなど、対話型の授業を目指すのは一回生や II A1の時と同じである。	
	韓国語 II B2	リスニングを中心に基本的な韓国語のコミュニケーション能力を身に付けることを目的とする。語彙力や文法力を身に付けながら、繰り返し聞くことで正確な聞き取り能力の向上を目指す。また、各テーマの基本語彙、文法などを確認したのち、その場面に合わせたロールプレイングを行う。教科書以外にも経済、社会、教育、映画や音楽などの多様なテーマを取り上げ、聴解力の向上のみならず韓国・朝鮮の文化に関する知識も自然に学んでいく。	
	韓国語 II B3	留学にも使える自然な韓国語表現を身につけるとともに、韓国・朝鮮の文化に対する理解を深めることを目標とする。また、ハングル検定3級受検も視野に入れて授業を進める。授業は、①会話スキットの解釈(日本語訳、文法説明)、②発音・対話練習、③練習問題の3段階で構成し、ハングル検定の直前には、過去問などを解く練習も行う。II A3と同じテキストのため前期からの履修が望ましいが、常に復習しつつ授業を進めるので、このクラスから履修しても全く問題ない。韓国語 II B1より少しレベルの高いクラスである。	
	韓国語 III A1	旅行、留学でそのまま使える自然な韓国語表現を身につけるとともに、韓国・朝鮮の文化に対する理解を深めることを目標とする。韓国に留学した学生が主人公のテキストなので、日本にいながら韓国生活が追体験できる。授業は、①会話スキットの理解・日本語訳、②文法項目の確認、③ロールプレイングによる対話練習、④「表現力アップ」「文化の小窓」による知識の深化、⑤応用練習という5段階で構成する。4課ごとに「表現力チェック」も行う。	
	韓国語 III A2	Level IIまでに学んだ文法知識の再確認と文型練習に重点を置きながら、記念日、趣味、道案内などの身近なテーマを取り上げ、韓国語コミュニケーション能力の向上を目指す。授業の構成は、①「導入」(文型の意味の理解に焦点をあてる)②「提示および練習」(学習目標の文型を十分に理解するまで繰り返し練習)③「活動」(ロールプレイング)の3段階で、これまでテキストで学んだ韓国語の基礎知識をフルに活用し、相手に伝えたいことをしっかりと話せるように繰り返し会話の練習を行う。	
	韓国語 III B1	III A1と同じテキストを用いて、旅行、留学でそのまま使える自然な韓国語表現を身につけるとともに、韓国・朝鮮の文化に対する理解を深めることを目標とする。①会話スキットの理解・日本語訳、②文法項目の確認、③ロールプレイングによる対話練習、④「表現力アップ」「文化の小窓」による知識の深化、⑤応用練習という5段階で授業を行い、4課ごとに「表現力チェック」を行うという点もIII A1と同じである。そのためIII A1の履修を終えていることが望ましいが、常に復習しつつ授業を進めるので、このクラスから履修しても全く問題はない。	
	韓国語 III B2	日本語と韓国語の言語構造は非常に似ているため、初・中級レベルの文法を一通り終えた学習者なら簡単な作文や日記レベルの文章は書けるようになる。さらに、他言語に比べ、比喩的な言い回しにおいても日本語との類似性が非常に高いため、日本語話者にとって韓国語は習得しやすい言語とみられている。しかし、初・中級レベルの学習者の作文は単語の意味をそのまま訳したレベルにとどまっているものが多く、機械翻訳のような文章をよく見かける。この授業では、場面・状況に沿った作文練習を繰り返し行うことで、より自然で洗練された文章が書けるようになることを目指す。	
	韓国語 III A3	韓国人なら誰でも知っている童話、短編小説を精読することで、単に文意をとるととどまらず、その作品の背景にある韓国・朝鮮の文化・思想を理解することを目標とする。最初の授業で朝鮮文学について概観したのち、5～6編の作品を読んでいく。それらの作品の文学史的な位置づけ、概要などを説明したのち、日本語に翻訳してもらおう。その際、これまでに習った文法事項を確認したり、必要に応じてより高度な文法事項の説明も行うが、それよりも書かれている内容や表現の妙を味わってもらおうことが目的である。	
	韓国語 III B3	異なる言語を使用する国の文化を学ぶことで、多様な価値観・世界観を理解し、ものごとを総合的に判断できる力を身につける。また、特定のテーマに関する資料収集・分析能力の向上を目指す。「韓国人はなぜ初対面にもかかわらず年齢を聞くのか」「韓国の大学入試事情」など、普段疑問に思う韓国(人)と韓国文化の「なぜ」について一緒に考える。さらに、韓国の文化や言葉について調査・発表することで自国の文化・言語を再認識するきっかけを提供する。	
	日本語 I A1	まとまりのある長い文章を、読解技術を意識して読み、読んだ後で、自分の読解活動を振り返る。本文に出てくる語句については、次回の授業でクイズを実施することで定着を図る。また、本文の要約を行い、内容理解と表現使用の適切さを確認する。報告文や論説文などの論理的な文章を読むために、段落読み、情報検索などの基礎的な読解技術を身につけることを目標とする。また、効率的に読むための文章構造に関する知識、文章の論理構造に関する知識、文法に関する知識を身につけることも併せて目標とする。	
	日本語 I A2	文章を書くために必要な表現を、その意図ごとに学習し、また、まとまった文章を書く際の文章構成を併せて身につける。課題として、その授業で扱った学習項目を使って実際にまとまった文章を作成する。作成した文章は教師の添削と口頭でのフィードバックを受け、その後、自分で考えて修正し、再度提出する。大学に必要なレポート作成の基礎となる意見文を書くための表現や文章構成を身につけ、正確で分かりやすい文章を書く技術を身につけることを目標とする。最終的に800字程度のものまとまりのある意見文を書くことができるようになることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
(データサイエンス学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	日本語 I B1	会話練習では、日本語の発音や話し方の特徴を確認して練習し、その後、場面、話し手と聞き手の関係、発話の伝達機能等に応じた会話を学び、伝わる発音で滑らかに話せるレベルになるまで練習を繰り返す。プレゼンテーションでは、テーマの決定、情報の収集・整理、提示する資料の準備、リハーサル等、それぞれの段階におけるポイントを学び、実際にプレゼンテーションを行う。社会生活のさまざまな会話場面において、伝わる発音(聞き手にとって聞きやすく分かりやすい発音)で、自然なやり取りができるようになることを目標とする。また、会話形式ではないプレゼンテーションの実践を通して、聞き手が求めていることを聴覚・視覚の両面から簡潔に分かりやすく効果的に伝えることができるようになることも併せて目標とする。	
	日本語 I B2	レポートの作成手順を理解し、それに沿って作成を進める。レポートの構成を学び、それぞれの段階で用いられる文型・表現を身につけ、レポートの文体も前期に引き続き学ぶ。また、中上級の文法項目の中から、文脈を捉えた適切な表現を学び、レポート作成に取り入れていく。その際、比較対照する表現を提示し、それぞれどのような文脈で用いられるのが適切かを学生が自ら考え、その思考を言葉で表現する過程を重視する。なお、作成したレポートは、教師の添削と口頭でのフィードバックを受け、その後、自分で考えて修正し、再度提出する。	
情報基盤科目	情報リテラシー	大学の情報環境について理解し、情報とコミュニケーション、情報の表現とアクセシビリティ、情報社会の法と権利、データベース、データの処理と分析、デジタル表現(画像・色・音)、アルゴリズムとプログラミング、ネットワークとセキュリティ、現代社会と情報システム等について説明できるように、グループワークを交えながら学習する。	
	データ・AIリテラシー	インターネットの発展やコンピュータの能力の著しい向上により、ビッグデータや人工知能(AI)の活用によるデータサイエンスに関する理解とその基礎技術の修得が重要性を増している。この講義では、データの処理、集計、可視化、分析を行うためのデータサイエンス・AIの基礎的事項を学習し、なぜデータサイエンスを学ぶのか、社会でどのように活用されているのかを理解した上で、実データや実課題を適切に読み解き、判断できるスキルを修得する。	
	情報基礎A	情報基礎は現代社会において情報基盤を理解し活用するための基礎を身に付けるものであり、全体として CompTIA IT Fundamentals (ITF+) 資格の取得に十分な知識とスキルを修得することを目指す。この科目は情報通信基盤(ITインフラストラクチャ)について基本的な知識とスキルを身に付けることを目的としている。具体的には、TCP/IPによるネットワークの理論、有線および無線ネットワーク、プロトコル、ネットワーク機器、ネットワーク上のサービス(クラウドや仮想化を含む)等について、ハードウェアとソフトウェアの両面から理解し、インストールやトラブルシューティングのできるスキルを修得する。	
	情報基礎B	情報基礎は現代社会において情報基盤を理解し活用するための基礎を身に付けるものであり、全体として CompTIA IT Fundamentals (ITF+) 資格の取得に十分な知識とスキルを修得することを目指す。この科目はアプリケーションとソフトウェアおよびソフトウェア開発に関する基本的な知識とスキルを身に付けることを目的としている。具体的には、オペレーティングシステムの構造、アプリケーションの動作原理、アルゴリズム、ソフトウェア開発過程、プログラミング、ソフトウェアライセンス等について理解し、実際にプログラミング言語を用いたアプリケーション開発を体験することで実践力を養う。	
	情報基礎C	情報基礎は現代社会において情報基盤を理解し活用するための基礎を身に付けるものであり、全体として CompTIA IT Fundamentals (ITF+) 資格の取得に十分な知識とスキルを修得することを目指す。この科目はデータベースについて基本的な知識とスキルを身に付けることを目的としている。具体的には、データベース理論、様々なデータベースの構造、データベースの利用方法等について理解し、実際にデータベースを構築しWWWアプリケーションと連携させて活用する課題等を通じて実践的なスキルを修得する。	
	情報基礎D	情報基礎は現代社会において情報基盤を理解し活用するための基礎を身に付けるものであり、全体として CompTIA IT Fundamentals (ITF+) 資格の取得に十分な知識とスキルを修得することを目指す。この科目は情報セキュリティについて基本的な知識とスキルを身に付けることを目的としている。具体的には、セキュリティの概念(機密性、完全性、可用性)、認証と承認、暗号、フォールトトレランス、レジリエンス等について理解する。また、パスワード保護や多要素認証、電子証明書、様々なクラッキングからの防御技術、業務継続計画等について具体的な課題による演習を行い現実的な問題意識とスキルを身に付ける。	
	データ・AI基礎A	情報基礎は現代社会において情報基盤を理解し活用するための基礎を身に付けるものであり、全体として CompTIA IT Fundamentals (ITF+) 資格の取得に十分な知識とスキルを修得することを目指す。この科目は情報通信基盤(ITインフラストラクチャ)について基本的な知識とスキルを身に付けることを目的としている。具体的には、TCP/IPによるネットワークの理論、有線および無線ネットワーク、プロトコル、ネットワーク機器、ネットワーク上のサービス(クラウドや仮想化を含む)等について、ハードウェアとソフトウェアの両面から理解し、インストールやトラブルシューティングのできるスキルを修得する。	
	データ・AI基礎B	情報基礎は現代社会において情報基盤を理解し活用するための基礎を身に付けるものであり、全体として CompTIA IT Fundamentals (ITF+) 資格の取得に十分な知識とスキルを修得することを目指す。この科目はアプリケーションとソフトウェアおよびソフトウェア開発に関する基本的な知識とスキルを身に付けることを目的としている。具体的には、オペレーティングシステムの構造、アプリケーションの動作原理、アルゴリズム、ソフトウェア開発過程、プログラミング、ソフトウェアライセンス等について理解し、実際にプログラミング言語を用いたアプリケーション開発を体験することで実践力を養う。	
	データ・AI基礎C	情報基礎は現代社会において情報基盤を理解し活用するための基礎を身に付けるものであり、全体として CompTIA IT Fundamentals (ITF+) 資格の取得に十分な知識とスキルを修得することを目指す。この科目はデータベースについて基本的な知識とスキルを身に付けることを目的としている。具体的には、データベース理論、様々なデータベースの構造、データベースの利用方法等について理解し、実際にデータベースを構築しWWWアプリケーションと連携させて活用する課題等を通じて実践的なスキルを修得する。	
	データ・AI基礎D	データ・AI基礎の最終段階として、データサイエンス・AIを活用した課題解決プロセス、AI技術について体験する。データ・AIにおける課題解決には問題の理解や仮説立案などの「企画」、データの収集・加工・分析を行う「実施」、分析結果を議論する「評価」のプロセスを経る必要がある。具体的な課題によってそれぞれの課題解決プロセスを概観し、データ利活用の流れを理解する。言語や知識などに関するAI技術を体験することにより、実社会での活用が進む機械学習や深層学習によって何が可能となるかなどの基本的な概念を理解する。	
健康科学科目	運動と健康科学	物質的な豊かさの弊害が指摘される時代になり、いかにして健康を維持・増進し、QOL(生活の質)を向上させるかが多くの人々の関心事になっている。本講義では、現代社会において、人間にとっての健康とはどのような状態かを考察すること、また、人間にとってのスポーツ・運動の意味や価値について理解深めることが主なねらいである。具体的には、各種の統計資料を元に国民生活における健康に関する現状(死亡統計、疾病に関する統計など)を理解するとともに、健康の維持・増進の具体的な方法を理解できるようにする。加えて、人間の健康について「運動・スポーツ」「生活習慣」「自然環境」「薬物・医薬品」などとの関連から対話を通して考察を加え、自らの健康への関心を高めるとともに、日常的に運動・スポーツ活動に取り組もうとする実践的態度や意欲の向上を図る。特に、女子大学で学ぶ学生として、大学生活を通して、主体的に生きる女性の身体を実感できるような学びの機会を保障する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(データサイエンス学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	スポーツ実践	スポーツ種目(卓球・バドミントン・洋弓・エクササイズ等からの選択)の実践を通して、それぞれの種目の技術を習得し、安全教育の基礎を学習する。特に、大学生活をより充実させるための健康・体力づくりと交友範囲の拡大の機会とし、仲間とのコミュニケーションや自身の心身のバランスの安定を図り、運動を楽しむ習慣を身につける。授業の到達目標は、運動技術の習得、および健康や体力増進のための運動処方基礎を習得することである。加えて、生涯体育の観点からスポーツを楽しむ、大学生活を充実させるための交友範囲を広げる機会とし、仲間と活動を共に楽しみながら積極的に交流することを通して心身の健康づくりを図ることをねらいとしている。毎時の授業では、技術の習得だけでなくルールやマナーについても理解し、仲間と協力して協働しながら、自身の健康および体力にも注目し、その向上を図ることを目指していく。	
ジェンダー科目	ジェンダー研究入門	文化・社会・歴史等が創り出す人間の様々な現象を、分析・解説し、各自の思い込みに気づきつつ総合的な人間理解を目指す。 授業計画は、(1) ジェンダー・セックス・セクシュアリティ・LGBTI/Qなど人間の多様な側面を著す基本概念とその具体を正しく理解する。 (2) 欧米や日本のフェミニズム・女性学・男性学・ジェンダー研究という「運動と学問誕生」の流れを概観。 (3) ジェンダー平等を下支えする国内外の政策「性差別撤廃条約や男女共同参画社会基本法」等の政策形成過程と存在意義を学ぶ。 総じて、ワークショップ・ビデオ・意見交換を組み込みながら、正確な基礎知識とジェンダーに敏感な視点、国内外のジェンダー課題の読み解き方などの習得を授業目標とする。	
	ジェンダー研究発展	ジェンダー研究発展の授業では、入門の授業を受けて、データに基づき思考・分析できる能力を習得するために、以下の計画で実施する。 (1) 女らしさ、教育、恋愛、仕事、結婚、子育て等々、ジェンダーに関わる諸問題を統一的に扱うために「ライフコース」という基礎概念について正しく理解する。 (2) 経験的データを用いた欧米や日本のジェンダー関連の既存研究を紹介し、概観する。 (3) 自分自身のライフコースを題材(データ)として、これまでに得た学びを用いて、今後、直面しうる諸課題とそれへの向き合い方や解決の方法など、ジェンダーの視点から分析・考察を行う。身近な現象をジェンダーの視点から自ら分析・考察することを通じて、ジェンダーに対する当事者意識を醸成し、総合的な人間理解を目指す。	
	歴史と女性	本授業では、セッション1で日本の近世(おおそ江戸時代)、セッション2で中国の近世(宋代から清代)について取り上げ、女性やジェンダーという視点から東アジア前近代の歴史を見直す。両地域とも、女性は基本的に政治などの表舞台から排除されていたが、家や共同体の社会生活、経済や宗教、あるいは文化活動等で一定の存在感を発揮した。こうした女性の活動領域を制約していた仕組み—ジェンダー構造の歴史を知り、マイナスの側面も含めて知ることで、近代以降の変化、両地域の共通点と違い、そして現代社会を生きる意味について考える機会とする。 (オムニバス方式/全15回) (21 梅田千尋、75 藤本 猛/1回) 概要紹介 (21 梅田千尋/7回) 第2回～8回セッション1 日本近世編 (75 藤本 猛/7回) 第9回～15回セッション2 中国近世 編	オムニバス方式 ・共同(一部)
	キャリア形成Ⅰ	大学生活においては、勉強だけでなく様々な取り組みを行う。「キャリア」は人の生き方そのものであり、長期的に築いていくものであり、将来の方向性や自分像をイメージすることが必要となる。また、女性はライフイベントに大きく影響を受けることから、その転機で方向性を見直したり調整することが求められる。女性の生き方や働き方が多様化する現代において、今ある社会をきちんと理解し、自分がどのような方向に進みたいか、今何をすべきかをしっかりと考えることが必要となる。そこで、キャリア形成Ⅰでは、多くのロールモデルから多様な生き方を知ることや今ある社会への理解を通じて、講義やグループワーク、発表などで実践していく。	
	キャリア形成Ⅱ	本科目は、ゲストスピーカーの方々から、女性の「生き方」「働き方」を学ぶリレー講義形式の授業である。ゲストスピーカーは全員、様々な分野で活躍する京都女子大学の卒業生である。かつては、女性の役割は家事育児に限られ、社会に出て自分の能力を活かす仕事をするのは想定されていなかった。自分の思いや願いとは別に社会によって生き方が決められていたわけである。それに比べると今日の女性は、多くの選択肢に恵まれているといえる。ただ、現在でも、女性が自由に生き方を選べるようになったとは必ずしも言い難い状況にある。本科目の目標は、本学の先輩という受講生の皆さんにとって身近な実例を通じ、女性にとって未だ制約の多いこの社会の中で、夢や目標をあきらめず自己の能力を活かし、キャリアを形成していくためには、何が重要かを探求することにある。	
	キャリア形成Ⅲ	「女性が働くということ・働く者の権利を学ぶ」ことを目的として、労働組合や企業・公務などの実務担当者をゲストスピーカーとして招き、それぞれの分野からみた働くことに必要な基礎知識について学ぶ、オムニバス形式の授業です。働くことについての課題を多角的視点から理解し、かつ課題解決に向けて学生自身が主体的に取り組むこと、自らの働き方を学生が考え行動できるように促進することを目的としており、以下の3点を到達目標とする。 1. 働く上で知っておくべき基礎知識を習得する。 2. 働く楽しさや労働環境の実態を学ぶ。 3. 将来働くことに備えて、職業や企業を選択できる力を養う。	
	ジェンダーと研究	男女格差が他国と比べて大きい我が国において、ジェンダー平等社会を実現するためには、人文科学・社会科学・自然科学のあらゆる分野で、ジェンダーの視点をもって研究を進めることが肝要である。本講座では、様々な分野のゲストスピーカーを招き、各専門分野におけるジェンダー課題について、諸所に内在するジェンダー・バイアス、その解消のために必要な研究などを、各々の具体的な取り組みを含めて講義する。講義から知識を得た受講生の皆さんが、ジェンダー平等への取り組みを自分事として捉え、日々の研究や生活に生かし、ジェンダー平等社会の実現に貢献することが本講座の目標である。	
	職業体験実習	実体験と教育の融合による学習意欲の喚起、高い職業意識の育成、自主性および独創性のある人材育成、それらを目的として、財団法人大学コンソーシアム京都が実施するインターンシッププログラムによって、実践的な職業体験学習を行う。事前には、インターンシップに参加する目的や目標、そのために必要な能力について自主的に考えを明確化させるとともに、事後には、インターンシップにて学んだことの整理や浮上してきた課題の明確化を求める。	
連携活動科目	連携活動入門	連携活動に従事するにあたって、知っておくべき基礎的な事項や身につけておくべき倫理事項、さらに多様な連携活動の実態について講義する。なぜ今、連携活動が社会的に求められているのか、大学生がさまざまな連携活動に従事することの意義が何なのかを、具体的な事例を交えながら講義する。受講期間中、一度は学外での活動への参加が必要である。なお活動先は、こちらから紹介する。過去の学外活動先は以下の通りである。 1. 「七條大橋のお掃除と交流会」 2. 「京都市東山区栗田社会福祉協議会主催「体操教室」」	
	地域連携講座A1	本授業は、京都府庁、京都市役所総合企画局、日本銀行京都支店、そして京都の地域企業さまご協力の下、各々ご担当者を招聘して組み立てられている。但し、半期15回の授業の内、最初の3回は全体のガイダンスと以降の授業で必要となる予備知識について、また途中の中間整理と最後の全体総括はコーディネーターの方で行う。本授業の到達目標は、次の通りである。 1. 日本経済の中の京都経済の位置を理解する 2. 京都市の地域振興策について理解する 3. 中央銀行である日本銀行の立場から京都・滋賀経済について考えてみる 4. 地域企業の現実を知る 5. 社会人として女性活躍のキャリア・デザインを考えてみる	

授 業 科 目 の 概 要			
(データサイエンス学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	地域連携講座A2	この授業は、本学と連携協定を結んでいる他地域の大学が開設する「地域文化理解」に関する講義を集中で学ぶ講座である。対象となる産業界(航空業界・ホテル業界・放送業界等)の理解と合わせ、似て非なるサービスとホスピタリティの相違、そして世界から評価される日本の”おもてなし”の本質を理解し、自ら実践できる基礎作りを目的としている。	
	地域連携講座A3	この授業は、本学と連携協定を結んでいる他地域の大学が開設する「地域文化理解」に関する講義を集中で学ぶ講座である。この授業では、世界や日本、地域社会の多様な食と食文化に関し、国内外の第一線で活躍する食のプロフェッショナルによる講義と調理実習、フィールドスタディを通じ、食についての基本的理解と価値観の醸成を目的としている。	
	地域連携講座B1	本学が連携協定を締結している自治体の行政や企業、団体等と連携活動について紹介する。また、各連携先の担当者をゲストスピーカーを招き、地域との連携のあり方などを学ぶ。地域社会の担い手として女性が果たす役割の重要性を理解することを目標とする。地方自治体や企業等が直面する課題を自ら発見し、解決に当事者意識をもつようになることが期待される。	
	地域連携講座B2	京都市を中心に、社会と連携活動について、行政(京都市、東山区)や企業、各種組織の実務担当者をゲストスピーカーとして招き、それぞれの分野からみた京都市の社会の実態を講義してもらうオムニバス形式の授業である。京都市の実態と京都市・東山区が直面する課題を多角的視点から理解し、かつ課題解決に向けて学生自身が地域貢献活動に主体的に取り組むよう学生の行動を促進することを目的とする。京都の社会を多角的に理解することによって、社会についての広い教養を培うことが出来、また社会を構成する多様な組織・機関の役割を学ぶことによって、組織の中で、自らの専門的知識・理解・技能、個性や能力を活かして協働する重要性を理解できることを目標とする。	
	地域連携講座B3	京都府を中心に、社会と連携活動について、行政や企業、各種組織、観光業等の実務担当者をゲストスピーカーとして招き、それぞれの分野からみた京都府の社会や伝統産業・観光産業の実態を講義してもらうオムニバス形式の授業である。京都府の実態と京都府が直面する課題を多角的視点から理解し、かつ課題解決に向けて学生自身が地域貢献活動に主体的に取り組むよう学生の行動を促進することを目的とする。	
	産学連携講座A1	「持続可能な社会の実現を果たす民間金融機関の役割」について、大手企業及びそのグループ会社での事業内容を素材にしなが、これらの様々な事業の仕組みを解説するとともに、今後の社会生活や資産形成に必要な知識を習得することを目的とする。社会人である各社の講師の考え方や京都女子大OBの経験談を通じて、金融業務の幅の広さや面白さを理解するとともに、働くことについて、また、自身の今後のキャリアについて考える機会とする。	
	産学連携講座A2	大手証券会社の実務担当者をゲストスピーカーとして招き、証券・金融市場関連のテーマを中心とする講義を通じて、社会・経済の動向に関する見聞を広め、今後の社会生活や資産形成の際に必要な知識を習得することを目的とする。資本市場に求められる役割とは何か、激変する日本の資本市場の全容と投資のリスク&リターンの考え方、株式投資・債券投資・ポートフォリオ運用・外国為替相場など証券投資における重要なテーマを実務の観点から解説する。	
	産学連携講座B1	全国紙の新聞記者をゲストスピーカーとして招き、新聞を通じて現代社会の諸問題について理解を深め、社会に対する問題意識を養うことを目的とする。様々な社会問題をテーマに講義する。学生はそれぞれの意見を小論文として提出し、講師が全員分を添削し講評する。また、当日の新聞や記事を使って社会問題を考える機会とする。なお、ニュースの動向などにより、授業計画を変更する可能性がある。以下、3点を到達目標とする。 1. 新聞を通し情報リテラシーを高める 2. 社会問題について「自分の意見」「新たな視点」を持つ 3. 社会で求められる「書く力」「伝える力」を養う	
	産学連携講座B2	電気・ガスを中心にエネルギーを通じて、日本・世界の抱える環境問題や社会情勢に関する見聞を広め、今後の社会生活に必要な知識を習得することを目的とする。大手ガス会社より、ガス・電気の基礎知識(ガスの輸入先や供給方法)、国のエネルギー施策、時代の背景等についての解説をし、身近なエネルギーから環境問題、社会情勢について考える機会とする。	
	連携課題研究1	本授業は、受講生が地域社会の担い手となることを想定し、地域で様々な仕事や活動を行う上で必要となる社会との関わり方や、地域の情報を収集・整理・編集して正確に発信する技術力を身につけることを目指す。具体的には、地域や企業、公共施設等との連携の課題を整理し、プロジェクトテーマを設定し、受講生のこれまでの学びや情報技術を活かした問題解決を試みる。テーマに沿った情報収集や現地調査、地域の関係者へのインタビュー、編集・発信の成果を研究レポート(スライドや動画も含む)にまとめる。デジタルな地域情報の編集には、「Wikipedia」と「OpenStreetMap」の2種類を予定している。	
連携課題研究2	本授業は、京都の伝統的染色産業の参加型課題研究です。京都の地において長年育まれてきた伝統的産業である着物の染色技術の奥深さを知るとともに、現代の課題を発見し、解決に導く手法を考察し、産業継承への貢献を目指すことを目的としている。前期では、工房を訪問し、テーマとなる染色の見学をおこない知識を深めるとともに、京都の伝統的産業を活用した取り組み事例をリサーチし実態を把握する。それぞれのリサーチについてのディスカッションを通して、現代における伝統的染色産業の役割と今後の可能性を探る。後期では、本学に職人を招いて染色実習を体験し、受講生らは自ら体得した染色の魅力や課題点について細やかに取材する。体験と取材の実施は、グループワークのなかで受講生各自が役割をもって進行する。授業最終日には、経験によって発見した内容を取り入れ、伝統的産業の継承について自らの提案をまとめ、発表する。		
国際理解科目	言語と文化A1	英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語を担当する5人の教員が下記の順番でレレー式に講義する。扱われる主なテーマは、これらのことばはどんなことばか、これらのことばが話される国や地域はどんなところかということである。 (オムニバス方式/全15回) (73 野村 潤/3回) 第1回: 英語はどんなことばか (1) 第2回: 英語はどんなことばか (2) 第3回: 英語はどんなことばか (3) および確認テスト (82 藤原 美沙/3回) 第4回: ドイツ語はどんなことばか — ドイツ概要とドイツ語の特徴 第5回: ドイツ語圏の思想と文学 第6回: ドイツ以外のドイツ語圏 および確認テスト (68 小林 亜美/3回) 第7回: フランス語はどんなことばか — 特徴および他言語との比較 第8回: フランス語とフランス文化 — ことばと文化を考える 第9回: フランス以外のフランス語圏 および確認テスト (45 中西 恭子/3回) 第10回: 韓国・朝鮮全般に関する基礎知識 第11回: ハングルとはどういう文字か 第12回: コリア語とはどういう言語か および確認テスト (64 加藤 聡/3回) 第13回: 中国語はどのような人たちに使われているのか 第14回: 中国語はどのような文字で記されるのか 第15回: 中国語とはどのような特徴があることばなのか および確認テスト	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(データサイエンス学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	言語と文化A2	グローバル社会において、英語はもはや母語話者だけのことばではなく、国際社会においては共通語として使用されている。この講義では、英語ということばに対する社会的認識の変化とコミュニケーションの手段としての英語の機能面を考える。テキスト名にある「英語学」ということばに難しさを感じることなく、国際社会の一員である私たち日本語母語話者が英語ということばを学習する際に教養知識として知っておくべき内容である。コミュニケーションの手段として英語を学ぶことの新たな視点を持つことで、今後の英語学習に大きなヒントとなる。	
	言語と文化B1	フランス語・ドイツ語の教員がリレー式に講義を行う。前半はフランス語、後半はドイツ語の担当で、それぞれの言語や文化について、フランス、ドイツだけでなく、広くフランス語圏、ドイツ語圏にも目を向けつつ、さまざまな視点から論じる。両言語の特徴を知り、文化的背景を学ぶことで、フランス(語圏)とドイツ(語圏)はもちろん、ヨーロッパ全体の文化にもより深く接することができる。 (オムニバス方式/全15回) (70 Cécile Morel/7回) 第1回:オリエンテーション 第2回:ヨーロッパのなかのフランス(1) — ことばと歴史 第3回:ヨーロッパのなかのフランス(2) — 歴史と文化 第4回:フランスの人々は人間をどのように表現してきたか(1) — 近代フランス文学の世界 第5回:フランスの人々は人間をどのように表現してきたか(2) — 文学とその他の芸術ジャンル 第6回:フランス語とフランスの文化(1) — 世界遺産 第7回:フランス語とフランスの文化(2) — 食文化 (68 小林 亜美/1回) 第8回:フランス語まとめ (82 藤原 美沙/6回) 第9回:ドイツ語はどんな言葉か — ドイツ語の特徴 第10回:ヨーロッパのなかのドイツ — ヨーロッパの統合と言語 第11回:ドイツ語圏の人々は人間をどのように表現してきたか(1) — 啓蒙主義 第12回:ドイツ語圏の人々は人間をどのように表現してきたか(2) — ロマン主義以降 第13回:ドイツ映画の中のドイツ語(1) — さまざまな映画ジャンルにおけるドイツ語表現の使用 第14回:ドイツ映画の中のドイツ語(2) — ナチス時代に関する映画におけるドイツ表象 (83 Markus Rüsche/1回) 第15回:ドイツ語まとめ	オムニバス方式
	言語と文化B2	本講義では、「ことばの魅力を知る」というテーマにそって、中国および朝鮮半島の言語と文化を歴史的に概観する。より具体的には、この地域の言語の特徴、文化的な特質、さらには言葉についての認識、またそれに関連する文学や歴史の有り様などについて考察を加えていく。このことはまたおのずから、日本語や日本文化の特質を考えることにもつながる。中国語2名、韓国語2名の教員によるオムニバス形式で進める。 (オムニバス方式/全15回) (66 金 情浩/4回) 1. 韓国の文化(生活) 2. 韓国の文化(宗教と音楽) 3. 近代史からみる韓国 4. 統計からみる韓国と日本 (45 中西 恭子/3回) 5. 漢字からハングルへ 6. ハングルの歴史 7. コリア語と日本語 (62 劉 小俊/3回) 8. 漢字と中国語 9. 漢字の歴史 10. 中国語における日本語語彙 (64 加藤 聡/5回) 11. 統語から見る中国語の言語的特徴 12. 形態から見る中国語の言語的特徴 12. 音韻から見る中国語の言語的特徴 14. 言語文化への言語的特徴の反映——漢詩を例に 15. まとめ	オムニバス方式
	英語で京都を学ぶ	ゲストスピーカーによるリレー講義である。毎回、様々な分野の先生をゲスト講師として招き、京都の文化と生活について英語で語る。授業は英語でおこなわれ、日本語は補助的に用いる。いわゆる歴史・伝統だけでなく、現在の京都の生き生きとした文化に触れることを目的としている。	
	国際理解実習	この授業では、日本統治時代の台湾の歴史と文化に関する15回の講義を受けた後、9月上旬に授業担当者とともに実際に台湾に渡り、講義で学んだことをより深く理解するため、台湾各地を巡検するという、講義と実習を組み合わせたプログラムである。授業の前半(7回)では、日本統治時代の台北や台中の都市計画と建造物の特色について学習し、日本と台湾の双方にまたがる歴史の問題や産業遺産の保存とさらなる利用方法などについて認識を深めていく。後半7回の授業では、受講生をいくつかのグループに分けて、静宜大学を訪問する際に行う学生交流とプレゼンテーションの準備に充てる。実習期間は9月の第一週で、3泊4日で行う予定である。台湾実習に要する旅費は参加者負担となる。	
	語学・文化研修A1	ハワイ大学HELPが派遣する講師たちと8日間寝食を共にしながら実用英語を習得し、授業及びアクティビティを通じて、アメリカ文化と社会についての理解を深めることを目的とする。参加学生が主体となって実施するハワイ大学講師の京都案内ツアーの後、滋賀県長浜市の研修施設を貸し切り、トータルイマージョン方式で英語漬けの生活を体験する。1クラス8名編成で4クラス開講する。1レッスンは50分で1日6レッスンを5日間実施する。6人の講師が各クラス毎日1レッスンを担当する。毎日、講師全員の授業を受講し、スピーキング、リスニング、ライティング、エクササイズ、アクティビティ、夜には映画を英語音声で観ることを通じて英語を総合的に学んでいく。授業はすべて英語で進める。また、参加学生が主体となって企画し、グループごとに講師たちに日本文化を英語で紹介することにより、自らの日本文化についての理解を深め、新しい視点を再発見する機会を得ることができる。本研修は、英語を使うことに不安がある学生や、今後留学を考えている学生が、自身の英語運用能力を発揮するきっかけと「自信」の体得を学修目標としている。	
	語学・文化研修A2	アメリカ合衆国のハワイ大学(ハワイ州・ホノルル)において、春期休業期間に3週間の研修に参加し、ハワイでの生活を通して英語を学習しながらハワイの社会や文化に対する理解を深め、異文化社会に触れながら実践的な英語能力の向上を図る。ハワイ大学ではホームステイをしながら、ハワイ大学マノア本校NICE(New Intensive Courses in English, University of Hawaii at Manoa)講師による英語学習(グループ・ペアでの練習、ミニ・プレゼンテーション、ロールプレイ、ディスカッションなど)を通じたスピーキングとハワイ文化について学ぶ文化の学習に重点をおいている。)、ハワイ大学の学生との交流やエクササイズを通してハワイ文化を学び、実践的な英語運用能力の向上を図るプログラムを受けることになる。また、ホームステイを通じて、生活して初めて気づく文化や習慣の違いを実感してもらう。本研修はハワイの多文化社会における英語コミュニケーション能力の育成及び海外で自身の能力を発揮できる「自信」の体得を学修目標としている。研修参加者は、渡航前に危機管理セミナーを含む事前オリエンテーション(約10回)に怠りなく参加する必要がある。また、帰国後に研修レポートを提出する必要がある。	

授 業 科 目 の 概 要			
(データサイエンス学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	語学・文化研修A3	英国のチチェスター大学(ウエスト・サセックス州、ボグナーリーجز)において、夏期休業期間に約3~4週間の研修に参加し、英国での生活を通して英国の社会や文化に対する理解を深め、異文化間コミュニケーション能力の向上を図る。チチェスター大学では大学寮での共同生活(2週間)及び英国の家庭でホームステイ(1週間)をしながら、現地講師による英語学習、プレゼンテーション、プロジェクトワーク、英国文化研修などで構成されるプログラムを受けることになる。また、研修期間中はチチェスター大学学生2名~4名がアシスタントとして研修期間中の生活全般をサポートするため、同世代の学生とのコミュニケーションを図ることもできる。本研修は英国社会における英語コミュニケーション能力の育成および海外で自身の能力を発揮できる「自信」の体得を学習目標としている。研修参加者は、渡航前に危機管理セミナーを含む事前オリエンテーション(約10回)に怠りなく参加する必要がある。また、帰国後に研修レポートを提出する必要がある。	
	語学・文化研修A4	オーストラリアのウエスタン・オーストラリア大学(西オーストラリア州・パース)において、春期休業期間に約3~4週間の研修に参加し、オーストラリアでの生活を通してオーストラリアの社会や文化に対する理解を深め、異文化間コミュニケーション能力の向上を図る。ウエスタン・オーストラリア大学ではオーストラリアの家庭でホームステイ(4週間)をしながら、オーストラリア大学付属語学施設のCentre for English Language Teachingにおいて現地講師による英語学習(リスニング・リーディング・ライティング・スピーキング・発音・単語・文法など英語の基本的な技能を学ぶ)やCALL教室を利用してオーストラリア文化について学び、キャンパス内での現地学生へのインタビュー、プレゼンテーションを通して実践的な英語力を養うプログラムを受けることになる。また、オーストラリアの家庭でのホームステイを通じて、生活して初めて気づく文化や習慣の違いを実感してもらおう。本研修はオーストラリアの多文化社会における英語コミュニケーション能力の育成及び海外で自身の能力を発揮できる「自信」の体得を学習目標としている。研修参加者は、渡航前に危機管理セミナーを含む事前オリエンテーション(約10回)に怠りなく参加する必要がある。また、帰国後に研修レポートを提出する必要がある。	
	語学・文化研修A5	カナダのアルバータ大学(アルバータ州エドモントン)において、夏期休業期間に約3~4週間の研修に参加し、カナダでの生活を通してカナダの社会や文化に対する理解を深め、異文化間コミュニケーション能力の向上を図る。アルバータ大学ではカナダの家庭でホームステイ(約2週間)及び大学寮での共同生活(約2週間)をしながら、現地講師による英語学習(語学学習、インタビューや英語劇など)、カナダ文化学習やエクスカッションなどで構成されるプログラムを受けることになる。また、研修期間中はアルバータ大学学生1名~2名がアシスタントとして研修期間中の生活全般をサポートするため、同世代の学生とのコミュニケーションを図ることもできる。本研修はカナダの多文化社会における英語コミュニケーション能力の育成及び海外で自身の能力を発揮できる「自信」の体得を学習目標としている。研修参加者は、渡航前に危機管理セミナーを含む事前オリエンテーション(約10回)に怠りなく参加する必要がある。また、帰国後に研修レポートを提出する必要がある。	
	語学・文化研修B1	オーストリアのウィーン大学(オーストリア・ウィーン市)において、夏期休業期間に約3~4週間の研修に参加し、ウィーンでの生活を通してオーストリアの社会や文化に対する理解を深め、ドイツ語による異文化間コミュニケーション能力の向上を図る。ウィーン大学では大学寮で共同生活をしながら、ウィーン大学ランゲージセンター講師によるドイツ語学習(午前中45分授業を3回)やエクスカッション、ニュース、文化やスポーツなどのビデオ鑑賞、合唱クラス、言語や文化のレクチャーなどで構成されるプログラムを受けることになる。プレースメントテストの結果に基づき、ウィーン大学ランゲージセンターのレベル別クラスに入り、他の海外留学生とともに学ぶことができる。本研修はオーストリアにおけるドイツ語コミュニケーション能力の育成及び海外で自身の能力を発揮できる「自信」の体得を学習目標としている。研修参加者は、渡航前に危機管理セミナーを含む事前オリエンテーション(約10回)に怠りなく参加する必要がある。また、帰国後に研修レポートを提出する必要がある。	
	語学・文化研修B2	フランスの西カトリック大学(フランス・アンジェ市)において、夏期休業期間に約3~4週間強の研修に参加し、フランスでの生活を通してフランスの社会や文化に対する理解を深め、フランス語による異文化間コミュニケーション能力の向上を図る。西カトリック大学では大学寮で生活をしながら、西カトリック国際フランス語センター講師によるフランス語学習(午前中の授業を3回等)、アクティビティやエクスカッションなどで構成されるプログラムを受けることになる。プレースメントテストの結果に基づき、西カトリック大学国際フランス語センターのレベル別クラスに入り、他の海外留学生とともに学ぶことができる。本研修はフランスにおけるフランス語コミュニケーション能力の育成及び海外で自身の能力を発揮できる「自信」の体得を学習目標としている。研修参加者は、渡航前に危機管理セミナーを含む事前オリエンテーション(約10回)に怠りなく参加する必要がある。また、帰国後に研修レポートを提出する必要がある。	
	語学・文化研修B3	韓国の梨花女子大学校(韓国・ソウル市)において、夏期休業期間に約3週間の研修に参加し、韓国での生活を通して韓国の社会や文化に対する理解を深め、韓国語による異文化間コミュニケーション能力の向上を図る。梨花女子大学校では大学寮で生活をしながら、梨花女子大学校言語教育学院講師による韓国語学習、日韓共同授業(韓国の大学生と一緒に韓国の様々な文化を体験し、韓国と日本の文化の共通点・相違点について韓国語でディスカッションやプレゼンテーションをすることにより、互いに文化交流を行う。)、文化授業などで構成されるプログラムを受けることになる。また、韓国語教育とボランティア活動に興味がある梨花女子大学校の在学学生の中から選ばれたトウミが、研修参加者へ韓国生活や韓国語学習、宿題についてのサポートをしてくれるトウミ活動が特徴である。プレースメントテストの結果に基づき、梨花女子大学校言語教育学院のレベル別クラスに入り、他の海外留学生とともに学ぶことができる。本研修は韓国における韓国語コミュニケーション能力の育成及び海外で自身の能力を発揮できる「自信」の体得を学習目標としている。研修参加者は、渡航前に危機管理セミナーを含む事前オリエンテーション(約10回)に怠りなく参加する必要がある。また、帰国後に研修レポートを提出する必要がある。	
	語学・文化研修B4	中国の北京語言大学(北京)において、夏期休業期間に約3~4週間の研修に参加し、中国での生活を通して中国の社会や文化に対する理解を深め、異文化間コミュニケーション能力の向上を図る。北京語言大学では大学寮で共同生活をしながら、北京語言大学講師による中国語学習(午前中1日50分授業を4クラス)と午後には中国文化研修・体験を通して中国語の能力を養うプログラムを受けることになる。プレースメントテストの結果に基づき、北京語言大学漢語速成学院のレベル別クラスに入り、他の海外留学生とともに学ぶことができる。本研修は中国における中国語コミュニケーション能力の育成及び海外で自身の能力を発揮できる「自信」の体得を学習目標としている。研修参加者は、渡航前に危機管理セミナーを含む事前オリエンテーション(約10回)に怠りなく参加する必要がある。また、帰国後に研修レポートを提出する必要がある。	
	語学・文化研修B5	台湾の淡江大学(台北市)において、春期休業期間に2週間の研修に参加し、台湾での生活を通して中国語を学びながら台湾社会や文化に対する理解を深め、異文化社会に直接触れながら実践的な中国語運用能力の向上を図る。淡江大学では寮などで生活をしながら、淡江大学台北キャンパス華語センター講師による中国語学習(Listening, Speaking, Reading, Writingの4技能の学習。中国語の標準語で実施。)、中国文化学習やエクスカッションなどのプログラムを受けることになる。中国語授業は午前と午後に1クラス10~12名程度のレベル別クラスで受講する。本研修は台湾社会において中国語コミュニケーション能力の育成と海外で自身の能力を発揮できる「自信」の体得を学習目標としている。研修参加者は、渡航前に危機管理セミナーを含む事前オリエンテーション(約10回)に怠りなく参加する必要がある。また、帰国後に研修レポートを提出する必要がある。	
教養科目	教養科目A(文学と思想1)	本講義の目的は、今日の社会における異文化理解の必要性を認識し、異文化理解のあり方についての理解を深めることである。そのために、異文化接触や異文化理解に必要な視点が含まれた小説などを題材に、受講者の意見交換を行いながら、異文化理解のあり方について様々な観点から考える。また、受講生にも異文化理解に関する小説を紹介してもらい、それに対する意見交換を行いながら、テーマに関する多角的な考察を深めていく。	

授 業 科 目 の 概 要			
(データサイエンス学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教養科目A(文学と思想2)	古代ギリシアから20世紀に至るまで、哲学者に恋愛やセックスについての有名な作品を紹介し、考察する。以下、3点を授業の到達目標とする。 1. 恋愛とセックスと結婚に関する古代ギリシアから20世紀に至る西洋思想の基本的教養を獲得する。 2. 正しい様式でレポートを書けるようになる。 3. エッセイライティングの基本を習得する。	
	教養科目A(芸術と表現1)	この授業では、さまざまなアメリカの大衆音楽を実際に聴いて、その歌詞を詳しく見ていく。それは英語のリスニング力や読解力を身につけることになり、多くの英語表現を習得することにもつながる。そして映像や紙媒体の資料も参照することで、アメリカの大衆音楽がいかに背景の歴史や文化と深く関連しながら発展してきたかを理解する。以下、3点を授業の到達目標とする。 ・アメリカの歴史や文化を知ることができる。 ・英語の読解力を高めることができる。 ・さまざまな英語表現を習得できる。	
	教養科目A(芸術と表現2)	芸術の表現において、Material(素材)とInstruments(道具)、そしてArtist(作家)とのつながりを考えることはとても大切である。小・中・高等学校の図工科・美術科で学習した芸術的視点を振り返りながら、美術・工芸制作、特に日本を中心とした芸術と表現における素材や道具に着目し、その意味を考察するとともに、日本の文化としての芸術表現を考察する。我が国の図工・美術科教育を振り返り、日本の芸術における素材と道具についての知識と理解を得たのち、美術・工芸を対象とする芸術性と表現方法について気づき、芸術的視点をもって日本の文化を考え、自らの生活を営むことができる。	
	教養科目A(市民と社会1)	政治や行政の基本的な仕組み、それらを支える基礎的な考え方について、LMSのディスカッション機能を使って学ぶ。毎回、教科書の該当箇所や配布資料を読んで、それに関わる質問やコメントを投稿する。その投稿はすべての受講者に開かれているため、他の受講者の投稿と私のフィードバックを読んで、さらにそれに対する意見を求める。これらの作業をとおして、コメント力、質問力、文書による意見交換の方法を学んでいく。現代社会学部と法学部の学生の受講も認めるが、政治学に触れる機会の少ない、それ以外の学部の学生をおもな受講者として想定している。現代社会学部と法学部の学生でより専門的な内容を求める者は、それぞれの学部で開講される政治学関連の科目を履修することを勧める。	
	教養科目A(市民と社会2)	「市民と社会」とは、社会を構成する市民として現在および将来、自分が社会の中においてどのような役割を担うかということを探る旅の入り口の講義である。学んだことを将来活かす先である社会、経済、暮らし、環境、ビジネス領域およびそこにある社会課題の具体的事例を取り上げることで実社会において使える本質的な知識を獲得する。特にAIやクラウドやデータ駆動など新しい社会基盤の仕組みやその技術などを取り上げる。また、社会の第1線で活躍するビジネスウーマン/マンを招いての特別講義など社会との接点を増やすことで新しい社会的視点を獲得する。自分が社会でどのような役割を果たすことができるかをおぼろげにでも実感でき、さらに自分の専門分野を学ぶにあたっての新しい視点を獲得することを目標とする。	
	教養科目A(福祉とくらし1)	日常生活の中のさまざまな現象を取り上げ、その背景にある原理、仕組み、影響や効果を最新の栄養学、生物学、化学の観点から提供する。例えば、肥満・やせ、睡眠、ダイエット、アレルギー、依存症などの身近な現象の仕組み、影響を最新の研究動向を踏まえてわかりやすく解説する。また、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)やそのワクチン、iPS細胞、ゲノム編集、クローン技術、再生医療などのこれまでになかった新規の現象や技術の仕組みや生活への影響・問題点も取り上げ、その意義やインパクトを理解できるようにする。これらの講義を通して、科学的、理性的、冷静なものを見方や対応力を養うことを目指す。上記に挙げた目的から、本科目はどうしても理系科目を履修していない文系学生を想定して講義を進める。	
	教養科目A(福祉とくらし2)	我が国の社会保障制度の4つの柱は、社会保険、社会福祉、公的扶助、公衆衛生である。本授業では、各自治体の保健所や保健センターなどが行っている公衆衛生について焦点を当て、公衆衛生の定義や重要性について講義する。授業では特に、「公衆衛生とは何か」についてその歴史や事例(COVID-19など)を踏まえて説明を行う。その後、学問としての公衆衛生学が多くの分野(疫学、生物統計学、医療政策学、環境科学、行動科学など)に支えられていることや、「公衆衛生的な視点」が果たす役割、こうした視点が我々の日々のくらしを豊かにすることなどについて例を取り上げて講義する。本授業を履修することで、公衆衛生に対する深い理解と「公衆衛生的な視点」に基づく洞察力を身に付けることができる。	
	教養科目A(心とからだ1)	発育・発達に関する基本と応用の学習。特別支援教育、学校保健、健康相談活動といった教育課題に関する学習。発達障害や健康障害などの症例検討を行う。各ライフステージにおける健康問題に関する教養を身につけ、心とからだに関する基本を学習する。	
	教養科目A(心とからだ2)	授業においては、動画コンテンツによる講義に加えて、授業で取り上げたトピックに関するエクササイズに取り組んでもらいながら進める。また、毎回、授業の内容理解を確認するためのコメントシートの提出を求める。さらに、授業で取り上げたトピックに関するミニレポートの提出を求めることがある。現代の日本社会では、少子高齢化の進行や経済成長の低迷、世界情勢の大きな変化等に伴い、先が見えない閉塞感が高まっている。この授業は、ストレスの多い現代社会を心身ともに健康に保ちながら幸福感をもって生き抜いていくための力を、心理学の知見を活かしながら養うことを目標とする。私たちの日常生活においては対人関係によって生じるストレスが大きい。そこで、この授業では特に対人関係に焦点を当て、自分のパーソナリティについて探るとともに、他者と関わっていく上で生じやすい問題点や対処法について検討していく。	
	教養科目A(環境と生命1)	心身への有害物質・現象、気候変動とエネルギー、人と動物の関係などのトピックについて、それぞれの現状、課題、争点などを解説する。毎回、授業内容に関連する問いへの応答を課題として提出してもらい、理解度・関心度・考察力を確認し、期末レポートと併せて評価を行う。環境問題の主要なトピックについて、それぞれの現状、背景・原因、対策を理解し、人間にとって環境とは何か、自然環境(地球生態系、山川水木、動植物)にとって人間とはいかなる存在か、といったことを考える機会とする。それにより、人間の自然に対する関係について明確な意見を持つことを目標とする。	
	教養科目A(環境と生命2)	現代では自然科学は科学の世界の中だけでなく、広く社会一般に影響を及ぼしているが、それによって科学の理解がスムーズになる場合もあれば障害となる場合もある。本講義では、映画の中に現れている事象を手がかりにして、生物学のトピックスを紹介することで、自然科学への興味関心を高め、進化や生態といった生物学、また環境と人間とのかかわりについての生物学について、基礎的な教養を身に付ける。	
	教養科目A(数と情報1)	データを論理的かつ客観的に分析するための基礎知識として、データの変動や累積量を数学的に関数として表現し、現象を解明することが可能な微分や積分とその応用について学ぶ。具体的には、極限、級数、微分、積分の考え方を理解し、それらの三角関数、指数関数、対数関数など各種の関数への応用に関する知識及びそれらの計算技能を身につける。さらに、現実社会における適用について考察し、課題の発見・解決を行う。	
	教養科目A(数と情報2)	現在当たり前のように利用されているインターネットが普及し始めたのは10数年前である。インターネットの登場により、人々のコミュニケーションのあり方や社会構造も変化している。この授業では ・コンピュータ内でのデータの扱い方 ・インターネットにおける通信の仕組み など、インターネット中心とした情報技術の基礎知識の理解を目標とする。第2~4回では、情報分野の基礎となる2進数と、10進数16進数との変換について、第5~13回では、コンピュータ内で様々なデータをどのように表現しているかについて、文字を例にとって符号化・復号化の考え方について、第14~15回では、インターネットの通信の仕組みの概要を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
(データサイエンス学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教養科目B(文学と思想3)	哲学の歴史とは、学問的な仕方では知恵を愛する「人間の営み」の歴史である。その歴史は、複雑的な多様性を持って存在している。哲学は古代ギリシャにおいて、神話的な世界解釈を脱して、ものごとの始原にある原理(principle = arche)を経験と論理によって探求する営みとして始まった。本講義では、宗教と学問との差異、原理的に考えること、論理的に考えることを人類がいかに多様な仕方で行ってきたかを振り返る。また、学問の思考法、自由主義・民主主義の原理について学ぶ。	
	教養科目B(文学と思想4)	本講座は、「食卓と家族」について深く掘り下げる。食卓を囲む家族の姿は幸せな家族の象徴として多くの場所に描かれている。しかし、会話をしながら楽しく食事をするようになったのは第2次世界大戦後、それ以前は食事中にしゃべってはいけない、との躰が一般的であった。食事は家族揃って楽しく行うべき、との規範形成には国家政策が影響を及ぼし、国のイデオロギーだったとも言える。明治期から現在までの我が国での食卓での家族団らんの変遷を、教科書や雑誌の言説などから読み解いていく。また、他国での現状や見方、コロナ禍以降の「黙食」についても考察する。現在当たり前、と思われていることに疑いの目を向け、真相を明らかにする意欲を養うことが、本講座の目標である。	
	教養科目B(芸術と表現3)	京都女子大学の音楽文化財と、大学のある地域に根差した文化の素材を糸口に、「音楽による芸術と表現」に関して視野を広げることを目指し、本講義の目標とする。「仏教讃歌」の回では、普段、身近に接しているチャイムや式典で歌う仏教讃歌の歴史的経緯を学び、自分が担う文化の意味を認識する。明治期以降の洋楽受容の影響、昭和期戦前の国家プロジェクトとしての仏教音楽協会の活動に垣間見える文化ポリティクス、仏教讃歌の芸術的価値をめぐる論争、現在の伝統と革新のはざまを漂う多様な活動、これらを概観し宗教共同体の歌とは何かを考察を深める。「純正調オルガン」の回では、制作者田中正平博士が探究した「科学と芸術の融合」の学問的意義を理解する。大学のある京都市東山区が主要舞台の一つである「平家物語」の回では、人間の普遍的なテーマを知り、平曲、能、歌舞伎、人形浄瑠璃、琵琶、現代の語りなど、日本音楽の主要ジャンルによる固有の表現を学ぶ。	
	教養科目B(芸術と表現4)	なぜ文化や芸術は存在するのか?その役割とは何か?海外の人たちからはどのようにみられてきたのか?といった内容になる。たまに芸術の見方のような美術館を訪れるのが楽しくなるポイントなども基本的な知識として話す。受講生はこの授業を受けることで、日本や京都の文化について新しい知識を獲得してもらうことが目的である。知識を増やすよりも大切なことは、日本の文化全体をひとつの芸術としてとらえ、それらがいかに繋がっているかを理解できるかどうかである。そして本やインターネットを検索しても簡単には見つからない見方があることを学べたかどうか、成績採点の際の重要なポイントとなる。「特定主題(京都):京都の文化と産業」と連動している内容が多いので、両方の科目を受講するとより理解が深まる。	
	教養科目B(市民と社会3)	経済学—ミクロ経済学—の考え方を学ぶ。人や国の意思決定についてコスト・ベネフィット分析を中心に解説していく。扱うテーマは、教育、出生、女性の就業等である。これらのテーマを経済学の視点から解説することによって、経済学の考え方を学ぶことを目的とする。	
	教養科目B(市民と社会4)	この講義では、われわれの日常生活等における具体的な問題を題材としてとり上げ、そのような問題が法学・法律学とどのようなつながりを持っているのかを理解することを内容としている。まず、導入部分では、われわれの生活と法・法律とのつながりを理解することができるよう「法学入門」を講義し、法学は何を学ぶものなのかを講義する。具体的には、法とはどのようなものか、法は社会でどのような役割を果たしているのかを、具体的な事例等を通して平易に学んでいく。次に、日常生活等における法的諸問題を各回のテーマを設定し講義する。具体的には、われわれの日常生活と「契約」、「所有」、「事故と損害賠償責任」、および「家族関係」、また消費生活と「食材・食品の表示の問題」、「製造物責任」、「クレジット/ローン等に関する問題」とのつながりを見ていく。また、経済生活における法的諸問題では、企業で働く際のルールに関する問題をとり上げ、さらに、社会生活における法的諸問題では、社会生活と刑法(犯罪)とのつながりをみていく。そして、最後に、まとめとして各回の講義を振り返りながら、法学を学ぶことの意義を考察する。	
	教養科目B(福祉とくらし3)	4名の教員がそれぞれの専門分野(医学・薬学・農学)に関連した栄養・調理・健康機能に関する基本的な講義を行い、知識だけでなく物事の考え方や大学での学び方を教える。一例としては、食物栄養学的な講義として、生活習慣病予防のための正しい食品・食事の選択の仕方について教える。その際に、研究論文における研究データの解釈の仕方・批判的な思考方法も教える。大学で学ぶ教養とはなにかを理解し、本教養科目を通してその学び方を理解し主体的に学べるようになる。その学びの一例として、食と健康と環境の関係を学び、食生活のあり方を考える力をつける。具体的には幾つかの代表的な疾患を良く理解し、それを予防するための食品の選択ができるようになる。また、そのために研究データの解釈の仕方や批判的思考能力を習得する。 オムニバス方式 / 全15回 (42 辻 雅弘 / 3回) ガイダンス、講義の目標と学習内容 食事や運動に関する研究論文の読み方①② (57 宮脇 尚志 / 4回) わかりやすい医学と病気の話①②③④ (28 川添 禎浩 / 4回) 食や生活、環境にかかわる化学物質の安全性問題①②③④ (55 松尾 道憲 / 4回) 病気(生活習慣病・神経変性疾患)のメカニズムと予防法・治療法①②③④	オムニバス方式
	教養科目B(福祉とくらし4)	教育ファシリテーションの基礎的な理論や技術を理解・習得するとともに、家庭、学校、地域等における実践モデルを演習形式で体験することを通して、多様な個による合意形成や価値創出の意義と現代社会における役割を体験的に理解する。以下、3点を授業の到達目標とする。 1. 現代社会における教育ファシリテーションの意義や役割を理解する。 2. 学校や地域社会における教育ファシリテーションの実際を理解する。 3. 教育ファシリテーションを実施するための基礎的な技術を習得する。	
	教養科目B(心とからだ3)	本講義では心の健康について、生物-心理-社会モデルから考える。脳の働きと行動の仕組みの基礎を学ぶことで、生物としての人間について知り、人間が人間たるゆえんについて考える。正常であるのが当然だと思われている心理学的機能が壊れると日常生活に大きな支障をきたす。前半は脳の健康とその性差について考える。脳組織そのものが壊れなくてもその機能に異常をきたすと心のバランス状態を失う。後半では生理学的機能についても触れながら、心の健康について、心理社会的要因をベースに考えていく。人間は社会性をもった存在であるがゆえに、その心のあり様には他者や環境からの影響を大きく受けている。心の健康問題を通して人間の幸福とは何かについて考察する。	
	教養科目B(心とからだ4)	講義形式。毎回、レポート提出があります。基本的な脳の構造と機能を学んだ後、恋愛などの諸現象や状況判断・意思決定などの社会的能力がどのような脳の働きによって実現されているのかを学習する。脳とこころの関係について最新の知見に基づきながら理解を深める。	
	教養科目B(環境と生命3)	医学では、人間集団での健康とそれに関連する事象の頻度と分布を、統計学の知識を用いて正しく評価し、生命に関わる診断と治療に役立てている。環境、生活習慣に起因する疾患の発症リスクだけでなく、偽陽性、陽性的中率といったスクリーニングの用語は、感染症発生時の疫学指標としてもメディアで目にする機会が多くなっている。エビデンスレベルが比較的高い介入研究や、病気の原因を明らかにする観察研究等、様々な研究デザインを解説し、それらで用いられる確率論、統計学的手法について学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
(データサイエンス学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教養科目B(環境と生命4)	本年度は、19世紀以降の自然保護思想、環境思想について概観する。まず現代へと繋がる環境保護思想と、そこに含まれる自然観について理解する。続いて、環境問題が激化した現代において生じた環境倫理学による問題の整理を確認した後、自然の生存権や、人権の問題について学ぶ。	
	教養科目B(数と情報3)	統計や確率に関する基礎的な内容を理解するとともに、統計力(統計を活用して問題解決する力)を身に付けることを授業の目的とし、以下のように授業を進める。統計的データ分析の意味を理解し、統計を活用して問題解決できるようにするために、データ分析に関する基礎的な演習と活用としての問題解決を行う。以下、3点を授業の到達目標とする (1)統計を活用して問題解決する必要性について理解できるようになる。 (2)統計的データ分析の意味が分かり、統計や確率に関する基礎的な知識・技能を身に付けることができるようになる。 (3)統計力として、統計や確率の考え方を活用できるようになる。	
	教養科目B(数と情報4)	講義形式で、問題演習と解説を主に進める。現代の重要な社会基盤となっているICTの仕組みを理解する基礎となる内容である。現代社会の基盤を形成している情報通信技術(ICT)を理解する上で基礎となる数学を理解する。	
	京都の文学	京都を代表する甚だ著名な寺院である清水寺が、素材としていかに日本の種々文学の中に描き込まれているのか、平安時代の『枕草子』から『今昔物語集』や『新古今和歌集』『平家物語』『徒然草』『義経記』『弁慶物語』『東海道中膝栗毛』に至る多様な古典作品、さらには近代の諸作品まで順次取り上げて、具体的に検討・考察する。清水寺を取り上げる理由の一つは、大学から徒歩で行くことのできる、程近い距離にあるからである。その利点を十分に活かして、文学の舞台に実地に親しんでもらうように取り組む。	
	京都と芸能	能・狂言とはそれぞれどのような芸能であるかを理解し、作品に触れる。また作品中に見られる中世の都の姿に注目し、現在の京都の町を改めて見直し、史跡を訪れる契機とする。授業の中でも、扱った作品を映像で鑑賞する時間を設ける。室町時代に生まれた古典芸能である能と狂言を、特に京都との関わりという観点で読み解く。授業内で学ぶことはもちろん、得た知識を生かして、授業外でも実際の舞台鑑賞、また関係のある史跡などに足を運ぶことを勧めたい。	
	京都の歴史	前半：江戸時代に作成された京都に関する古地図・古絵図を、地域・歴史テーマ別に見ることにより、江戸時代の社会の成り立ち、地域の特性、歴史の変遷について学ぶ。後半：明治維新以降の京都の街並みの移り変わりについて学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (60 母利 美和/ 8回) 1. 古地図・古絵図とは 2. 豊臣秀吉の京都改造 3. 京都の朝廷と内裏空間・公家町 4. 二条城と幕府 5. 京都の大名屋敷 6. 鴨東の開発と新地 7. 京都の「町」と「町人」 8. まとめと試験 (33 坂口 満宏/ 7回) 1. 京都の街を知る視点 2. 1870年代-明治初期の街づくり 3. 1890年代-琵琶湖疏水ができた頃 4. 1890年代-平安神宮ができた頃 5. 1910年代-東大路ができた頃 6. 1980年代-ユニクロの看板はなぜ白い?・・・後半第6回目の授業を視聴したうえでレポートを提出 7. 提出されたレポートについての講評	オムニバス方式
	京都の文化と産業	リレー講義形式の授業。着物・和菓子・日本酒・神社・文化財保存などの様々な京都独特の文化・芸術について、講師の方々から文化都市・京都のいまを伺う。毎回の講義の最後に小レポートを提出させる。ゲストスピーカーの都合により、内容が入れ替わったり、変更になることがある。ゲストスピーカーの先生方については第1回目にお名前とご専門を伝える。平安京遷都以降、京都は日本の文化の中心であり続けてきた。今日の我々が日本的であると感じる多くのものは今もこの地に息づいている。様々な文化・芸術活動の第一線で活躍する講師の方々から現状や課題をお聞きし、京都を学び理解するための基礎知識を身につけることを目標とする。	
	現代と仏教A	仏教は歴史的に世界各地に広がる中で、土地ごとの文化や価値観と結びつきながら、多様な発展をとげてきた。世界各地の仏教を知ることは、仏教の思想や歴史にたいする理解を深めることに直結している。本講義では、現代における世界各地の仏教を紹介する。具体的には、アメリカ・インド・東南アジア・チベット・中国・韓国などである。各地域の仏教の特色を考える中で、同時にその地域の歴史や宗教観を学び、異文化に対する感覚を養うことが目標である。また、日本の仏教とも比較することで、日本の仏教文化に対する理解を深めて欲しいと考えている。	
	現代と仏教B	仏教は歴史的に展開してゆく中で、「八万四千の法門」とも称されるように多種多様な思想を生み出してきた。本講義では、生命・死・言語・人工知能・幸福・芸能・食文化・宗教儀礼などのテーマと関連する範囲で、インドや東アジア地域において構築された仏教の様々な考え方を紹介する。そして各回のテーマを仏教的見地から考え、現代における仏教の可能性を模索してみたい。仏教の知見をベースとして現代の問題に取り組むと同時に、自分自身の考え方やものの見方を客観視し、物事を考える際の視野を広げることが、本講義の目標である。	
	仏教文学A	この授業では大きく3つの要素を通じて『歎異抄』を学ぶ。1つめは『歎異抄』成立の特殊性である。『歎異抄』は親鸞に関する書物の中では最も有名なものでありながら、親鸞自身の著作ではない。この点を整理することによって、親鸞と親鸞に関わる人々の生きた姿を具体的にイメージしつつ、書誌に関する基礎知識を学ぶ。2つめは『歎異抄』に説かれた思想である。いくつかの代表的な箇所をピックアップして、『歎異抄』における親鸞の思想の先鋭性について学ぶ。本授業の中心となる要素である。3つめは後世における『歎異抄』の評価である。『歎異抄』がいかにして多くの人々の知るところとなり、また大きな影響を及ぼしていったのかを、様々な学問的議論や、『歎異抄』を人生の支えとした人々の言葉などを通じて学ぶ。本学の創設者たちも大きな影響を受けた『歎異抄』を学ぶことによって、建学の精神をより深く理解することが可能になる。	
	仏教文学B	親鸞の廟所(墓)を起源とする本願寺が歴史の中で存在感を持ちはじめたのは、室町時代、画期的な伝道方法で教団を飛躍的に発展させた「中興の祖」第八代宗主・蓮如のときである。蓮如には自筆の法語である『御文章』(『御文』)や、門弟・子息らの記した言行録などが多数残されており、その思想や事跡を比較的詳しく知ることができる。それらを通じて、蓮如の時代から今日にまで受け継がれている浄土真宗の教学や本願寺教団の特徴を学び、仏教・宗教に対する知見を養うことを目的とする。本講義を通じて、蓮如の事蹟と教学、および当時の時代背景に関する知識を習得する。それらは、鎌倉時代の親鸞の思想と、近現代における本学の設立との結びつき、そして建学の精神を、より深く理解するための視点を与えるものである。	

授 業 科 目 の 概 要			
(データサイエンス学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	仏教文化A	仏教は現在まで長い歴史を持っている。しかし、それが我々の生きている現代の日本社会において、インターネットやテレビなど、科学技術の発達した現代ならではの高度なメディアを通じて伝達されている事実は見過ごされがちである。本講義では、文字資料と動画資料を交互に利用し、国内外における現代の仏教者の多様な活動について学ぶことを通じて、古代や中世などの遠い過去ではない我々の「今現在の」社会で生起しつつある「現在進行中の事象」としての仏教文化について幅広く知ってもらおう。受講者各自は、担当者が提示する数多くの具体例によって、そうした事実を認識した上で、現代日本の文化的潮流の中での仏教のありようについて、幅広い知識と透徹した見解を獲得することを目標とする。	
	仏教文化B	仏教は現在まで長い歴史を持っている。しかし、それが我々の生きている現代の日本社会において、インターネットやテレビなど、科学技術の発達した現代ならではの高度なメディアを通じて伝達されている事実は見過ごされがちである。本講義では、文字資料と視聴覚資料を交互に利用し、仏教的な美術・音楽、またボランティアなど実践活動について学ぶことを通じて、古代や中世などの遠い過去ではない、我々の「今現在の」社会で生起しつつある「現在進行中の事象」としての仏教文化について幅広く知ってもらおう。その際、授業で扱う主題について、しっかりと自分自身に引き付けて主体的に考える姿勢を養うべく、毎回課題を提出してもらい、現代日本の文化的潮流の中での仏教のありようについて、幅広い知識と透徹した見解を獲得することを目標とする。	
	仏教思想A	仏教は長い歴史を持ち、そしてアジア社会を中心に広い地域に伝播していく過程で様々な部派・学派・宗派が成立して現在に至る。そこで説かれた思想内容は、実に多様である。しかしそのなかに、時代と地域を超えて受け継がれてきた基本的な概念や考え方がある。本講義では、仏教において導かれてきた仏・法・僧の三宝、そして無常・苦・無我といった基本的な概念が、仏教思想の展開のなかでどのように捉えられてきたのかを改めて検討するとともに、これらの概念の奥にあるものの見方や思想が、現代を生きる私たちにとっていかなる意義を担うのかを考察する。	
	仏教思想B	縁起の教説はシンプルであるようで奥深く、仏教思想家たちはそれを様々な仕方でも捉えることにより思想を展開してきた。本講義ではまず、仏教思想の根幹としばしば評される縁起の概念がどのように発展してきたのかを考察する。そして後半では、より日常的で身近な心や行為、善悪といった事柄が、仏教の思想伝統の中でどのように捉えられたのかを検討する。その際のキーワードは、煩惱や分別、信、慈悲、他力、善悪などである。これらの考察をふまえて、仏教思想が、現代を生きる私たちにとっていかなる意義を担うのか、改めて問い直す。	
	外国語で読む仏教A	仏教経典は、読経としては聞く機会があるが、その内容を知る機会は少ない。英語に訳された『仏説観無量寿経』を読み、経典のなかでは最もドラマティックな内容について講義をする。英訳と原典を対比することにより、言葉の背景にある文化や思想の違いを知る。本講義の目的は、英文で書かれた『仏説観無量寿経』を読むことによって、仏教の内容理解を深めることである。講義の方針として、本校における建学の精神に対する知識を深め、親鸞聖人の体せられた仏教精神にもとづく人間教育の理解を深める一助となるよう計画する。	
	外国語で読む仏教B	仏教文学としては最も有名な親鸞の『歎異抄』の英訳を読む。原文と英訳との対比によって、言葉の背後にある文化や思想を考える。『歎異抄』は、究極の真実とその真実に向き合う人間の葛藤が幾重にも折り重なっていると言われており、異なる言語や角度から読むことで、新たな発見があり、ひいては人生の支えとなり得る。本講義の目的は、英文で書かれた『歎異抄』を読むことによって、仏教の内容理解を深めることである。講義の方針として、親鸞聖人によって示された仏教思想を学ぶことにより、本校における建学の精神への知識を深め、親鸞聖人の体せられた仏教精神にもとづく人間教育の理解を深めるよう計画する。	
	地域と仏教演習	京都女子大学が立地する鳥辺野一帯は、古くから京都における重要な文化空間を形成してきた。宗教文化もその一翼を担っている。本講では、京女生らしい視点を生かしつつ、東山の多様な地域資源(歴史・文化・人・モノ・コト)を掘り起こしたWebコンテンツの作成を行う。これを通して、受講生は次の3点を身につける。(1)課題を発見し、調査し、主張を他者に的確に伝える力、(2)人間の営みに通底する宗教の意義についての理解、(3)他者との相互理解を丁寧に図る仏教的知識と態度。	
	社会と仏教特論	本講義の目的は、現代社会の課題について実際の活動などから知り、その上で、仏教の見方から現代社会の課題への処方について考えることとする。これから社会を歩む際に、自ら考え、仏教の考え方やあり方を知ることにより、自ら道を切り開いていく力をつけることを狙いとする。そして、自死(自殺)、対人支援、環境問題などの現代における社会課題を通して、自分自身の考え方やものの見方を明確にすることが、本講義の一つ目の目標である。その上で、仏教という新たな視座から社会課題への処方を考えることができるようになることが二つ目の目標である。本講義では、社会実践をしている多様なゲストを招いてお話を伺い、ゲストと講師との対話を通して、仏教のあり方や振る舞い方について学ぶ機会を提供する。人と人が関わる事の意義を実感し、これからの生き方を考える大切な経験をしていただきたいと考えている。	
教職に関する専門教育科目	教職論	公教育の担い手としての教職の意義と役割および職務内容、服務上・身分上の義務について歴史的・制度的観点から鑑みつつ、自らの視点で考えることをめざす。また、現職経験者から教職の実践について聞くことで現代の教育のあり方と自らの進路選択について考えていく。さらに生涯にわたって学び続ける教師をめざすために、子どもとの関係性の意義やそのリフレクションの必要性を学び、実際にリフレクションを行う。グループワークを中心とした授業形態を通じて、多様な考え方もった人と共にチームとして働くことの意味を実感的に理解する。中学校もしくは高等学校の教師を長く務めてこられたゲストスピーカーをお呼びし、現在の学校教育の状況と教師のあり方についてお話を伺い、教員の職務内容について理解すると共に現代の教師像について考察を深める。	
	教育原論	人間としての教育の必要性和可能性をその本質的な意義から検討する。さらに、教育が学校にとどまらず、家庭における教育、社会と教育という視点をもつことを学ぶ。その後、18世紀から19世紀にかけて誕生したとされる「教育されるべき子ども」とそれを対象とした近代学校制度の成立を中心として、古代から現代までの教育の歴史と教育思想家による思想を学び理解を深める。そして、近代教育に含まれる問題点を見つめ、海外との比較も含めてこれからの教育のあり方について自ら考える力をつけていく。	
	教育心理学	学校内外の教育場面で生じるさまざまな教育上の現象や問題を心理学的な観点から捉え、的確な対応方法を考案することのできる、基礎的な知識やものの見方を身につけることを目標とする。具体的には次の5点をめざす。 (1)子どもの心身の発達を規定する諸要因及びそれらの影響や、発達の過程・機序に関する代表的な理論に関する知識を身につける。その上で、人間発達の理解が教育者に欠かせないという認識を確立する。 (2)乳幼児期から青年期の各時期における発達の様相を、運動、言語、認知、社会性の各領域にわたり具体的に説明できる。 (3)学習とは何かという学習概念を明確化し、かつ人間の学習過程に関する代表的な理論に関する知識を身につけ、それらについて説明できる。 (4)学習の動機づけ、学級集団づくり、学習評価に関する心理学の知識を身につける。その上で、発達の各時期における子どもを主体的学習を支える環境について理解し論じることができる。 (5)個々の幼児、児童及び生徒の心身の発達を考慮しながら、各人の主体的な学習活動を支える指導の原理について理解し論じることができる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(データサイエンス学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教育行政学	本講義ではまず教育行政の理念、法制度、課題について理解する。さらにより視野を広げ、今日の学校、子ども達やその家庭がおかれている社会的な状況を理解し、子どものウェルビーイング(全体的な幸せ)を改善するのに必要な取り組み=学校や地域で子どもとその家庭を総合的に切れ目なく支援する学校や地域の在り方、そのための教育、福祉、経済政策・制度について学び、考え、展望する。そしてそこにおける自らの教師としての役割についても自覚する。学校の管理下で起こる事件、事故や災害の状況を踏まえ、その取り組みや対応について理解する。	
	教育課程論	本授業のテーマは、学習指導要領と教育課程の編成原理と教育課程編成・マネジメントについて学ぶということにある。よって、本授業の到達目標は次のとおりである。 (1) 学習指導要領についての基本的な知識・理解を身につける (2) 教育課程の編成原理について理解し、それぞれを関連付けて自ら教育課程編成について考えることができる (3) 教育課程編成の方法やマネジメントの方法について理解する。 本授業とその後のさらなる学びを経て、教育課程とは日々子どもたちと対面し共に学び生活している教師(集団)自身が自らの専門的力形成とその絶えざる更新を基盤として作成していくものであることを教師をめざす学生諸君が自覚し、そのために必要な力量を意識的に形成していく積極的な教育主体となりゆくことを期待する。現在の学習指導要領からではなく戦後初期の学習指導要領(その社会的背景を含めて)から始めて学習指導要領変遷史をたどる。通史的ではなく、学習指導要領の現状と問題点を考える上で有効な視点に絞って重点的に学ぶ。その上でコロナ禍下での子どもたちの現状と教育課程及びそれを担う教師の果たすべき役割を考える。最後にここまで考えてきた「表のカリキュラム」の背後にあるhidden curriculumについて考える。	
	特別支援教育論	この授業では、通常学級での対応が求められることも多い発達障害、軽度知的障害を中心としつつ、特別支援教育の対象となる種々の障害とその対応について基礎的な理解を得るとともに、そうした特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の教育を支える特別支援教育の理念と制度、教育課程の考え方などについて概説する。あわせて、障害以外の要因に由来する特別なニーズの存在と、その対応についても述べる。	
	道徳教育論	本講義では、学校教育における道徳教育および「特別の教科 道徳」の重要性について考察する。「道徳教育の理論」においてはソクラテス、ロック、カントの道徳教育思想を参考に、道徳の本質や道徳性の発達について考察する。また日本の道徳教育の歴史を概観する。「道徳の指導法」では、道徳教育の学習指導案作成や教材研究、模擬授業などの実践を行う。具体的には中学校各学年のそれぞれの教材を使用する。道徳教育の評価や指導法の在り方を考察し、道徳教育が学校教育において持つ意義を考察する。	
	特別活動及び総合的な学習の時間指導法	本講義では、特別活動の研究と総合的な学習の意義や各学校における目標および内容を定める際の考え方を理解する。さらに、両領域の共通性と固有性に着目し、各領域の目標・内容・評価の特色について学び取る「資料を読み取る活動」、両領域の関連を生かした事例・指導計画のよさについて学び取る「資料を読み解く活動」を併用した授業構成を採り、理論知と実践知との統合的理解を企図していく。具体的な到達目標は以下の通りである。 特別活動及び総合的な学習の時間の意義、教育課程における両領域の位置付け・役割を理解していること。 特別活動の総括目標・内容・評価の特質も理解し、特色ある事例のよさを読み取ることができること。 総合的な学習の時間の目標・内容の定め方と評価法を理解し、指導計画作成に必要な知識・技能を習得することを目指す。	
	教育方法論	現代社会において求められる教育方法・技術に関して、歴史的な教育方法上の論点を踏まえながら、それらの授業実践上の課題について理解し、現在のICT機器等の利用も含めて、効果的な教育方法・指導方法について検討し、具体的な指導計画の作成を通して、教育方法・技術に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。教育方法の歴史、授業と学習理論、教師・学習者・教材の関係性、コミュニケーション分析、カリキュラム編成等の教育方法・技術に関する基礎的な理解を図った上で、情報機器を活用した効果的な学習場面(習得型・活用型・探究型)について考えさせ、各自が設定した単元に関する具体的な学習指導案を作成させる。	
	生徒指導論	生徒指導は生徒の人格形成や生き方にかかわっている。学級経営、行事、授業、部活動等、いずれの場面においても、社会的関係性の中で生徒の成長を支える生徒指導の役割は大きい。本科目では、生徒指導および教育相談の意義と理論や、学級・学年・学校における社会的関係性の中で生徒指導を校内外の連携に基づいて協同的に行う方法や、教育相談に関する基本的な知識と態度について、講義(オンデマンドを含む)と演習により学ぶ。具体的な到達目標は以下の通りである。 ・「いじめ」や「不登校」を初めとする今日の生徒指導に関する諸問題を、教育課程、学校の体制、法令との関係において理解することができる。 ・生徒理解や生徒指導のよりよい方法を探究し、体系的に表現することができる。 ・学校における教育相談の意義を理解し、その基本的な技法や進め方を身につけている。 ・学校における教育相談やカウンセリングと生徒の人格形成との関連についての認識を形成することができる。	
	進路指導論	この授業では進路指導・キャリア教育が学校教育の中で行われる意義、進路指導・キャリア教育と学校における教育活動との関係、進路指導・キャリア教育を通して育まれる能力について解説する。その後、進路指導・キャリア教育における指導法や指導体制及び関係機関との連携の在り方について意見交流するなどし、実践に関するイメージを膨らませる。特に、進路指導・キャリア教育における指導のあり方として、集団指導として行う場合と、個別指導として行う場合、それぞれの指導法についての理解を促す。また、個別指導として進路指導・キャリア教育を行う場合に中心となるキャリア・カウンセリングの意義や方法、さらにその基礎となる教育相談の理論や基礎的知識、技法について、実習を交えて理解の定着を図る。	
	教育実習論	本科目では、平素の学校現場における教育実践を観察したり、教育活動に参加する「教育実習」に臨む前提条件として不可欠である教育実習の意義(よさ)や目的(何のために)、さらには内容や心得といったことについて理解する。また、教育実習の中で経験する研究授業を踏まえて、学習指導案の作成及び代表者による模擬授業を通して、授業評価等を検討し、より良い授業についての考察を共有して、教育実習における基礎的知識の習得を目標とする。	
	教育実習	高等学校で2週間に亘って教育実習を行なうことを通して、教育活動に必要な専門的知識・技能について実際の体験を積むとともに、教える立場から教育実践に関わって教育活動全体への認識を深め教師としての識見や教職への志望を確かなものにするをねらう。	
	中学校教育実習	中学校で3週間に亘って教育実習を行なうことを通して、教育活動に必要な専門的知識・技能について実際の体験を積むとともに、教える立場から教育実践に関わって教育活動全体への認識を深め教師としての識見や教職への志望を確かなものにするをねらう。	

授 業 科 目 の 概 要			
(データサイエンス学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教職実践演習(中・高)	4年間の教職課程の学びの総まとめとして、これまでの学びの振り返りをグループワークにて行い、教職実践演習で学ぶべき内容を明らかにする。その上で、教師としてのあり方を見据えて必要な学びを得ていくことをめざす。具体的には、①数学及び情報教育に関する授業実践、②生徒指導、③学級経営、④保護者・地域との連携の4分野にわたってグループワーク、討議を行いながら教師としての資質・能力を高めていく。 さらに、自らがどのような教師を目指すのかを改めて明確にし、教師としてのライフコースを描くことで未来のあり方を見据える。 (オムニバス方式/全15回) (58 村井尚子/2回) 4年間の教職課程の学びの振り返り、教職課程の学びを活かして教師になるために (② 林 邦好/3回) 教育実習における数学及び情報教育に関する授業実践の振り返り、数学及び情報教育に関する授業実践力を高めるための課題、数学及び情報教育に関する授業実践力を高めるために (54 松岡 靖/8回) 生徒指導の振り返り、生徒指導の実践と課題、生徒に寄り添った指導とは、学級経営の振り返り、学級経営の実践と課題、学級経営力を身につける、保護者・地域との連携の課題、保護者・地域との連携のあり方 (58 村井尚子/2回) 目指す教師像、教師としてのライフコースを描く	オムニバス方式
	人権教育論	「人権」は人が人たるにふさわしい「生活」を送り、お互いに認め合うという「文化」の中でこそ発現するものである。 「人権」の今日的な到達点を、憲法とともに、国際人権規約、女性差別撤廃条約、子どもの権利条約、障害者権利条約などの国際的な条約を素材に考えていく。さらに、「人たるにふさわしい」生活、人間の尊厳の確立のためには不断の「教育」が重要となる。このような人権教育は(1)人権としての教育(教育権の保障)、(2)人権についての教育(人権に関する知識の教育)、(3)人権のための教育(人権に関するスキルの教育)、(4)人権を大切にすること(人権に関する態度の教育)の四つに分類されるが、それぞれの在り方について、民族・国籍、ジェンダー・障害・貧困と差別などの問題と絡めて、人権の尊重の方向を検討することができるようにする。 講義形式で進めるが、必要に応じて資料配布やビデオ視聴を交え、また可能な限り受講生とのコミュニケーションを図りたい。	
	日本国憲法	第一に、憲法を通じて国の仕組みを理解してもらうこと、第二に、その中でも教員を志す学生にとって重要になる、人権保障について理解してもらうことを目的としている。講義の中心となるのは、憲法の中でも人権保障の分野である。ここではまず、(1)なぜ憲法に人権保障が書かれているのか、憲法の歴史をひもときながら説明し、その後(2)各人権の中身を見ていく。信教の自由、表現の自由、生存権、教育に関する権利、幸福追求権を扱う。各人権の回では、どのような形でその人権が問題となるのか、実際の裁判の事例(判例)を見ていく。また、(1)(2)に必要な限りで、統治機関(国会・内閣・裁判所)についても説明する。	
図書館司書に関する科目	生涯学習概論	私たちは、学校や博物館、職場、家庭、地域社会など様々な場で経験を積み、家族や友人やいろいろな人たちとの付き合いをし、そのなかで様々なことを学んでいる。本科目では、このように多様な学習について、多角的に考えていく。生涯教育・学習に関する理念の理解とともに、生涯学習の事例や社会的課題の理解と考察を通して、生涯学習の多様性を理解することを目指す。自分自身の体験などを振り返りつつ、生涯学習の理念や意義について考える。	
	図書館概論	司書課程の総論的科目である本科目では、図書館を対象とする学問分野である図書館学・図書館情報学を学ぶ上で必要な基礎的知識を修得する。公共図書館を中心に館種ごとの図書館の現状を把握し、図書館の本質的な役割や現代社会における意義を概観した授業を行う。とりわけ、情報の生産・流通・処理・提供・利用・制度に関する基本的な考え方について講義する。具体的には次の3点を目指す。 (1) 図書館の社会的な意義、機能、役割を理解する (2) 図書館の種類と現状を理解し、説明できる (3) 現代社会における情報の生産・流通・処理・提供・利用・制度に関する基本的な考え方を理解する	
	図書館制度・経営論	図書館法および図書館関連法規の解説を通じて、主に公立図書館の法的基盤や様々な図書館活動の法的根拠を理解する。また、職員・施設・予算など、図書館経営に必要な各要素にまつわる知識を習得し、およびこれらに関する諸課題について認識を深める。公共図書館および図書館サービスの基盤となる各種法規とその構造を理解するとともに、実際的な管理運営方法に関する知識を習得することを目標とする。	
	図書館情報技術論	図書館のコンピュータやネットワークに関する基礎知識、OPACや検索エンジンを含めたデータベースの仕組みなどを学習し、業務上必要な基礎的な情報技術を習得する。これからの図書館と図書館員に深く関わる主題(デジタルアーカイブ、メタデータ、オープンデータ、情報倫理、著作権管理、二次利用など)を取り上げ、適切な情報活用のできる司書の知識を身につけていくことを目指す。その他、図書館のホームページを使ってデジタルアーカイブの現状を調査し、今後の課題を見極める。	
	図書館サービス概論	図書館サービスを資料提供サービス、情報提供サービス、利用対象者別サービスに大別し、それぞれの意義や技法について解説する。事例を挙げるなかで、それぞれのサービスに関する課題を検証し、図書館サービスのあり方について考える。いくつかの課題を通して各サービスについて確認することで、図書館サービスの意義や理念に関する理解を深める。具体的には次の3点を目指す。 (1) 図書館におけるサービスについて学び、最新の動向を知ることができる (2) さまざまな図書館サービスを知り、より良いサービスについて考えることができる (3) 利用者別サービスについて考案することができる	
	情報サービス論	「情報」とは何であるかについて最初に議論し、(1)パソコン上でデータベースを用いる情報検索サービスと、(2)図書館のレファレンスブックを用いるレファレンスサービスに大別して情報サービスの種類と特徴を解説する。学期末には、図書館の専門業務であるレファレンスとは実際どのようなサービスであるかを知るために、身近な図書館を訪問する機会を設ける。これらをふまえ、現在の図書館の情報サービスに不足しているものは何であるか整理し、これからの図書館に求められる情報サービスについて考えていく。	
	児童サービス論	本科目では、まず様々な研究成果に基づいた児童サービスの理論を概説し、その理念を具体的な形にして実現するための方法をレジュメ・実物・スライドなどで例示する。ときには実演も交えながら具体的に解説し、受講生が実技の一部を体験した後再び理論を確認する。また、国家資格である司書資格取得を前提とした科目であることから、理論と実践を意識的に結びつけることが重要である。講義とともに実習課題にも取り組み、双方を関連づけていく。	
	情報サービス演習	情報サービス論で学んだ内容を発展的に学習する。各回の演習を通して、様々な質問のタイプに応じて情報源を選択する能力を修得する。具体的には、大学図書館のHPからアクセスできるデータベースを用いた情報検索とパスファインダーの作成、大学図書館のレファレンスコレクション見学、レファレンスブックの選択と評価、レファレンスブックを用いた質問回答など、図書館を最大限活用した演習を行う。学期末のペア演習では、受講生が利用者として図書館員それぞれの立場に立ったレファレンスサービスを模擬体験する。	
	図書館情報資源概論	図書館サービスの重要な要素は、資料のコレクションである。近年ますます多様化してきた図書館資料の種類と特性を概観する。その上で、コレクションを形成するときの資料構成と資料選択を、資料ニーズや流通事情とともに理解する。また、収集方針やコレクション評価にも触れる。近年収集するときに重要となっているリソースシェアリング、分担収集、分担保存や、資料選択の自由にも触れる。資料管理として、装備、点検、除籍、廃棄についても論じる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(データサイエンス学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	情報資源組織論	公共図書館や学校図書館等、各種図書館における図書館情報資源の組織化、つまり、図書館の蔵書の一点一点がどのように把握され、一体として整理できるのか、という技術に関する理論を学ぶ。技術は、図書館書誌記述法(目録)、主題組織法(件名)、主題分析(分類)の3つの分野に及ぶ。それぞれ、書誌記述法では『日本目録規則』、主題組織法では『基本件名標目』、主題分析では『日本十進分類法』について解説し、知識を深める。また、ネットワーク情報資源の組織化としてMARCやメタデータ等の解説を行い、OPACやデータベースなどの仕組み・活用方法を理解する。	
	情報資源組織演習Ⅰ	演習形式。「情報資源組織論」で学んだ基本的な知識をもとに、「情報資源組織演習Ⅰ」では、資料種別ごとにさまざまな書誌的記録ができるようになることを目指す。まず、日本十進分類法(NDC)による主題分析と分類作業を行い、主題に応じた分類の仕方について演習を行う。次に、統制語の適用と実際について理解した上で、基本件名標目表(BSH)による件名作業を行い、主題に応じた件名付与の仕方について演習を行う。	
	情報資源組織演習Ⅱ	演習形式。「情報資源組織論」で学んだ基本的な知識をもとに、「情報資源組織演習Ⅱ」では、情報資源組織化の1つである主題目録法を理解し、司書・学校司書に求められる、主題分析および分類記号・件名の付与を行うための知識と技術の習得を目指す。具体的には、『日本十進分類法 新訂10版』と『基本件名標目表 第4版』を用いて情報資源の組織化(目録データの記述・排列、資料の主題分類、メタデータの作成など)の演習を行う。	
	図書館基礎特論	プロジェクト学習(Project Based Learning)。「図書館と地域」という視点から基礎科目で学習した領域の理解を深め、公共図書館の現状と課題、今後の展望を検討する。図書館見学や図書館調査、受講生同士のディスカッションを通して、図書館が現在直面している問題とは何か、これからの図書館は社会の変化にいかに対応してサービスしていくべきかについて考察する。基本的には図書館での実地調査を予定しているが、オンライン調査を取り入れるなど、状況に応じて調査の手法を変更する。	
	図書館サービス特論	現在公共図書館などで提供されている具体的なサービス内容に関して解説を行う。情報の民主化が進む現代において、図書館の将来はどうなっていくのか、建物としての図書館に縛られない図書館サービスとはどのようなものになるか、これからの図書館のあり方を考えていく。必修の各科目で学んだ内容を発展的に学習し、理解を深める観点から、図書館サービスに関する領域の課題を選択し、講義や演習を行う。とりわけ、地域連携型司書養成に力を入れ、「地域社会の課題やニーズを把握する能力」の習得を目指す。	
	図書館情報資源特論	図書館情報資源概論や図書館情報資源組織論で得た有形無形の情報資源の知識を元に、実習的に絵本の製作を行う。その過程での気付きを振り返り、体験的な学習とする。また、製作物は受講生同士で鑑賞し、図書館における情報資源の活用を検討する。体験的に行った活用を言語化することで、情報資源の価値を利用者へ伝える力を高める。具体的には、創作絵本の製作を通して、図書館情報資源の創作活動への活用、図書館情報資源の質(図書や小冊子類の表現手法、著作権ほか)を習得する。また、鑑賞を通して、利用者のニーズに応じた編集や構成についての視点を培う。	
	図書・図書館史	これまで「図書館概論」や「図書館サービス概論」で学んできた図書及び図書館の歴史に関して、更に知識、内容を深めることによって、図書館の存在意義やあり方について理解していく。また、連続と続く図書館の変遷を学ぶことを通して、今後の図書館の発展について考えていく。具体的には次の3つを目指す。 (1) 文字や記録メディアの発達と図書館の目的に関して知識を深める。 (2) 各国、各時代の図書館の意義・機能に関して知識を深める。 (3) 記録資料(図書及び、情報資源)について知識を深める。	
	図書館施設論	各回、教科書の指定の範囲を読み、課題に取り組み、その課題とレポートを提出する。資料として、教科書の重要箇所の解説、図書館内のレイアウトや家具の画像を配信する。各回の課題は、教員からフィードバックを与えるので、復習に使ってほしい。また、最終的に「読書をする・思考をするときの居心地の良さ」あるいは「災害に強い安心・安全な施設」について考え、最後の授業でレポートを提出する。このレポート作成に際し、可能な限り、実際の図書館施設・設備の状況を見に行ってもらいたい。	
	図書館総合演習	講義および演習形式。受講生は、自分たちが設計したプロジェクトを実行・修正・評価する過程を経て、地域における図書館の役割について考察する。具体的には、大学が所在する京都市東山区にサービスを行う東山区立図書館を拠点とした地域サービスの提案と実践を試みたい。大学図書館や公共図書館の関連資料、インターネット上の情報、図書館員や地域の人から得られた地域情報など、多様な種類の情報源を駆使した学習の進め方が本科目の特徴である。必要に応じてフィールドワークも行う。	
	図書館実習	図書館実習に必要な知識と実習館に関する基本的な知識を身に付けることを目標とする。具体的には、図書館に関する科目で得た知識・技術をもとに、事前・事後学習の指導を受けつつ、公共図書館業務を経験する。実務実習を通して司書の役割を理解し、これからの図書館サービスのあり方について考え、実践していく。実習前の事前学習では、関心のある図書館サービスに関する文献の紹介・発表を行う。実習後は、実習報告に基づき、図書館サービスの課題などについて討論する。	
学校司書及び学校図書館司書教諭に関する科目	学校経営と学校図書館	学校経営における学校図書館の理念と目的や役割についての現状と課題を把握する。学校図書館の計画的な経営と、学校図書館の機能・役割を生かした、学校の教育活動での具体例(読書指導や情報活用能力育成、教科・総合的な学習活動・特別活動での指導、特別な教育的ニーズに応じた学校図書館など)についての教材資料を基にして考え、司書教諭・学校司書として学校図書館の経営・運営の中核として担っていく役割と活動について考える。	
	学校図書館メディアの構成	学校図書館メディアの構成に関する理解及び実務能力の育成を図る。具体的には次の3点を目指す。 (1) 学校の教育目標をもとに学校図書館の運営目標・選書基準を立て、学校図書館に揃える資料を選ぶことができる。 (2) 学校図書館で目録作成ができる実務能力を身につける。 (3) 日本十進分類法の構造を理解し、学校図書館の方針にあった分類を付与できる。	
	学習指導と学校図書館	現代社会に求められる学校図書館法や行政施策、および学習指導要領の理解を深め、学校図書館教育の課題と学校図書館の機能や役割を生かした学校図書館の利活用、すなわち利用指導、読書の指導、情報活用能力を育成する指導等の具体的な実践について、実習・実技を通して学ぶ。また、その課題や指導上の留意事項について整理することを通じて学習指導と学校図書館の望ましい関わりについて展望する。	
	読書と豊かな人間性	情報化社会において、「読書」の解釈は拡大されてきている。伝統的な書物(紙媒体)を読むことを「読書」とみなした時代から、web上の情報(電子媒体)を読むことを「読書」とみなす時代へという歴史的な変遷を解説する。並行して、戦前・戦後の日本の学校教育における「読書」と「指導」の関係性の変遷を、海外との関係なども含めて説明する。学術的な観点では各分野の研究成果からの理論を概説し、実務的な観点では学校教育現場で実践するための方法を実物・実演などで例示し、受講生も一部を体験することで技術の習得をはかる。	
	情報メディアの活用	講義形式。情報メディアの意義と活用について論じる。現代社会はテクノロジーの進展に伴い、高度情報化しつつある。学校教育においてもコンピュータの活用やインターネットの効果的利用などが求められており、学校図書館は学習センターとしての新たな役割が期待される。司書教諭は、多様なメディアについての理解を持ち、情報リテラシーを活かした学校図書館の活用を教科学習に統合することが求められる。情報リテラシーを身につけたメディア専門職を想定し、インターネットによる情報検索と情報発信、学校図書館メディアと著作権の関係にも触れる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(データサイエンス学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	学校図書館サービス論	本科目は、「学校図書館法」に明記された学校司書を養成するための科目で、文部科学省が通知した「学校司書のモデルカリキュラム」の中で設定された科目である。学校図書館における学校司書の児童生徒及び教職員へのサービスの考え方や各種サービス活動について、現場における事例を盛り込みながら解説し、理論と実践双方の理解を図る。また、パフォーマンス課題等の問題解決学習や、ピア&グループワーク等で、受講生の主体的・対話的で深い学びを実現する。従前からある司書教諭資格(国家資格)取得を前提とする科目ではないので注意すること。	
日本語教師に関する科目	日本語教育入門	日本国内で暮らす日本語を母語としない人々が増え続けており、日本語教育への期待が高まっています。この科目では、教科書や参考図書、および統計資料などを活用して、日本語教育をめぐる社会的な各分野(教育事情、歴史、制度、政策等)を概観する。そして語学教育に留まらない、日本語教育が現在の社会に果たすべき役割を理解するとともに、人としての学習者の背景を洞察する力を養う。さらに、外国につながる子どもに対する日本語支援の実例を知り、初歩的な日本語支援(「やさしい日本語」の作成)に取り組むことによって、多文化共生社会を実感させる。授業では可能な限りグループに分かれての討議を行い、討議の結果を共有する。	
	言語と社会	言語は、それを取り巻く環境、価値観、文化、社会などの影響を多大に受けている。また逆に、言語がそれらに影響を与えることもある。本授業では、教科書を用いて言語とこれらの要因がどのように関連し合っているのかを様々な側面から概観する。またその後、身近にあるデータを用いて言語事象を分析・考察し、言語や言語コミュニケーションに対する洞察力を養う。毎週、様々な課題をこなして提出させる。翌週、それについてのフィードバックを行う。そのため積極的な態度で出席することが必要である。	
	言語と心理	子どもは通常、母語を大きな困難なく習得すると言われている。それに対し、成人の第二言語習得は困難である。何年もの学習を経ても、母語の訛りが残ったり、文法の誤りを犯したりする。語彙の不足を感じることも多い。大人の第二言語習得は子どもの第一言語習得とどのように異なるのか。母語話者と学習者は、言語についてどのような知識を持ち、頭の中でどのような処理を行っているのか。言語のこのような側面を「言語の心理」と捉える。この分野の基礎的な知見を知っておくことは、効果的な外国語教育を計画・展開する上で必要不可欠である。授業では、教科書の該当箇所を解説するだけでなく、教科書の記述の元になった文献からデータを紹介し、可能な限り心理実験を再現する。さらに、これまで提唱されてきた主な外国語教授法の背景にある考え方も解説する。随所で日本語教育に与える示唆についてのディスカッションも行う。	
	言語と教育	日本語の文法に関する知識をもち、読み書きができれば、日本語を母語としない学習者に教えることができる。実は言語を教えるためには、総合的なマネジメント力と、言語に対する分析力および洞察力も必要である。この科目では、日本語教師とはどのような仕事なのか、授業を計画・実行するためにはどのような知識やスキルが必要なのかを、教科書や資料を活用して見出ししていく。さらに、実践を想定した課題として、教科書分析や教材作成に取り組む。これらの課題に取り組むときは、適宜グループに分かれての討議と討議した内容を発表・共有することも重視し、仲間とともに分析力、洞察力を養う。	
	日本語の構造	日本語という言語がもっているさまざまな特徴について、基本的な事項を見ていく。他言語との比較・対照、音声・音韻、文字・表記、語彙・意味、文法の分野から見た日本語の仕組みについて概観し、日本語教育に必要な日本語の基礎知識を習得することがこの授業の目的である。母語話者だからこそ、むしろ気が付かなかった日本語の特徴に驚くこともある。日本語教育では、日本語を母語としない学習者にどうすれば分かりやすく効率よく教えられるのかという観点から、日本語の構造を探究する。本授業では、高校までの国語の授業とは異なる新たな視点を獲得することができる。その新たな視点をもって分析力と洞察力を養い、日本語を捉え直すことを目指す。	
	日本語教育実習	教育実習は、主にガイダンス、授業見学、模擬授業、授業補助あるいは教壇実習、振り返りの順に進めていく。まず、実習先のクラスのコースデザイン・カリキュラムデザインを踏まえ、目的・目標を把握した上で授業見学に臨む。続いて模擬授業では、学習者の日本語能力等に応じて教育内容・教授方法を選択し教案を作成するとともに、学習者と内容・教授方法に応じた教材等を選択・作成する。そして、実際に学習者と対面する授業補助あるいは教壇実習では、模擬授業で行なった内容をさらに発展させて準備し、学習者に対する実践的なコミュニケーション能力・異文化間コミュニケーション能力を磨く。学習者の日本語学习上の問題を解決するために適切な指導する能力も養う。最後に振り返りでは、自らの授業をはじめとする教育活動を客観的に分析し、より良い教育実践につなげるための分析力・洞察力を養う。	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

学校法人 京都女子学園 設置認可等に関する組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
京都女子大学					京都女子大学				
文学部					文学部				
国文学科	130	—	520		国文学科	130	—	520	
英文学科	125	—	500		英文学科	125	—	500	
史学科	130	—	520		史学科	130	—	520	
発達教育学部				→	発達教育学部				
教育学科	190	—	760		教育学科	190	—	760	
心理学科	55	—	220		心理学科	55	—	220	
児童学科	105	—	420		児童学科	105	—	420	
家政学部					家政学部				
食物栄養学科	120	—	480		食物栄養学科	120	—	480	
生活造形学科	120	—	480		生活造形学科	120	—	480	
現代社会学部					現代社会学部				
現代社会学科	290	—	1,160		現代社会学科	250	—	1,000	定員変更(△40)
法学部					法学部				
法学科	120	—	480		法学科	120	—	480	
					<u>データサイエンス学部</u>				
					<u>データサイエンス学科</u>	95	—	380	学部の設置(認可申請)
	1,385	—	5,540			1,440	—	5,760	
京都女子大学大学院					京都女子大学大学院				
〈修士課程・博士前期課程〉					〈修士課程・博士前期課程〉				
文学研究科					文学研究科				
国文学専攻	6	—	12		国文学専攻	6	—	12	
英文学専攻	6	—	12		英文学専攻	6	—	12	
史学専攻	6	—	12		史学専攻	6	—	12	
発達教育学研究科				→	発達教育学研究科				
教育学専攻	6	—	12		教育学専攻	6	—	12	
心理学専攻	8	—	16		心理学専攻	8	—	16	
表現文化専攻	8	—	16		表現文化専攻	8	—	16	
児童学専攻	6	—	12		児童学専攻	6	—	12	
家政学研究科					家政学研究科				
食物栄養学専攻	6	—	12		食物栄養学専攻	6	—	12	
生活造形学専攻	6	—	12		生活造形学専攻	6	—	12	
生活福祉学専攻	4	—	8		生活福祉学専攻	4	—	8	
現代社会研究科					現代社会研究科				
公共圏創成専攻	6	—	12		公共圏創成専攻	6	—	12	
法学研究科					法学研究科				
法学専攻	5	—	10		法学専攻	5	—	10	
小計	73	—	146		小計	73	—	146	
〈博士後期課程〉					〈博士後期課程〉				
文学研究科					文学研究科				
国文学専攻	3	—	9		国文学専攻	3	—	9	
英文学専攻	3	—	9		英文学専攻	3	—	9	
史学専攻	3	—	9		史学専攻	3	—	9	
発達教育学研究科				→	発達教育学研究科				
教育学専攻	3	—	9		教育学専攻	3	—	9	
家政学研究科					家政学研究科				
生活環境学専攻	2	—	6		生活環境学専攻	2	—	6	
現代社会研究科					現代社会研究科				
公共圏創成専攻	3	—	9		公共圏創成専攻	3	—	9	
小計	17	—	51		小計	17	—	51	
大学院合計	90	—	197		大学院合計	90	—	197	